

愛知県美術館年報

目次 (Contents)

はじめにー活動の概要ー (Foreword)	07
基本方針 (Principles)	08
美術館沿革 (History)	10
主要記事 (Events)	11
利用状況 (Statistics)	12
所蔵作品 (Collection)	14
収集方針・収集状況 (Discipline and Statistics)	14
新収蔵作品 (New Acquisitions)	15
所蔵作品展 (Displays of Permanent Collection)	17
移動美術展 (A Touring Exhibition)	26
所蔵作品の管理 (貸出) (Loan of Collection)	28
保存・修復 (Conservation and Restoration)	33
企画展 (Exhibitions)	34
企画展 (Temporary Exhibitions)	34
テーマ展 (Small Displays held in the Permanent Collection Area)	51
教育普及 (Educational Service)	54
印刷物 (Publications)	55
講座 (Lectures)	55
ワークシート (Work Sheet)	57
友の会 (Membership)	57
博物館実習 (Art Museum Study)	58
調査研究 (Research)	59
ギャラリー (Galleries for Loan)	61
美術館利用案内 (Information)	64
施設概要 (展示・保存環境等) (Facilities)	65
組織図 (Organization)	67
関係委員会名簿 (Members of the Committees and the Personnel)	68
関係法規 (条例・規則等) (Laws and Regulations)	69

はじめに —活動の概要—

Foreword

愛知県美術館が再出発して四年目、1995年度の年報を発行いたします。前年にならって、本年度の当館の活動のあらましを以下に記しておきます。まず、美術作品の収集については、特に高橋由一《不忍池》(1880年頃)、小出楯重《蔬菜静物》(1925年)、オーギュスト・ロダン《歩く人》(1900年)を取得できたことを喜びたいと思います。いうまでもなく高橋由一は明治期洋画の開拓者であり、《不忍池》はその代表作の一つ、このような優作が市場に出るとは予想もしていませんでした。小出楯重については、すでに当館に初期の秀作《N婦人像》(1918年)が所蔵されていますが、この画家の本領が最もよく発揮された時期の静物画が加わることによって所蔵作品の展示に厚みを持たせることができるようになりました。ロダンの《歩く人》は、この彫刻家の作品展開の上できわめて重要なものであり、かつこのブロンズが1920年頃のきわめて質の高い鋳造であることに注目させられます。受贈作品で特記すべきは小松均《富士山(下)》(1977年)です。これは富士の裾野を描いたもので、第62回院展には山容そのものを描いた《富士山(上)》と上下一対の絵として発表されています。当館には事情あって《富士山(上)》のみが収蔵されていましたが、下の部分をご寄贈いただいたおかげで、ようやく本来のかたちで展示することが可能になりました。

所蔵作品展は、20世紀の美術の展開を理解でき、かつ当館が所蔵する優れた作品をできるだけ多く見ていただけるよう、年間四期に分けて展示替を行ってきていますが、会場の一部を使って小企画展(テーマ展)も催しています。本年度は9月から10月にかけての第三期に7と8の二室を使って「ベン・シャーンのドローイング」展を、10月の末からの第四期の前半に「堀美幸」展を行いました。

本年度の企画展は、まず19世紀末から20世紀初頭のウィーンの美術におよぼした日本美術の顕著な影響を跡付ける「ウィーンのジャポニスム」展から始まり、巨大な木版を刻み、それを手漉き和紙に摺るスイスの現代作家フランツ・ゲルチュの個展、英国ウィンザー城王立図書館に所蔵されるレオナルド・ダ・ヴィンチの貴重な素描群から人体解剖図に焦点を絞った「レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図」展、日本と韓国の現代作家の作品が肩を並べて展示されるということも、また名古屋市内の二つの公立美術館において同時に開催されるということも初めての試みとなった「環流—日韓現代美術展」、ついで「表現主義彫刻」と続き、最後はともに現在国際的にも評価の高いアメリカの建築家リチャード・マイヤーとフランク・ステラを取り上げた展覧会で終わりました。このうち「表現主義彫刻」は、これまでわが国には紹介されることの少なかったドイツ表現主義の彫刻を本格的に紹介したもので、残念ながら多数の観客を呼ぶことはできませんでしたが、ご覧いただいた方々からは非常に高い評価を頂戴しました。

当館の教育普及活動としては、まず上記の企画展に関連させて講演会や連続講座、あるいはシンポジウムを催してきていますが、県下の名古屋から離れた地域の方々のための当館所蔵作品による移動美術展も注目されてきています。本年度は二年目になり、10月東加茂郡足助町で開催し、6日間で3,823人の方々にご覧いただきました。友の会の活動も二年目に入り、企画展ごとの鑑賞会が好評を博しています。また、昨年度末の1995年3月に会報『空中回廊』が創刊されたのに引き続いて、本年11月に第2号が発刊されました。会員相互を、また会員と美術館とを結ぶ有効な媒体となることが大いに期待されることです。

8階ギャラリーの利用率は例年同様各展示室とも年間100%、多数のお申し込みをいただき調整に苦慮し、やむを得ずお断りせざるを得なかったところもありました。

最後に、本年度においても実にご多くの方々や関係機関のご協力とご支援をいただきました。ここに感謝の意を表しますとともに、今後とも当館の活動へのより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1996年12月

愛知県美術館長
浅野 徹

基本方針

Principles

美術館運営の基本方針

美術館の運営に当たっては、次に掲げる基本理念等のもと、県民に親しまれる事業展開を図ることとしている。

●基本理念

県民の芸術文化ニーズの高度化・多様化に応じていく美術館として、我々の生きる“現代の視点”に立ち、美術文化の動向とその新たな展開に積極的に取り組んでいく、“活動する”美術館をめざす。

●基本的性格

ア 美術文化の将来を切り拓く視点の確保

現代美術の動向を踏まえつつ、他の芸術分野との結びつきも含めた新しい美術文化動向に柔軟に対応する。

イ 中部圏の美術文化の発振力向上への寄与

中部圏を中心とする美術館等の協力と関係による活動のセンター的性格を有することにより、美術文化の発振力の向上に寄与する。

ウ 国際的な美術文化の交流の場

国際的な視野にたった美術文化の交流を促進する上で、わが国の拠点の一つとして活動し、その中から新たな創造の芽を育む。

エ 日常生活と美術文化がコミュニケーションする場の形成

日常生活の中で気軽に優れた美術に接することができ、その中で親しみや潤いの得られる開かれた美術館とする。

オ 県民の参加による積極的な活動の展開

あらゆる世代の県民が美術について知性・感性を磨き、また、創造の喜びを味わうことのできるような活動の場としての美術館をめざす。

カ 複合機能を活かした柔軟な活動の展開

複合施設としての芸術文化センターの一翼を担う美術館として、その諸機能を活かして他部門の協力のもと、施設枠を超えた機能・スペースの活用などにより、広がり多様性のある展示等を柔軟に展開する。

●事業展開

ア 収集・保存

旧美術館の30余年にわたるコレクションに加え、以下の収集方針のもとにコレクションの一層の充実をめざして収集に取り組んでいる。

(ア) 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解するうえで役立つ作品

(イ) 現在を刻印するにふさわしい作品

(ウ) 愛知県としての位置を踏まえた特色あるコレクションを形成する作品

(エ) 上記の作品・作家を理解するうえで役立つ資料

収集した美術品を良好な状態に保ち、後世に伝えて

いくために、作品の保存には十分な配慮が払われねばならない。そのため、5階及び6階に収蔵庫、5階に企画保管庫、修復室などの設備が設けられており、保存・修復の専門的な知識と経験をもった専門の学芸スタッフが配属されている。

イ 調査研究

作品収集や企画展開催の基盤となるのは、豊かな経験と知識を有する学芸スタッフによる専門的で幅広い研究活動である。研究用の施設として5階に撮影室と暗室、11階に研究資料室が設けられている。その他、調査研究に欠くことのできない文献資料は、貴重な「西洋美術文献資料」22,398冊を含め、1階のアートライブラリーに収蔵されている。

ウ 企画展示

美術館の企画による展覧会は、10階の展示室1～3で開催される。美術の様々な領域に目を向け、歴史に残る優れた芸術家の回顧や新しい美術動向の紹介など、多彩なテーマの企画展を概ね下記の方針に沿って開催している。

(ア) 20世紀美術を系統的に紹介する国際展

(イ) 世界の現代美術を紹介する国際展

(ウ) 時代・地域に限定されない国際展

(エ) 近代日本美術に関するテーマ展、回顧展

(オ) 現代日本美術に関するテーマ、個展

(カ) 愛知県、東海地域に関する美術展

(キ) 地域に関連の深い近現代作家の小規模展または学芸員の研究成果をもとにした小規模展

エ 所蔵作品展示

美術館が収集した作品は、10階の展示室4～8及び10階と12階に設けられた屋外展示スペースで、原則として以下の展示構成に基づいて公開している。

展示室4 20世紀前半の国内外の美術動向の展示

展示室5 20世紀後半の国内外の美術動向の展示

展示室6 音や光を伴う作品の展示、各種のテーマによる特集展示

展示室7 近現代日本画の展示

展示室8 20世紀版画・素描の展示

屋外展示スペース 屋外での展示が望ましい大型彫刻・立体の展示

展示室の一部に自然光を取り入れるなど、個々の作品を最適の条件のもとで鑑賞できるように配慮されている。これらの展示室、展示スペースを一巡することにより、20世紀初頭から今日に至るまでの国内外の美術の歴史的展開をたどることができる。また、各展示室の基本的性格に基づいたテーマ設定を行い、年間4

～6回の展示替えを行っている。

オ 教育普及

あらゆる世代の人々が美術に対する親しみと理解を深めることができるよう、以下の活動を行っている。

(ア) 10階ビデオテークでのAV機器による情報提供

54インチハイビジョンプロジェクター2台に企画展の見所や展示作品の解説、所蔵作品に関連するものなどのビデオソフトを放映し、作品鑑賞の手引としている。また、32インチハイビジョン受像機2台を備えた画像検索ブースでは、所蔵作品をはじめとする美術作品を、精細な静止画像と文字情報を組み合わせで紹介している。

(イ) 移動展

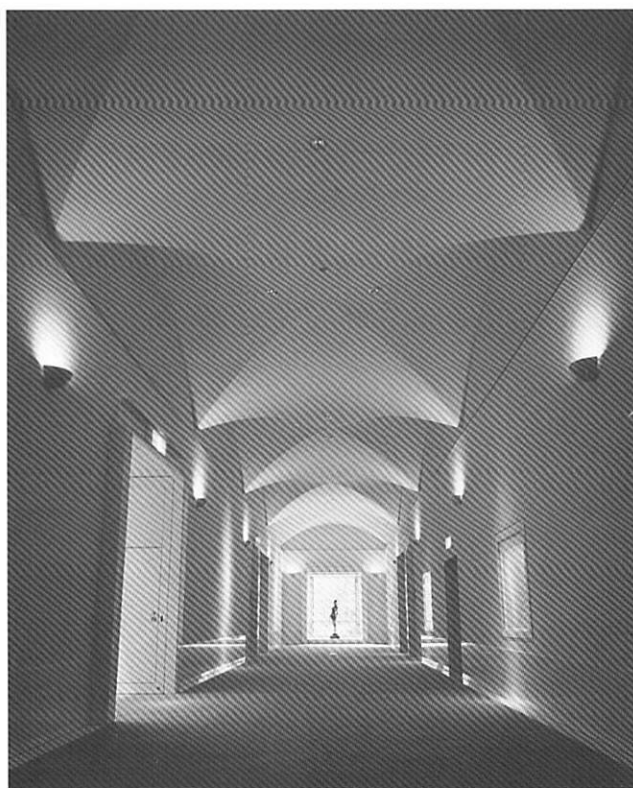
美術館の活動を日常的に利用することが困難な地域において、年に1回、所蔵作品の公開とこれに関連する講座・講演等を行う。

(ウ) 講座・講演会

12階のアートスペースにおいて、外部講師または当館学芸員による企画展に関連した講演会や様々なテーマによる定期講座を開いている。

カ ギャラリー

8階の展示室A～Jでは、公募展、団体展から地域の人々による作品発表まで多彩な展覧会が行われている。10室ある展示室は、展覧会の規模や性格に応じて自由に使い分けることが可能となっている。



美術館前室 (10F)



美術館ギャラリーロビー (8F)

美術館沿革

History

愛知県文化会館美術館	愛知芸術文化センター愛知県美術館
1952年 4 月 サンフランシスコ講和条約の発効に際し、講和記念事業文化施設基本計画樹立委員会設置 10月 愛知県文化会館懸賞競技設計募集開始 1953年 2 月 愛知県文化会館懸賞競技設計入選者発表 6 月 基本設計着手 1954年 2 月 美術館建設着工 1955年 1 月 美術館建設竣工 2 月 美術館開館 4 月 『愛知県文化会館美術館ニュース窓口』創刊 5 月 藤井達吉氏より1,460点の絵画・工芸品の寄贈 1957年 10月 最初の企画展「愛知総合文化財展」開催 1959年 4 月 ブールデル作《アルヴァール將軍の記念碑》のための4体のブロンズ像《力》《自由》《勝利》《雄弁》購入 1967年 7 月 最初の所蔵品展開催 1971年 3 月 『美術館所蔵品目録』発行 1975年 5 月 開館20周年記念事業として移動展「愛知県美術館所蔵名作展」開催 1979年 4 月 常設展示室開設 1985年 9 月 開館30周年記念・特別展「郷土の画家たちー愛知県美術館30年のあゆみ展」開催 1992年 2 月 常設展入場者数40万人達成 3 月 常設展示室閉室 10月 閉館	1983年 4 月 知事、記者会見で新文化会館の審議会設置を事務当局に指示した旨、発表 7 月 新文化会館(仮称)構想懇談会設置 1985年 3 月 建設基金条例設定 「新文化会館基本構想」提言 4 月 新文化会館建設事務局設置 7 月 新文化会館建設委員会に美術館部会設置 1986年 8 月 栄地区施設公開設計競技開始 11月 美術品収集計画研究会設置 1987年 5 月 栄地区施設最優秀作品発表 12月 栄地区施設基本設計終了 1988年 4 月 美術品等取得基金設置 6 月 美術品収集委員会設置 11月 栄地区施設実施設計終了 1989年 3 月 栄地区施設起工式 10月 「新収蔵作品展」開催 1991年 4 月 文化振興局設置 11月 第2回「新収蔵作品展」開催 1992年 4 月 愛知県美術館準備室開設 6 月 美術館運営会議・美術館ギャラリー運営会議設置 栄地区施設竣工 10月 美術館開館 開館記念展第1部「フォーヴィスムと日本近代洋画」開催 『美術館所蔵作品選』発行 1993年 1 月 開館記念展第2部「近代の日本画 西洋との出会いと対話」開催 2 月 開館記念展第3部「20世紀 愛知の美術」開催 3 月 『美術館所蔵作品目録』発行 5 月 第42回全国美術館会議総会開催会場 10月 センター開館1周年記念事業として「リール市美術館所蔵 バロック・ロココの絵画」展及び連続美術講座6回「バロック・ロココの芸術空間」開催 1994年 9 月 愛知県美術館友の会設立発起人会開催 10月 移動美術展「20世紀の美術」(開館後第1回)開催 友の会設立及び第1回鑑賞会(聖なるかたち展)開催

主要記事

Events

1995年 4月11日	—	5月14日	所蔵作品展第1期
4月11日	—	7月2日	企画展「ウィーンのジャポニスム」
4月20日			「ウィーンのジャポニスム」展友の会鑑賞会
5月10日			美術館運営会議
5月26日	—	7月2日	企画展「フランツ・ゲルチュ」
5月30日			「フランツ・ゲルチュ」展友の会鑑賞会
5月30日			友の会総会
6月2日			第1回収集委員会
7月14日	—	9月3日	所蔵作品展第2期
7月14日	—	9月3日	企画展「環流—日韓現代美術展」
7月16日	—	7月19日	燐蒸実施収蔵庫1及び展示室1—8
7月21日			1995年度第一回美術館ギャラリー運営会議
7月27日			「環流—日韓現代美術展」友の会鑑賞会
9月15日	—	10月15日	所蔵作品展第3期
9月15日	—	10月15日	企画展「ウィンザー城王立図書館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図」
9月15日	—	10月15日	テーマ展「ベン・シャーンのドローイング」
9月23日			「レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図」展友の会鑑賞会
10月4日			第2回収集委員会
10月24日	—	10月29日	移動美術展「愛知県美術館所蔵 20世紀の美術」開催
			足助町農業者トレーニングセンター
10月27日	—	1996年 4月14日	所蔵作品展第4期
10月27日	—	1月15日	企画展「表現主義彫刻」
10月27日	—	12月3日	テーマ展「堀 美幸」
11月2日			「表現主義彫刻」展友の会鑑賞会
1996年 1月25日			1995年度第2回美術館ギャラリー運営会議
2月2日	—	4月7日	企画展「リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画の接点」
3月7日			友の会理事会
3月7日			「リチャード・マイヤーとフランク・ステラー」展友の会鑑賞会

利用状況

Statistics

所蔵作品展 (92/10－96/4) Permanent Collection

展 覧 会 名		会 期		日数(日)	入場者(人)	1日平均(人)
1992年度	第1期	1992年10月30日－ 12月20日		45	42,876	952.8
	第2期	1993年 1 月 5 日－ 3 月28日		72	40,624	564.2
年 度 合 計				117	83,500	713.7
1993年度	第1期	1993年 4 月 2 日－ 7 月11日		82	131,976	1,609.5
	第2期	7 月16日－ 10月24日		84	60,155	716.1
	第3期	10月29日－1994年 1 月16日		63	48,232	765.6
	第4期	1994年 1 月25日－ 3 月13日		42	9,049	215.5
	第1期	3 月18日－ 3 月31日		12	7,206	600.5
年 度 合 計				283	256,618	906.8
累 計				400	340,118	850.3
1994年度	第1期(続き)	1994年 4 月 1 日－ 6 月 2 日		50	46,964	939.3
	第2期	6 月10日－ 9 月18日		83	114,227	1,376.2
	第3期	9 月23日－ 11月13日		46	30,170	655.9
	第4期	11月18日－1995年 3 月31日		100	136,793	1,367.9
年 度 合 計				279	328,154	1,176.2
累 計				679	668,272	984.2
1995年度	第4期(続き)	1995年 4 月 1 日－ 4 月 2 日		2	11,913	5,956.5
	第1期	4 月11日－ 7 月 2 日		69	51,573	747.4
	第2期	7 月14日－ 9 月 3 日		44	26,329	598.4
	第3期	9 月15日－ 10月15日		27	69,007	2,555.8
	第4期	10月27日－1996年 3 月31日		126	28,590	226.9
	第4期(続き)	1996年 4 月 1 日－ 4 月14日		12	3,337	278.1
年 度 合 計				268	178,836	667.3
合 計 <第 4 期(続き)を含む>				280	187,412	669.3
累 計				959	855,684	892.3

企画展 (92/10-96/4) Temporary Exhibition

年度	展覧会タイトル	会 期	日数(日)	入場者(人)	1日平均(人)
1992 年度	フォーヴィスムと日本近代洋画 Fauvism and Modern Japanese Painting	1992年10月30日 - 12月20日	45	41,343	918.7
	近代の日本画ー西洋との出会いと対話 Nihonga.Traditional-style Modern Japanese Painting	1993年 1 月 5 日 - 2 月11日	33	26,166	792.9
	20世紀愛知の美術 20th Century Art in Aichi	1993年 1 月19日 - 3 月21日	27	11,585	429.1
年 度 合 計			105	79,094	753.3
1993 年度	パウル・クレーの芸術 Paul Klee Retrospective	1993年10月30日 - 5 月23日	45	103,239	2,294.2
	小川芋銭展 Ogawa Usen Retrospective	6 月 4 日 - 7 月 4 日	27	26,106	966.9
	現代の陶芸1950-1990 Contemporary Ceramics 1950-1990	7 月16日 - 8 月22日	33	13,153	398.6
	安田靫彦 Yosuda Yukihiko Retrospective	9 月 3 日 - 10月17日	39	43,003	1,102.6
	リール市美術館所蔵ーバロック・ロココの絵画 De Veronese à Goya: Tableaux et dessins du Palais des Beaux-Arts de Lille	10月29日 - 1994年 1 月16日	63	47,042	746.7
	戸張孤雁と大正期の彫刻 Tobari Kogan and Modern Japanese Sculpture	1994年 1 月25日 - 3 月 6 日	36	7,996	222.1
	クプカ František Kupka	3 月18日 - 5 月 8 日	45	33,652	747.8
年 度 合 計			288	274,191	952.1
累 計			393	353,285	898.9
1994 年度	杉本健吉展 Kenichi Sugimoto Retrospective	1994年 5 月14日 - 6 月 2 日	17	19,568	1,151.1
	シカゴ美術館展ー近代絵画の100年 Masterworks of Modern Art from the Art Institute of Chicago	6月10日 - 7 月24日	38	89,204	2,347.5
	レジェ展 Fernand Léger	1994年 8 月 5 日 - 9 月11日	33	22,793	690.7
	聖なるかたち：後期ゴシックの木彫と板絵ー アーヘン市立ズエルモント＝ルートヴィヒ美術館所蔵 Heilige und Menschen.Suermondt-Ludwig-Museum, Museen der Stadt Aachen	9 月23日 - 9 月13日	37	27,976	756.1
	没後20年 香月泰男展 Kazuki Yasuo Retrospective	11月18日 - 1995年 1 月16日	46	27,164	590.5
	アンドリュース・ワイエス展 アメリカの郷愁ー心の風景を描く Andrew Wyeth Retrospective	2 月 3 日 - 4 月 2 日	51	120,177	2,356.4
年 度 合 計			222	306,882	1,382.4
累 計			615	660,167	1,073.4
1995 年度	ウィーンのジャポニスム Japonisme in Vienna	1995年 4 月11日 - 5 月14日	30	27,803	926.8
	フランツ・ゲルチェ Franz Gertsch	5 月26日 - 7 月 2 日	33	22,392	678.5
	環流ー日韓現代美術展 Circulating Currents-Japanese and Korean Contemporary Art-	7 月14日 - 9 月 3 日	45	25,072	557.2
	ウィンザー城王立図書館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図 Leonardo Da Vinci: The Anatomy of Man, Drawings from the Collection of Her Majesty Queen Elizabeth II	9 月15日 - 10月15日	27	68,439	2,534.8
	表現主義彫刻 Expressionist Sculpture	10月27日 - 1996年 1 月15日	64	12,428	194.2
	リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画と接点 Richard Meier and Frank Stella: Architecture and Art	1996年 2 月 2 日 - 1996年 4 月 7 日	57	16,599	291.2
年 度 合 計			256	172,733	674.7
累 計			871	832,900	956.5

所蔵作品

Collection

収集方針・収集状況 Discipline and Statistics

- (1) 収集方針

 - ・ 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
 - ・ 現在を刻印するにふさわしい作品
 - ・ 愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
 - ・ 上述の作品・作家を理解する上で役立つ資料

1995年度は収集委員会を2回開催し、16点の作品を購入し、2
- 点の作品の寄贈を受けた。その概要は次のとおりである。
- (2) 収集委員会の開催

 - ・ 第1回収集委員会 1995年6月2日
 - ・ 第2回収集委員会 1995年10月4日
- (3) 収集の状況

 - ・ 本年度までの収集の状況は次のとおりである。

美術品等収集状況

	94年度までの収集				95年度収集			95年までの総計		
	愛知県文化会館美術館の収集	新美術館準備のための収集	開館後の収集	計	購入	寄贈	計	購入	寄贈	計
〈国内〉										
日本画(JJ)	149	45	0	194	4	1	5	129	70	199
洋画(JO)	378	59	16	453	7	1	8	378	83	461
水彩・素描(JD)	309	134	11	454				375	79	454
立体(JS)	23	38	11	72				68	4	72
版画(JP)	101	207	6	314				277	37	314
資料	4	1	1	6					6	6
工芸その他	70	0	0	70				39	31	70
小計	1034	484	45	1536	11	2	13	1266	310	1576
〈海外〉										
絵画(FO)	15	24	5	44	1		1	41	4	45
水彩・素描(FD)	0	4	3	7				7	0	7
立体(FS)	6	13	3	22	2		2	22	2	24
版画(FP)	1	65	3	69				69	0	69
資料		1	1	2				1	1	2
小計	22	107	15	144	3		3	140	7	147
合計	1056	591	60	1707	14	2	16	1406	317	1723
藤井達吉コレクション	1460	—	—	—	—	—	—	—	1460	1460
総計	2516	591	60	3167						3183

表注記
愛知県文化会館美術館の収集は1987年度まで行われた。新美術館準備のための収集は愛知県新文化会館建設事務局及び文化振興局において1987年4月から1992年10月30日の開館まで行われた。開館後の収集は、1993年度以降の収集である。なお、藤井達吉コレクションとは、愛知県文化開館美術館開館時（1955年）に藤井達吉氏より寄贈された同氏の作品及び同氏が収集した絵画・工芸などの資料を指す。

凡例
作品については、全体は大きく日本の作品と海外の作品に分けられている。日本の作家の作品は、日本画（JJ）、洋画（JO）、水彩・素描（JD）、立体（JS）、版画（JP）、資料、工芸その他、藤井達吉コレクションの9部門に分類されている。海外の作家の作品は、絵画（FO）、水彩・素描（FD）、立体（FS）、版画（FP）、資料（FM）の5部門に分類されている。それぞれの作品に付けられた番号は、収集西暦年＋分類記号＋受け入れ順番号である。該当する作品の詳細データについては、「愛知県美術館所蔵作品目録 1993」及び「愛知県美術館年報 1993、1994」を参照されたい。

新収蔵作品

New Acquisitions

国内作家 Domestic Artists

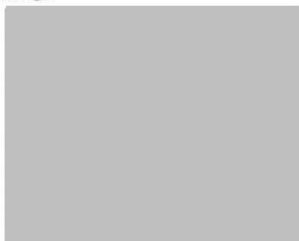
〈日本画／Japanese-style painting〉

鏑木清方 1878—1972

蛍

1938年 絹本着色 軸
69.3×86cm
右下に落款、印章
三越五作家新作展（1938年）
購入 1995-JJ-001

KABURAKI, Kiyokata
Firefly
1938 color on silk, scroll 69.3×86cm
signed and sealed lower right
Mitsukoshi Gosakka-ten (1938)
Purchased 1995-JJ-001



川合玉堂 1873—1957

湖畔晩帰

1928年 絹本着色 軸
54.3×87cm
右下に落款、印章
購入 1995-JJ-002

KAWAI, Gyokudo
Evening by a Lakeside
1928 color on silk, scroll 54.3×87cm
signed and sealed lower right
Purchased 1995-JJ-002



木島桜谷 1877—1938

灰燼

1927年 絹本着色、屏風（二曲一隻）
225×227cm
右下に印章
第8回帝展（1927年）
購入 1995-JJ-003

KONOSHIMA, Okoku
Ashes
1927 color on silk, 2-fold screen
225×227cm
sealed lower right
8th Tei-ten Exhibition (1927)
Purchased 1995-JJ-003

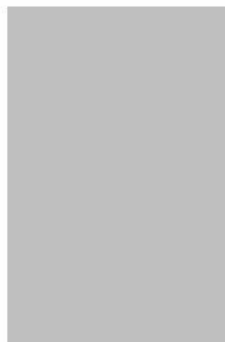


小松均 1902—1989

溪流

1929年 紙本着色 249×163cm
第10回帝展（1929年）
購入 1995-JJ-004

KOMATSU, Hitoshi
Torrent
1929 color on paper, framed
249×163cm
10th Tei-ten Exhibition (1929)
Purchased 1995-JJ-004



小松均 1902—1989

富士山（下）

1977年 紙本墨彩 95×367cm
第62回院展（1977年）
小松暢子氏寄贈 1995-JJ-005

KOMATSU, Hitoshi
Mt. Fuji (lower half)
1977 sumi on paper, framed
95×367cm
62th In-ten Exhibition (1977)
Gift of Nobuko Komatsu 1995-JJ-005



〈洋画／Western-style painting〉

神原泰 1898—

シンガポール・乳房 作品1

1972年 油彩、麻布 60.8×72.8cm
作者寄贈 1995-JO-001

KAMBARA, Tai
Singapore. Breast. Work 1
1972 oil on canvas 60.8×72.8cm
Gift of the artist 1995-JO-001



小出檣重 1887—1931

蔬菜静物

1925年 油彩、麻布 40×55cm
右上に署名
購入 1995-JO-002

KOIDE, Narashige
Still Life with Vegetables
1925 oil on canvas 40×55cm
signed upper right
Purchased 1995-JO-002

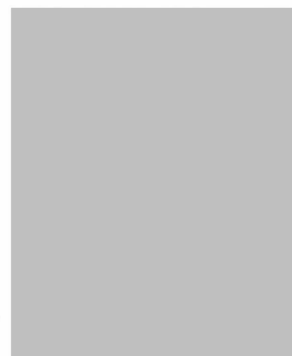


島田章三 1933—

人と植物のようす

1994年 油彩、麻布
162.1×130.3cm
右下に署名、年記
島田章三展（日動画廊、1994年）
購入 1995-JO-003

SHIMADA, Shozo
Human and Vegetations
1994 oil on canvas 162.1×130.3cm
signed and dated lower right
Shozo Shimada Exhibition (Gallery Nichido, 1994)
Purchased 1995-JO-003



清水登之 1887-1945
建築現場 (ワーガーデン)

1923年 油彩、麻布 76×96cm
第8回インディペンデント展 (1924年、ニューヨーク)
購入 1995-JO-004

SHIMIZU, Toshi
Building Site
1923 oil on canvas 76×96cm
8th Independent Exhibition
(1924, New York)
Purchased 1995-JO-004



松本陽子 1936-
光は荒野の中に拡散している

1993年 アクリル、綿布
188×273cm
松本陽子展 (アキラ・イケダ ギャラリー 1993)
購入 1995-JO-008

MATSUMOTO, Yoko
Light is Spreading over the
Wilderness
1993 acrylic on cotton 188×273cm
Yoko Matsumoto Exhibition (Akira
Ikeda Gallery, 1993)
Purchased 1995-JO-008



高橋由一 1828-1894
不忍池

1880年頃 油彩、麻布
67×97.2cm
天絵社月例絵展 (1880年、8月)
購入 1995-JO-005

TAKAHASHI, Yuichi
Shinobazu-no-ike
ca.1880 oil on canvas 67×97.2cm
Monthly Exposition of Tenkai-sha
(August 1880)
Purchased 1995-JO-005



海外作家 Overseas Artists

〈絵画／Painting〉

ヴェイヤー、エドゥアール 1868-1940
窓辺の女

1898年 油彩、厚紙・格子張り
28.5×42.5cm
左下に署名
購入 1995-FO-001

VUILLARD, Edouard
Woman by the Window
1898 oil on cardboard, cradled
28.5×42.5cm
signed lower left
Purchased 1995-FO-001

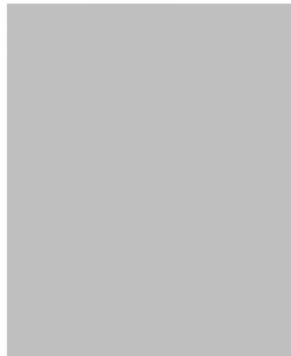


〈立体／Three-dimensional Production〉

辰野登恵子 1950-
Untitled 95-1

1995年 油彩、麻布 291×238cm
「日本の現代美術 1985-1995」展
(東京都現代美術館 1995年)
購入 1995-JO-006

TATSUNO, Toeko
Untitled 95-1
1995 oil on canvas 291×238cm
Exhibition "Contemporary Japanese
Art, 1985-1995" (Museum of
Contemporary Art, Tokyo 1995)
Purchased 1995-JO-006



アルプ、ハンス (ジャン) 1886-1966
星座

星座
1932年 木、彩色
50.6×56.2×3.6cm
購入 1995-FS-001

ARP, Hans (Jean)
Constellation
1932 wood, painted
50.6×56.2×3.6cm
Purchased 1995-FS-001



中村彝 1887-1924
静物

1915年頃 油彩、麻布・板に貼付
23.7×32.6cm
購入 1995-JO-007

NAKAMURA, Tsune
Still Life
ca.1915 oil on canvas 23.7×32.6cm
Purchased 1995-JO-007



ロダン、オーギュスト 1840-1917
歩く人

1900年 ブロンズ
59.2×85.5×26.9cm
台部上面中央に陰刻の署名
購入 1995-FS-002

RODIN, Auguste
The Walking Man
1900 bronze 59.2×85.5×26.9cm
signed at plinth center
Purchased 1995-FS-002



所蔵作品展 Permanent Collection

所蔵作品によって20世紀の美術を系統的に展示することを基本にして、4期の所蔵作品展を開催した。そのなかで展示室6を使用したテーマ展示などを実施し、所蔵作品展にも企画性を盛り込むよう工夫した。

1995年度の所蔵作品展実施状況

タイトル		会 期	日数	入場者数	一日平均
1995年度第4期（続き）		4月1日・2日	2	11,913	5,956.5
内 訳	企画展共通入場者数		2	11,881	5,940.5
	所蔵作品展のみの入場者数		2	32	16.0
1995年度第1期		4月11日－7月2日	69	51,573	747.4
内 訳	企画展共通入場者数		63	50,195	796.7
	所蔵作品展のみの入場者数		69	1,378	20.0
1995年度第2期		7月14日－9月3日	44	26,329	598.4
内 訳	企画展共通入場者数		44	25,072	569.8
	所蔵作品展のみの入場者数		44	1,257	28.6
1995年度第3期		9月15日－10月15日	27	69,007	2,555.8
内 訳	企画展共通入場者数		27	68,439	2,534.8
	所蔵作品展のみの入場者数		27	568	21.0
1995年度第4期		10月27－1996年3月31日	126	29,393	233.3
内 訳	企画展共通入場者数		115	26,060	226.6
	所蔵作品展のみの入場者数		126	3,006	23.9
1995年度第4期（続き）		1996年4月1日－4月14日	12	3,337	278.1
内 訳	企画展共通入場者数		6	2,967	494.5
	所蔵作品展のみの入場者数		12	370	30.8

	4 室	5 室	6 室	7 室	8 室
1 期	1 期 2 期共に特にテーマを定めない展示を行った。				
2 期					
3 期				テーマ展ベン・シャーンのドローイング	
4 期前期	20世紀の美術－1950年代まで－	戦後美術の展開	テーマ展堀 美幸 10/27－12/3	戦後の日本画	オットー・ディックス
		コーナー展示－戦後の具象絵画－	若林 奮 12/5－1996/1/28		
4 期後期	20世紀の美術－1950年代まで－	戦後美術の展開	平成7年度新収蔵作品	近代の日本画－新収蔵作品を中心に－	近代洋画の女性像
		コーナー展示－戦後の具象絵画－			

■1995年度展示作品リスト

作 家	生 没 年	作 品 名	制 作 年	分類(記号)
蜷 光	1907-1946	自画像	1934	J D
秋山 陽	1953-	Pho II	1990	J S
麻田鷹司	1928-1987	鬼界ヶ島	1982	J J
浅野弥衛	1914-1996	作品	1979	J O
麻生三郎	1913-	胴体と頭と電球	1964	J O
荒川修作	1936-	作品	1963	J O
荒木高子	1921-	砂の聖書	1983	J S
池田龍雄	1928-	作品56	1956	J D
池田龍雄	1928-	家来もしくは忠誠	1956	J D
池田龍雄	1928-	顔	1956	J D
池田龍雄	1928-	思慕鳥	1958	J D
池田龍雄	1928-	風景	1958	J D
池田龍雄	1928-	街	1958	J D
池田遥郎	1859-1988	稲掛け	1981	J J
伊藤清永	1911-	少女	1935	J O
伊東深水	1898-1972	大島の黎明	1916	J J
伊藤 廉	1898-1983	肘をつく女	1929	J O
稲葉 桂	1937-	土にかえるもの 65-1	1965	J O
今井瑠郎	1947-	大地	1992	J S
入江波光	1887-1948	南欧小景	1923	J J
上村松篁	1902-	玄鶴	1968	J J
宇佐見圭司	1940-	長い歩み	1964	J O
宇佐見圭司	1940-	ビッグ・バン	1987	J O
梅原龍三郎	1888-1986	若き羅馬人	1909	J O
瑛 九	1911-1960	黄色い花	1957-58	J O
瑛 九	1911-1960	田園	1959	寄託作品
海老原喜之助	1904-1970	雪山と樵	1930	J O
海老原喜之助	1904-1970	抽象的な裸像と顔など	1951	J D
海老原喜之助	1904-1970	母と子と顔かたちなど	1951	J D
海老原喜之助	1904-1970	抽象的な形と人	1953	J D
海老原喜之助	1904-1970	悲しみ	1955	J D
海老原喜之助	1904-1970	肘を上げる女	制作年不詳	J D
大沢鉦一郎	1893-1973	ジンベを着た少女	1920	J O
大沢鉦一郎	1893-1973	大曾根風景	1919	J O
岡鹿之助	1898-1978	窓	1949	J O
小川芋銭	1868-1937	沼四題 家鴨小屋	1922	寄託作品
小川芋銭	1868-1938	沼四題 小蝦網	1922	寄託作品
小川芋銭	1868-1938	沼四題 泥鰌打	1922	寄託作品
小川芋銭	1868-1938	沼四題 檜原	1922	寄託作品
荻須高德	1901-1986	線路に面した家	1955	J O
荻原守衛	1897-1910	女の胴	1907	J S
小田 襄	1936-	円柱の構造	1988	J S
オノサト トシノブ	1912-1986	三つの黒	1958	J O
小茂田青樹	1891-1933	漁村早春	1921	J J
小茂田青樹	1891-1933	柿	1919頃	J J
小山田二郎	1915-1991	ロマンス	1978	J D
小山田二郎	1915-1991	夏の虫	1978	J D
小山田二郎	1914-1991	愛	1956	J O
香月泰男	1911-1974	散歩	1953	J O
加藤昭男	1927-	大地	1886	J S
加藤東一	1916-	伝承	1982	J J
加納光於	1933-	繁み・運動・エレメント B	1988	J O
加山又造	1927-	黒い鳥	1957	J J
川合玉堂	1873-1957	湖畔晩帰	1928	J J
川崎千虎	1835-1902	佐々木高綱被甲図	1884	J J
川崎千虎	1835-1902	頼朝朽木隠れ	制作年不詳	J J
川崎千虎	1835-1902	夕涼み風景	制作年不詳	J J
神原 泰	1898-	生命の流動	1924	J O
神原 泰	1898-	シンガポール・乳房 作品1	1972	J O
岸田劉生	1891-1929	斎藤与里氏像	1913	J O
岸田劉生	1891-1929	高須光治君之肖像	1915	J O
北川民次	1894-1989	メキシコ三童女	1937	J O
北川民次	1894-1989	タスコからの眺望	1933	J O
北山善夫	1948-	はなはだ大きいと言うべきである	1984	J S
鬼頭鍋三郎	1899-1952	浴後	1938	J O
木村莊八	1893-1958	壺を持つ女	1915	J O
工藤甲人	1915-	坐忘	1982	J J
工藤哲巳	1935-1990	果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン	1977	J S
国吉康雄	1889-1953	帽子の女	1920	J O
久野 真	1912-	鋼鉄による作品	1982	J S
久米桂一郎	1866-1934	秋景	1892	J O

第1期前期	第1期後期	第2期	第3期	第4期前期	第4期後期	会期備考
			3室			
				6室	5室	
		1室				
			5室			
4室 5室 ロビー等	4室 5室	2室A		6室 5室 ロビー等	5室	10/27-12/10
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
			4室			
		1室			8室	
					8室	
ロビー等 屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース 4室	屋外展示スペース	屋外展示スペース	
				7室 5室	5室	
5室 4室 5室	5室 4室 5室		5室 5室			
		2室A	5室	5室	5室	
4室	4室	2室A				
			3室 3室 3室 3室 3室 3室			
4室	4室	2室A				
4室	4室	1室 1室 1室 1室				
4室	4室 3室					
屋外展示スペース 5室	屋外展示スペース 5室	屋外展示スペース 2室A 1室	屋外展示スペース 5室 4室	屋外展示スペース 5室	屋外展示スペース 5室	
7室 7室	7室 7室					
		2室A		6室 6室	5室 5室	
屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース 7室 5室	屋外展示スペース 5室	
5室	5室	1室	4室 4室 4室 4室		7室	
				4室	4室 6室	
4室	4室	2室A	3室 5室			
4室 1期ロビー等	4室				8室	
4室	4室		5室		8室 8室 7室	
				ロビー等		
4室 ロビー等	4室					
4室	4室	2室A	5室			

作 家	生 没 年	作 品 名	制 作 年	分類(記号)
黒田清輝	1866-1924	暖き日	1897	J O
桑山忠明	1932-	茶白青	1968	J O
小磯良平	1903-1988	婦人像	1965	J O
小出橋重	1887-1931	N婦人像	1918	J O
小出橋重	1887-1931	裸婦	1930	J D
小出橋重	1887-1931	蔬菜静物	1925	J O
河野通勢	1895-1950	自画像	1917	J O
古賀春江	1895-1933	夏山	1927	J O
古賀春江	1895-1933	川沿いの家	制作年不詳	J D
小嶋悠司	1944-	穢土	1985	J J
小杉放菴	1881-1964	花鳥屏風	1946-55頃	J J
木島桜谷	1927	灰燼	1927	J J
小林古径	1883-1957	洗濯場 その1	1926	J J
小林古径	1883-1957	洗濯場 その2	1926	J J
小松 均	1902-1989	溪流	1929	J J
小松 均	1902-1989	富士山 (上)	1977	J J
小松 均	1902-1989	富士山 (下)	1977	J J
古茂田守介	1918-1960	裸婦A	1957	J O
近藤弘明	1924-	幽光	1981	J J
近藤文雄	1938-	あいつ	1962	J D
近藤文雄	1938-	裁き	1962	J D
近藤文雄	1938-	さらしもの (3)	1964	J D
近藤文雄	1938-	M氏の肖像	1966	J D
近藤文雄	1938-	6人の盲人たち	1968	J D
近藤文雄	1938-	連なるとみえて	1975	J D
斎藤義重	1904-	ゼロイスト	1973(原作1950)	J O
斎藤義重	1904-	作品	1962	J O
坂本繁二郎	1882-1969	張物下絵	制作年不詳	J D
坂本繁二郎	1882-1969	海岸の家	1915	J O
佐々木四郎	1931-	閉ざされた空間Ⅲ M-5	1979	J O
佐分 真	1898-1936	裸婦	1925頃	J O
佐分 真	1898-1936	横たわる婦人	1932頃	J O
島田章三	1933-	石庭女人図	1976	J O
島田章三	1933-	人と植物の様子	1994	J O
清水登之	1887-1945	森に憩う人	1929	J O
清水登之	1887-1945	建築現場 (ワーガーデン)	1923	J O
下村良之介	1923-	鼓舞	1964	J J
菅井 汲	1919-1996	ナショナル・ルートNo.11	1964	J O
杉本健吉	1905-	正倉院	1976	J O
須田国太郎	1891-1961	夏	1941	J O
高田博厚	1900-1987	女のトルソ	1937	J S
高橋由一	1828-1894	厨房具	1878頃	J O
高橋由一	1828-1894	不忍池	1880頃	J O
田窪恭治	1949-	廢墟	1985	J S
竹内浩一	1941-	雨まじか	1983	J J
竹内栖鳳	1864-1942	狐狸図	1908頃	J J
辰野登恵子	1950-	Untitled 95-1	1995	J O
田淵俊夫	1941-	青木ヶ原	1969	J J
田淵俊夫	1941-	すぎばやし	1989	J J
鳥海青児	1902-1972	うづくまる	1954	J O
鳥海青児	1902-1972	石の街 (ペルー マチュピチュ)	1961	J O
土田麦僊	1887-1936	蓮華 (下図)	1930	J O
土谷 武	1926-	植物空間	1990	J S
堂本尚郎	1928-	絵画1962-25	1962	J O
戸張孤雁	1882-1927	をなご	1910	J S
戸張孤雁	1882-1927	立てる女	1911	J S
戸張孤雁	1882-1927	トルソ	1922	J S
戸張孤雁	1882-1927	煌めく嫉妬	1924	J S
戸張孤雁	1882-1927	女の面部	制作年不詳	J S
中西夏之	1935-	紫・むらさき・XIX	1983	J O
中原悌二郎	1888-1921	憩える女	1919	J S
中原悌二郎	1888-1921	平櫛田中像	1919-21	J S
中原悌二郎	1888-1921	エチュード	制作年不詳	J S
中村 彝	1887-1924	少女裸像	1914	J O
中村 彝	1887-1924	静物	1915頃	J O
中村 宏	1932-	内乱	1958	J O
難波田龍起	1905-	萌	1961	J O
野口弥太郎	1899-1976	門	1931頃	J O
野見山暁治	1920-	人 (男)	1954頃	J O
野見山暁治	1920-	伝承のかたち	1988	J O
橋本雅邦	1835-1908	秋景山水図	1887	J J
長谷川利行	1891-1940	酒売場	1927	J O
長谷川昇	1886-1973	靴下をはく女	1928	J O

	第1期前期	第1期後期	第2期	第3期	第4期前期	第4期後期	会期備考
	4室	4室	2室A	5室			
					5室	5室	
	4室	4室					
	4室	4室		5室		8室	
				3室			
						6室	
	4室	4室					
	4室	4室					
				3室			
			1室				
			1室				
						7室	
			1室				
			1室				
						7室	
						7室	
						7室	
					6室	5室	
			1室				
	7室	7室					
	7室	7室					
	7室	7室					
	7室	7室					
	7室	7室					
	7室	7室					
	5室	5室	2室C	5室	4室 5室	4室 5室	
				3室			
			2室A	5室			
					ロビー等		
	4室	4室	2室A				
						8室	
	5室	5室			6室	5室	
						6室	
	4室	4室					
			1室			6室	
					5室	5室	
					5室	5室	
	4室	4室					
	4室	4室					
			2室A				
	4室	4室					
						6室	
	6室	6室					
				4室			
				4室			
					ロビー等		
			1室				
					7室		
			2室A		6室	5室	
	4室	4室					
				4室			
					ロビー等		
	5室	5室			5室	5室	
		3室					
		3室					
		3室					
		3室					
		3室					
	5室	5室		5室	5室	5室	
		3室					
		3室					
		3室					
	4室	4室	2室A			8室	
						6室	
						5室	
	5室	5室		5室			
	4室	4室					
	1期ロビー等						
	5室	5室			5室	5室	
	4室	4室	2室A	4室 5室			
						8室	

作 家	生 没 年	作 品 名	制 作 年	分類(記号)
浜田知明	1917－	刑場A	1954	J P
浜田知明	1917－	人	1956	J P
浜田知明	1917－	地方名士	1958	J P
浜田知明	1917－	かげ	1962	J P
浜田知明	1917－	仮標	1954	J P
林 武	1896－1975	ノートルダム	1960	J O
速水御舟	1894－1935	西郊小景	1923	J J
原 裕治	1948－	アボクリファ No.1	1993	J S
東山魁夷	1908－	雪の山郷	1991	J J
稗田一穂	1920－	雨晴海岸	1982	J J
櫃田伸也	1941－	通り過ぎた風景	1982	J O
櫃田伸也	1941－	通り過ぎた風景	1991	J O
櫃田伸也	1941－	通り過ぎた風景	1991－93	J O
尾藤 豊	1926－	拠点の崩壊	1956－60	J O
平川敏夫	1924－	黄山松雨	1982	J J
藤島武二	1867－1943	和服の女	制作年不詳	J D
藤島武二	1867－1943	指をかむ女	制作年不詳	J D
藤島武二	1867－1943	午睡	制作年不詳	J D
藤島武二	1867－1943	縁日で	制作年不詳	J D
藤島武二	1867－1943	女の顔六態	制作年不詳	J D
藤田嗣治	1886－1968	青衣の女	1925	J O
堀内正和	1911－	四角と丸の組合せ b	1956	J S
本郷 新	1905－1980	無辜の民「油田地帯」	1970	J S
前田寛治	1896－1930	褐衣婦人像	1925	J O
松下春雄	1903－1933	二人のポーズ	1933	J O
松本竣介	1912－1948	ニコライ堂	1941	J D
松本哲男	1943－	火焔山残照	1985	J J
松本陽子	1936－	光は荒野の中に拡散している	1993	J O
三上 誠	1919－1972	黙示A	1954	J D
三上 誠	1919－1972	黙示B	1954	J D
三上 誠	1919－1972	胸の花 下絵 I	1954	J D
三上 誠	1919－1972	花の化石	1955	J D
三上 誠	1919－1972	作品	1958	J D
三上 誠	1919－1972	作品	1960頃	J D
三上 誠	1919－1972	カップサイズ	1965頃	J D
三上 誠	1919－1972	作品下絵	1968	J D
三上 誠	1919－1972	機構の生理 窓51	1970	J J
宮本三郎	1905－1974	家族	1956	J O
棟方志功	1903－1975	華狩頌	1954	J P
村井正誠	1905－	ゴルフジュアンの船	1929	J O
村上華岳	1888－1939	魔障之図	1923	J J
村山槐多	1896－1919	信州風景	1914－15頃	J D
元永定正	1922－	作品	1961	J O
百瀬 寿	1944	Square－NE XIV : Twelve Stripes E	1987	J O
森村宜福	1871－1938	四季草花図	1925頃	J J
森 芳雄	1908－	アクロポリス	1963	J O
森 芳雄	1908－	女たち	1954	J O
安井曾太郎	1888－1955	静物	1905	J D
安井曾太郎	1888－1955	婦人像	1912頃	J O
安井曾太郎	1888－1955	承德喇嘛廟	1938	J O
安田靉彦	1884－1978	月の兎	1934	J J
柳田義達	1910－	黒人の女	1956	J S
矢橋六郎	1905－1988	女の肖像	1936	J O
矢橋六郎	1905－1988	武蔵野 冬 杉林	1941	J O
山口 薫	1907－1968	ボタン雪と騎手	1953	J O
山口勝弘	1928－	ヴィトリース	1955	J S
山口長男	1902－1983	屏形	1963	J O
山口長男	1902－1983	庭	1935	J O
山下新太郎	1881－1966	白耳義の少女	1909	J O
山田正亮	1930－	Work No.B 182	1958	J O
山本丘人	1900－1986	幻雪	1978	J J
山元春孝	1871－1933	溪村暮霭図	1900頃	J J
横山大観	1868－1958	飛泉	1900頃	J J
吉岡堅二	1906－1990	鶴	1959	J J
吉田善彦	1912－	雨余桂林	1982	J J
若林 奮	1936－	大気中の緑色に属するものの制作ノート	1981－82	J D
若林 奮	1936－	大気中の緑色に属するもの I	1982	J S
脇田 和	1908－	断層の人と鳥	1960	J O
ジョーゼフ・アルバース	1888－1976	正方形頌	1962	F O
ハンス・アルプ	1886－1966	星座	1932	F S
ジャコモモ・バッラ	1871－1958	太陽の前を通過する水星 (習作)	1914	F D

第1期前期	第1期後期	第2期	第3期	第4期前期	第4期後期	会期備考
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
4室	4室					
		1室				
6室	6室			7室		
					7室	
5室	5室					
6室	6室					
6室	6室					
				6室	5室	
		1室				
			3室			
			3室			
			3室			
			3室			
4室	4室	2室A			8室	
		2室A				
				6室	5室	
4室	4室				8室	
					8室	
			3室			
			ロビー等	7室		
				ロビー等		
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
7室	7室					
		1室				
				6室	5室	
					7室	
				4室	4室	
			4室			
			3室			
				5室	5室	
5室	5室					
			4室			
				6室	5室	12/12-
4室	4室	2室A		6室	5室	
			3室			
		2室A	5室		8室	
4室	4室	2室A				
		1室			7室	
			ロビー室	ロビー等		
					8室	
		2室A				
4室	4室	2室A		6室	5室	
5室	5室					
				5室	5室	
5室	5室		5室			
		2室A			8室	
			5室	5室	5室	
		1室		7室		
			4室		7室	
			4室		7室	
				7室		
				7室		
				6室		
				6室		
4室	4室	2室A		6室	5室	
5室	5室				4室	
					6室	
5室	5室	2室B		4室	4室	

作 家	生 没 年	作 品 名	制 作 年	分類(記号)
エルンスト・バルラッハ	1870-1938	忘我	1911-12	F S
マックス・ベックマン	1884-1950	新年おめでとう	1917	F P
マックス・ベックマン	1884-1950	あくびをする人達	1918	F P
マックス・ベックマン	1884-1950	カフェミュージック	1918	F P
マックス・ベックマン	1884-1950	自画像	1919	F P
ビエール・ボナール	1867-1947	子供と猫	1906頃	F O
エミール＝アントワヌ・ブールデル	1861-1929	力	1914-15	F S
エミール＝アントワヌ・ブールデル	1861-1929	勝利	1916	F S
エミール＝アントワヌ・ブールデル	1861-1929	雄弁	1916	F S
エミール＝アントワヌ・ブールデル	1861-1929	自由	1916	F S
エミール＝アントワヌ・ブールデル	1861-1929	両手のベートーヴェン	1908	F S
エミール＝アントワヌ・ブールデル	1861-1929	ベネローブ	1908	F S
アレクサンダー・コールダー	1898-1976	片膝ついて	1944	F S
クリスト	1935-	旧ドイツ帝国国会議事堂の梱包	1986	F D
ニコラ・ド・スタール	1914-1955	コンポジション	1948	F O
ポール・デルヴォー	1897-1994	こだま	1943	F O
ジム・ダイン	1935-	芝刈機	1962	F S
ジャン・デュビュッフエ	1901-1986	二人の脱走兵	1953	F O
レイモン・デュシャン＝ヴィヨン	1876-1918	恋人たち	1913	F S
ラウル・デュフィ	1877-1953	サンタドレスの浜辺	1906	F O
ジェームズ・アンソール	1860-1949	悪魔の戦い	1888	F P
ジェームズ・アンソール	1860-1949	キリストのブリュッセル入城	1898	F P
マックス・エルンスト	1891-1976	ポーランドの騎士	1954	F O
ライオネル・ファイニンガー	1871-1956	無題	1923	F P
ライオネル・ファイニンガー	1871-1956	緑色の橋	1910-11	F P
ライオネル・ファイニンガー	1871-1956	ダースドルフ	1918	F P
ライオネル・ファイニンガー	1871-1956	夕暮れの海Ⅰ	1927	F O
ルーチョ・フォンターナ	1899-1968	空間概念	1960	F O
サム・フランシス	1923-1994	消失にむかう地点の青	1958	F O
ヴァシリー・カンディンスキー	1866-1944	たのしき飛翔	1823	F P
エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー	1880-1938	日の当たる庭	1935	F O
エルンスト＝ルートヴィヒ・キルヒナー	1880-1938	グラスのある静物	1912	F O
パウル・クレー	1879-1940	恋人	1923	F P
パウル・クレー	1879-1940	回心した女の墜落	1939	F O
パウル・クレー	1879-1940	喜劇役者	1904	F P
パウル・クレー	1879-1940	情熱の園	1913	F O
パウル・クレー	1879-1940	女の館	1921	F O
イヴ・クライン	1928-1962	肖像リレーフ アルマン	1962	F S
グスタフ・クリムト	1862-1918	人生は戦いなり (黄金の騎士)	1903	F O
オスカー・ココシュカ	1886-1980	夢見る少年たち	1908	F P
フランティšek・クプカ	1871-1957	灰色と金色の展開	1919	F O
ヴィルヘルム・レームブルック	1881-1919	立ち上がる青年	1913	F S
ジャーク・コモ・マンズー	1908-	ある主題によるヴァリエーション	1947-66	F P
アルベール・マルケ	1875-1947	ノートルダムの後陣	1902	F O
アンリ・マティス	1869-1954	待つ	1921-22	F O
ジョアン・ミロ	1893-1986	絵画	1925	F O
ラースロー・モホリ＝ナジ	1895-1946	無題	1923	F P
ラースロー・モホリ＝ナジ	1895-1946	コンストラクション	1922-23	F P
ラースロー・モホリ＝ナジ	1895-1946	コンストラクション	1922-23	F P
ラースロー・モホリ＝ナジ	1895-1946	コンストラクション	1922-23	F P
ルイズ・ニーヴェルスン	1900-1988	漂う天界	1956-66	F S
ベン・ニコルソン	1894-1982	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933	F O
エミール・ノルデ	1867-1956	静物Ⅰ (アマゾン、能面等)	1915	F O
パブロ・ピカソ	1881-1973	青い肩かけの女	1902	F O
アルナルド・ボモドーロ	1926-	飛躍の瞬間	1984	F S
エドワード・ジョン・ポインター	1836-1919	世界の若かりし頃	1891	F O
アントニン・プロハースカ	1882-1945	無題	1922	寄託作品
ロバート・ラウシェンバーク	1925-	コース	1958	F D
アド・ラインハート	1913-1967	No.114	1950	F O
オーギュスト・ロダン	1840-1917	歩く人	1900	F S
メダルド・ロッソ	1858-1928	病める子	1893	F S
エゴン・シーレ	1890-1918	うずくまる女 (しゃがみこむ女)	1914	F P
オスカー・シュレンマー	1880-1943	脚を組んだ抽象の人体像	1923	F P
ジョージ・シーガル	1924-	ロバート&エセル・スカルの肖像	1965	F S
ラインハルト・セビエ	1956-	病室から	1992	F D
ラインハルト・セビエ	1956-	思想家	1993	F D
フランク・ステラ	1936-	River of Ponds Ⅳ	1969	F O
アントニ・タビエス	1923-	コンポジション	1977	F O
ジャック・ヴィヨン	1875-1963	存在	1920	F O
エドゥワール・ヴェイヤール	1868-1940	窓辺の女	1898	F O
アンディー・ウォーホル	1928-1988	レディース・アンド・ジェントルメン	1975	F O
オシップ・ザツキン	1890-1967	チェロのトルソ	1956-57	F S
コルネリス・ジットマン	1926-	カリブの女	1983	F S

	第1期前期	第1期後期	第2期	第3期	第4期前期	第4期後期	会期備考
	I期ロビー等						
	8室	8室					
	8室	8室					
	8室	8室					
	8室	8室					
	5室	5室	2室B	5室	4室	4室	10/30-4/14
	ロビー等						
	ロビー等						
	ロビー等						
	ロビー等						
	I期ロビー等						
	I期ロビー等		ロビー等	ロビー等	ロビー等	ロビー等	
	I期ロビー等		ロビー等		ロビー等		
				6室			
			2室B	5室	4室	4室	
	5室	5室	2室B	5室	4室	4室	
	5室	5室	2室C		6室	5室	
	5室	5室	2室B		4室		
	I期ロビー等						
	5室	5室	2室B	5室	4室	4室	
	8室	8室					
	8室	8室					
	8室	8室	2室B	5室	4室	4室	
	8室	8室					
	8室	8室					
	8室	8室					
	5室	5室	2室B	5室	4室	4室	
				6室			
	5室	5室	2室C	5室	5室	5室	
	8室	8室					
	5室	5室					
	5室	5室	2室B	5室	4室	4室	
	8室	8室					
	5室	5室	2室B		4室	4室	
	8室	8室					
	8室	8室					
	8室	8室					
	8室	8室					
	5室	5室	2室C	6室			
	5室	5室	2室B	5室	4室	4室	
	5室	5室			4室	4室	
	5室	5室	2室B	5室	4室	4室	
	8室	8室					
	8室	8室					
	8室	8室					
	8室	8室					
	5室	5室	2室C	6室			
	5室	5室	2室B	5室	4室	4室	
	5室	5室			4室	4室	
	5室	5室	2室B	5室	4室	4室	
	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	
					ロビー等	ロビー等	
			2室B			4室	
				6室			
	5室	5室	2室C	5室			
						6室	
	I期ロビー等		ロビー等				
	8室	8室					
	8室	8室					
	5室	5室	2室C	6室	6室	5室	
	6室	6室					
	6室	6室					
	5室	5室	2室C	5室	5室	5室	
				5室	5室	5室	
	5室	5室	2室B		4室	4室	
				5室	4室	4室	
	5室	5室	2室C	ロビー等	5室	5室	
			2室B		ロビー等	ロビー等	
	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	屋外展示スペース	

移動美術展 A Touring Exhibition

愛知県美術館では、教育普及事業として、名古屋地区より遠隔地に住む県民のために、所蔵作品の中から作品を選び県内各地で移動美術展を開催している。

第1回の南知多町に続いて、今年度は愛知県東加茂郡足助町で、愛知県文化振興事業団、足助町、足助町教育委員会との共催で開催した。

(1) 名 称

愛知県美術館所蔵 20世紀の美術

(2) 主 催

愛知県美術館

愛知県文化振興事業団

足助町

足助町教育委員会

(3) 開催期間と開館時間

1995年10月24日(火)～10月29日(日)

(10時から19時まで、29日(土)のみ21時まで)

(4) 会 場

足助町農業者トレーニングセンター

(5) 観覧料

無料

(6) 展示内容ならびに展示点数

日本の近、現代の洋画を中心とし、これに彫刻と海外の作品も加え20世紀の美術の展開を紹介。46点を展示。(出品リスト参照)

(7) 教育事業

鑑賞ガイドの制作

主な作品の鑑賞ポイントを簡単に解説したガイドを三種類、制作した。

小学生1～3年生用と小学生4～6年生用。A4判。

中学生用。B4判。

(8) 入場者数……3,823人

(参考 足助町全人口10,523人の36.3%にあたる。)

10/24(火) 862名

10/25(水) 577名

10/26(木) 632名

10/27(金) 538名

10/28(土) 649名

10/29(日) 565名

(9) スケジュール

10/24(火)

10:30～10:50 開会式

11:00～12:00 記念講演会

「美術の見方、楽しみ方」展示作品を中心にー

浅野徹

126名

12:30～15:30 足助町内小・中学校展示解説 5校 224名

旭町内小学校展示解説 4校 71名

下山村内小学校展示解説 7校 134名

藤島、木本、村田

10/25(水)

10:00～15:30 足助町内小・中学校展示解説 5校 235名

旭町内中学校展示解説 1校 32名

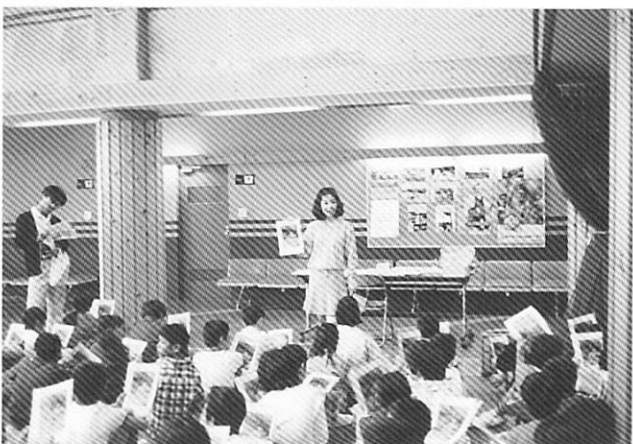
藤島、坪戸



展示風景



作品の前で友人と鑑賞する中学生



小学生に鑑賞前のガイダンス。ガイドの使い方などを簡単に説明した。

10/26(木)
10:00—15:30 足助町内小・中学校展示解説 4校 138名
旭町内中学校展示解説 1校 21名
藤島

10/27(金)
13:00—15:30 足助町内小・中学校展示解説 4校 173名
木本

10/28(土)
11:00—12:00 一般向け展示解説 木本 35名
映画会 美術映画「竹久夢二物語—恋する—」*
14:00—15:00 足助町内小・中学校展示解説 1校 65名
下山村内中学校展示解説 1校 30名
木本
(夜間開館21時まで)
19:30— 美術講座「美術の楽しみ」木本 42名

10/29(日)
11:00—12:00 一般向け展示解説 村田 35名
17:00— 演奏会「ソナーレ弦楽三重奏団」2回* 66名、78名
*関連事業であり、足助町で企画運営したもの。

THE COLLECTION OF AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART

秋あすアートステーション

愛知県美術館所蔵

20世紀の美術

〔主な展示作家〕 プールデル、ボナール、黒田清輝、岸田劉生、川口軌外、北川民次、荒俣誠三郎、建礼彦一郎、尾崎南光、小磯良平、三岸節子 など



1995年10月24日(火)～10月29日(日) 午前10時～午後7時(24日・19日正午から・29日・12時半まで)

会場／足助町農業者トレーニングセンター 【入場無料】

主催／愛知県美術館・財 愛知県文化振興事業団・足助町・足助町教育委員会

後援／豊田稲成工業都市町村園事務所瑞穂台・足助町文化協会

出品リスト

作家名	生没年	作品名	制作年
ビエール・ボナール	1867—1947	子供と猫	1906頃
エミール＝アントワヌ・プールデル	1861—1929	勝利	1916—1958
アンドレ・ボーシャン	1873—1958	フィアンセを訪ねて	1928
ジョーゼフ・アルバース	1888—1976	正方形顔	1962
高橋由一	1828—1894	厨房具	1878頃
黒田清輝	1866—1924	花と猫	1906
萩原守衛	1897—1910	女の胴	1907
岸田劉生	1891—1929	高須光治君之肖像	1915
坂本繁二郎	1882—1969	海岸の家	1915
太田三郎	1884—1969	婦人像	1915頃
佐伯祐三	1898—1928	自画像	1917
大沢鉦一郎	1893—1973	大曾根風景	1919
林 俊衛	1895—1945	サント・ヴィクトワール	1920
宮脇 晴	1902—1985	自画像	1920
戸張孤雁	1882—1927	煌めく嫉妬	1924
佐分 真	1898—1936	裸婦	1925頃
海老原喜之助	1904—1970	ゲレンデ	1930
小島善太郎	1892—1984	房州風景	1930
北川民次	1894—1989	メキシコ三童女	1937
安井曾太郎	1888—1955	承德喇嘛廟	1938
川口軌外	1892—1966	二婦	1939
矢橋六郎	1905—1988	牡丹	1946
岡田謙三	1902—1982	窓辺(ノクターン)	1948
岡鹿之助	1898—1978	窓	1949
村井正誠	1905—	天使	1950
児島善三郎	1893—1962	伊豆の海	1951
三岸節子	1905—	魚とインカの壺	1952
鬼頭鍋三郎	1899—1982	二人のバレリーナ	1952
島海青児	1902—1972	石の街(ペルー・マチュピチュ)	1961
森 芳雄	1908—	アクロポリス	1963
桂 ゆき	1913—1991	人と魚	1954
金山康喜	1921—1959	静物	1956
瑛九	1911—1960	黄色い花	1957—1958
福沢一郎	1898—1992	王、王妃及び見者	1959
難波田龍起	1905—	萌	1961
牛島憲之	1900—	埋れる船	1962
荻須高德	1901—1986	サン・ドニ	1964
里見勝蔵	1895—1981	風景(ベルヌイユの村)	1964頃
小磯良平	1903—1988	婦人像	1965
中川 一政	1893—1991	マジョリカ壺の向日葵	1968頃
杉本健吉	1905—	正倉院	1976
上田 薫	1928—	なま玉子G	1976
猪熊弦一郎	1902—1993	地図の中の日曜日	1979
舟越保武	1912—	シオン	1979
元永定正	1922—	しろいひかりのあか	1982
三尾公三	1924—	鏡の前	1982

所蔵作品の管理（貸出） Loan of Collection

所蔵作品の貸出状況

国内外の美術館等からの所蔵作品の貸出要請に対して、展覧会の内容とその意義、該当作品の保存状態、所蔵作品展の展示計画などを十分に考慮し、愛知県美術館所蔵作品貸出要領に則って作品の貸出を行った。

貸出の概要

分野	点数
日本画	37点
洋画	35点
版画	26点
素描	10点
立体	8点
工芸	4点
計	(56件分) 120点

海外の美術館への貸出 4件
5点（バレンシア近代美術館ほか）

貸出作品一覧

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場	展覧会会期
1. クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画52、美容	1995.4.1 - 1995.12.30	クルト・シュヴィッターズ展	バレンシア近代美術館 グルノーブル美術館	1995.4.1 - 1995.12.30 1995.9.16 - 1995.11.27
2. 徳田信保	玉陵	1995.4.1 - 1995.6.15	第72回春陽展 (徳田信保遺作展)	東京都美術館 愛知県美術館ギャラリー 大阪市立美術館	1995.4.23 - 1995.5.7 1995.5.30 - 1995.6.11 1995.6.20 - 1995.6.25
3. 平山郁夫	楼蘭の遺跡(昼)	1995.4.3 - 1995.5.20	平山郁夫展	奈良県立美術館	1995.4.8 - 1995.5.7
4. 三栖右嗣 國領経郎	道 風	1995.4.15 - 1995.6.10	洋画の展望 ―具象表現を中心に―	福井県立美術館	1995.4.28 - 1995.5.28
5. 北川民次 北川民次	メキシコ三童女 南国の花	1995.4.20 - 1995.6.15	アメリカン・シーンの日本人画家たち	練馬区立美術館	1995.4.29 - 1995.6.4
6. レイモン・デュシャン=ヴィヨン	恋人たち	1995.5.15 - 1995.9.30	オカルトと前衛:ムンクから モンドリアンまで 1900 - 1915.	シルン・クンストハレ フランクフルト	1996.6.3 - 1996.8.27
7. 里見勝蔵 里見勝蔵	裸婦 婦人像	1995.7.1 - 1996.3.20	生誕100年記念里見勝蔵展	京都国立近代美術館 鳥取県立博物館 目黒区美術館 郡山市立美術館	1995.7.18 - 1995.8.27 1995.10.6 - 1995.11.5 1995.11.18 - 1996.1.15 1996.1.27 - 1996.3.3
8. 桂 ゆき	人と魚	1995.7.12 - 1995.9.27	被爆50周年特別企画展 ヒロシマ以後	広島市現代美術館	1995.7.22 - 1995.9.17
9. 小出檣重 前田寛治	N夫人像 母の像	1995.7.22 - 1995.9.30	家族の肖像― 日本のファミリーポートレート	宮城県美術館	1995.8.5 - 1995.9.17

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場	展覧会会期
10. 恩地孝四郎 畦地梅太郎 山本鼎 谷中安規 北川民次 ジョルジュ・ブラック FOX	花 山男の像 漁夫 ゴンドラの月 メキシコの女	1995.8.1 - 1995.9.30	プリント・ワンダーランド 親と子でみる版と版画	平塚市美術館	1995.8.12 - 1995.9.10
11. ジョーゼフ ・アルパース	正方形頌	1995.8.1 - 1995.10.10	サインとイメージ —抽象美術への誘い	国立国際美術館	1995.8.14 - 1995.9.24
12. 藤井達吉	志野赤絵金彩四方皿3枚組 (藤井達吉コレクション) 1995.8.1 - 1995.10.18	1995.8.1 - 1995.10.18	瀬戸の陶芸 —1300年の歴史と今	愛知県陶磁資料館 三越、東京日本橋	1995.8.5 - 1995.9.28 1995.10.3 - 1995.10.8
13. 辰野登恵子	UNTITLED95 - 1	1995.8.28 - 1995.11.2	辰野登恵子 1986 - 1995	東京国立近代美術館	1995.9.15 - 1995.10.22
14. 後藤純男	春映法隆寺	1995.8.28 - 1995.11.21	後藤純男展	三越、東京日本橋 天満橋松坂屋、大阪 松坂屋美術館、名古屋	1995.9.5 - 1995.9.10 1995.10.19 - 1995.10.24 1995.11.9 - 1995.11.19
15. 安藤幹衛	救助	1995.9.1 - 1995.11.10	第80回記念二科会回顧展	大丸ミュージアム、東京 高島屋7階グランドホール、大阪	1995.9.7 - 1995.9.19 1995.10.19 - 1995.10.31
16. 鬼頭鍋三郎 片岡球子 嶋谷自然 平川敏夫 森 緑翠 小山 硬 田淵俊夫 河本 正 飯田史朗 富田保和 平松礼二 太田龍一	養老孝子 乙女 紅梅白梅 松の緑 若竹 富士 くず花 花菖蒲 舞 伊勢えび 巨椀讃 錦鯉	1995.9.7 - 1995.9.26	愛知県「長寿画」 原画二十人展	丸栄スカイル、名古屋 絵画サロン	1995.9.14 - 1995.9.19
17. 荒川修作 島田章三 中村 宏 三上 誠 三上 誠 三上 誠	作品 植物園(B) 内乱期 作品 作品 作品	1995.9.7 - 1995.10.30	現代美術の手法(1) —コラージュ	練馬区立美術館	1995.9.15 - 1995.10.22

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場	展覧会会期
18. 前田青邨 前田青邨 前田青邨	江島詣 雨の蘇州 稚児文殊	1995.9.8 - 1995.11.10	前田青邨展	名古屋市美術館	1995.9.15 - 1995.11.5
19. ボール・デルヴォー エドワード・ジョン ・ポインター	こだま 世界の若かりし頃	1995.9.11 - 1995.11.15	絵の中の女たち	群馬県立近代美術館	1995.9.23 - 1995.11.5
20. 小林古径 小林古径	洗濯場その1 洗濯場その2	1995.9.15 - 1996.2.5	近代日本画の 一世紀 1868 - 1968	セントルイス美術館	1996.10.26 - 1996.12.31
21. フランシス・ピカビア 糸巻き		1995.9.16 - 1996.7.16	フランシス・ピカビア :機械とスペイン娘	バレンシア近代美術館 アントニ・タビエス財団 (バルセロナ) パリ国立近代美術館	1995.10.5 - 1995.12.3 1995.12.19 - 1996.3.3 1996.4.30 - 1996.6.30
22. 高畑郁子	聖界	1995.9.20 - 1995.10.27	日本画・心象と幻想の 世界、高畑郁子	福井県立美術館	1995.9.29 - 1995.10.22
23. 小林和作 野口弥太郎 林 武	秋の山湖 門 婦人像	1995.9.20 - 1995.12.10	小林和作と美の交遊 —梅原龍三郎	尾道市立美術館	1995.10.8 - 1995.11.26
24. 林 重義 林 武	舞妓(赤) 石膏像のある静物	1995.9.23 - 1995.11.22	福沢一郎と昭和初期 の洋画	富岡市立 福沢一郎記念美術館	1995.10.7 - 1995.11.12
25. 林 武	ノートルダム	1995.9.30 - 1995.11.15	かわらの美	高浜市やきものの里 かわら美術館	1995.10.7 - 1995.11.5
26. 安田靉彦	月の兎	1995.10.20 - 1995.12.5	紫紅と靉彦	横浜美術館	1995.10.28 - 1995.11.23
27. 伊東深水 河野通勢 戸張孤雁 戸張孤雁 中原悌二郎 藤井達吉 河合卯之助 河合卯之助	大島の黎明 自画像 立てる女 おなご 憩える女 木版 あざみ (藤井達吉コレクション) 葡萄文 蓋物 (藤井達吉コレクション) 筆筒 (藤井達吉コレクション)	1995.10.16 - 1995.12.15	1910年代の日本美術	三重県立美術館	1995.10.28 - 1995.12.3

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場	展覧会会期
河合卯之助	茶碗 (藤井達吉コレクション)	1995.10.16 - 1995.12.15	1910年代の日本美術	三重県立美術館	1995.10.28 - 1995.12.3
木村莊八	壺を持つ女				
28. アド・ラインハート	No.114	1995.10.20 - 1996.2.20	現代美術への視座Ⅳ 絵画、唯一なるもの	東京国立近代美術館 京都国立近代美術館	1995.11.3 - 1995.12.17 1996.1.8 - 1996.2.12
29. 平山郁夫	楼蘭の遺跡(昼)	1995.10.24 - 1996.12.6	平山郁夫展	香川県文化会館	1995.11.3 - 1995.11.26
31. 加山又造	黒い鳥	1995.10.25 - 1995.12.25	加山又造展	富山県立近代美術館	1995.11.2 - 1995.12.17
32. 片岡球子 守屋多々志	面構(国貞、種彦) 聴聞(北条政子)	1995.10.30 - 1995.11.6	創立30周年記念美術学部 教員展(愛知県立芸術大学)	愛知県美術館ギャラリー	1995.10.31 - 1995.11.5
33. 中村 彝	少女裸像	1995.10.31 - 1995.12.10	中村 彝展	小田急美術館	1996.11.15 - 1996.12.3
34. 麻生三郎 荻須高德 下村良之介	胴体と頭と電球 サン・ドニ 鼓舞	1995.12.11 - 1996.4.13	よみがえる1964年	東京都現代美術館	1996.1.12 - 1996.3.24
35. 中根 寛	黎明(名古屋城)	1995.12.25 - 1996.1.21	幸田町立図書館開館記念 中根寛展	幸田町立図書館	1996.1.5 - 1996.1.18
36. 望月春江	ぶどう	1995.12.26 - 1996.2.20	開館記念特別新春展 瓦と花	高浜市やきものの里 かわら美術館	1996.1.13 - 1996.2.11
47. 森田沙伊	生	1996.1.16 - 1996.3.12	伸びゆく生命一軌題 “笛”に寄せて—	式年遷宮記念神宮美術館	1996.1.24 - 1996.3.3
48. エルンスト・バルラッハ エルンスト・バルラッハ エーリッヒ・ヘッケル エーリッヒ・ヘッケル E・L・キルヒナー E・L・キルヒナー ケーテ・コルヴィツ ケーテ・コルヴィツ ケーテ・コルヴィツ W・レームブルック W・レームブルック エーリッヒ・ヘッケル エーリッヒ・ヘッケル	忘我 母なる大地Ⅱ 疲れ 第1回現代ドイツ美術展ポスター グラスのある静物 三本の道 青い服の女工 恋人たちⅡ 死の膝に抱かれた女 立ち上がる青年 母と子(幻影Ⅱ) 無題(表紙) フレンツィ	1996.1.16 - 1996.4.4	表現主義彫刻	新潟県立近代美術館	1996.2.9 - 1996.3.24

No.作家名	作品名	貸出期間	展覧会名	会場	展覧会会期
エーリッヒ・ヘッケル	眠れる男	1996.1.16 - 1996.4.4	表現主義彫刻	新潟県立近代美術館	1996.2.9 - 1996.3.24
E-L・キルヒナー	男と女				
E-L・キルヒナー	坐せる裸婦				
M・ベヒシュタイン	坐せる男				
M・ベヒシュタイン	女曲芸師				
M・ベヒシュタイン	水遊び				
シュミット=ロットルフ	草刈る人				
49. 山口勝弘	港No.2	1996.2.1 - 1996.4.15	ひかる・うごく・おとがする	和歌山県立近代美術館	1996.2.24 - 1996.3.31
50. ジャン ・デュビュッフェ	二人の脱走兵	1996.2.13 - 1996.4.12	冒険美術—大地のささやき	滋賀県立近代美術館	1996.2.24 - 1996.3.31
戸谷成雄	地霊				
51. ルーチョ ・フォンターナ	空間概念	1996.2.14 - 1996.3.31	親と子のための 現代美術入門	群馬県立近代美術館	1996.2.24 - 1996.3.24
52. 上村松篁	玄鶴(一対)	1996.2.27 - 1996.4.5	上村松篁展	新宿三越美術館	1996.3.6 - 1996.3.31
		1996.6.12 - 1996.6.28		名古屋三越	1996.6.19 - 1996.6.24
53. オスカー・ココシュカ	夢みる少年たち	1996.3.15 - 1996.5.10	ヨーゼフ・ホフマン とウィーン工房	豊田市美術館	1996.3.20 - 1996.5.6
54. 安井曾太郎	人物立像	1996.3.20 - 1996.5.31	安井曾太郎展	兵庫県立近代美術館	1996.4.6 - 1996.5.19
安井曾太郎	人体立像				
安井曾太郎	人体坐像				
安井曾太郎	風景				
安井曾太郎	風景				
安井曾太郎	人体立像				
安井曾太郎	静物				
安井曾太郎	静物				
55. 戸張孤雁	足芸	1996.3.25 - 1996.7.24	サーカスがやって来た!	神奈川県立近代美術館	1996.4.6 - 1996.5.6
戸張孤雁	足芸			兵庫県立近代美術館	1996.6.1 - 1996.7.14
フェルナン・レジェ	サーカス				
56. 守屋多々志	聴間(北条政子)	1996.3.25 - 1996.5.25	歴史の旅人	茨城県近代美術館	1996.4.6 - 1996.5.12
守屋多々志	大原寂光		—守屋多々志展		

保存・修復 Conservation and Restoration

作品の保存状態の把握を進め、対策を必要とする作品の処理を行った。また、借用作品、収集候補作品の保存状態把握にも努め、所蔵作品の保存環境とともにその維持管理に努めた。

- ア 所蔵作品の館外専門家への調査委託作品 8点
- イ 所蔵作品の修復等・修復委託作品 4点

- ウ 企画展等の借用作品の点検と保存の環境の整備
- エ 阪神・淡路大震災で被災した美術館及び美術品の救援・調査活動
 - ・1995年10月13日 シンポジウム「阪神・淡路大震災と美術館をめぐって」(全国美術館会議主催)を愛知芸術文化センターアートスペースAを会場にして開催。

委託調査作品一覧 (館外の専門家への調査委託)

No.	作家名	作品名	制作年	技法材料	調査目的	調査者
1	清水登之	建築現場	1923	油彩、麻布	修復計画	創形修復研究所
2	松下春雄	草原	1928	油彩、麻布	修復計画	創形修復研究所
3	高橋由一	厨房具	1878	油彩、麻布	修復計画	創形修復研究所
4	高橋由一	不忍池	1880頃	油彩、麻布	修復計画	創形修復研究所
5	中村 彝	少女裸像	1914	油彩、麻布	修復計画	創形修復研究所
6	小出檣重	蔬菜静物	1925	油彩、麻布	修復計画	創形修復研究所
7	里見勝蔵	婦人像	1937	油彩、板	修復計画	創形修復研究所
8	青木繁	太田の森	1902	油彩、麻布	修復計画	創形修復研究所
9	コルネリス・ジットマン	カリブの女	1983	ブロンズ	修復計画	山岸鋳金工房

修復作品一覧

No.	作家名	作品名(技法材料)	種別	修復前の状態	修復内容	修復者
1	松下春雄	草原 (油彩、麻布)	洋画	汚れ、絵具層の剥離	洗浄、剥離の固定、充填 補彩	創形修復研究所
2	中村正義	おねえちゃん (絹本金箔着色)	日本画	絵具層の剥離、剥落	洗浄、剥離の固定、充填 補彩	創形修復研究所
3	柳原義達	風の中の鴉 (ブロンズ)	立体	金属着色の劣化	洗浄、金属着色のやり直し	現代彫刻センター
4	コルネリス・ジットマン	カリブの女 (ブロンズ)	立体	金属着色の劣化	洗浄、金属着色のやり直し	山岸鋳金工房 (館内修復)

企画展Temporary Exhibitions

愛知県美術館では20世紀の美術をコレクション形成の基本方針としているが、企画展に関してはコレクションの性格に沿ったものを中心にしつつ、幅広い時代・分野のものも取り上げることにしている。1995年度はそうしたことを念頭におきつつ、6回の企画展を開催した。日本の美術に関しては現代の韓国美術との比較の中で現代美術を取り上げた。19世紀末から20世紀初頭の重要な運動としてウィーンにおけるジャポニズムを、そして20世紀前半のドイツの表現主義彫刻を取り上げた。さらに、現代の作家ではスイスのフランツ・ゲルチュ、建築家リチャード・マイヤーと画家フランク・ステラを併せて紹介した。コレクションの枠を越えて美術史の流れを紹介する企画展の一環として、レオナルドの人体解剖図を紹介した。

	展覧会名	
1	ウィーンのジャポニズム Japonisme in Vienna	95/04/11 — 95/05/14
2	フランツ・ゲルチュ Franz Gertsch	95/05/26 — 95/07/02
3	環流—日韓現代美術展 Circulating Currents-Japanese and Korean Contemporary Art	95/07/14 — 95/09/03
4	ウィンザー城王立図書館所蔵 レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図 Leonardo da Vinci: Tha Anatomy of Man, Drawings From the Collection of Her Majesty Queen Elizabeth II	95/09/15 — 95/10/15
5	表現主義彫刻 Expressionist Sculpture	95/10/27 — 95/01/15
6	リチャード・マイヤーとフランク・ステラ—建築と絵画の接点 Richard Meier and Frank Stella: Architecture and Art	96/02/02 — 96/04/07

ウィーンのジャポニスム Japonisme in Vienna

会期：1995年4月11日（火）～5月14日（日） 30日間

主催：愛知県美術館／オーストリア国立工芸美術館／中日新聞社／中部日本放送

後援：オーストリア大使館／愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR東海

協力：日本航空

担当：村上博哉／栗田秀法

19世紀後半のヨーロッパに大量に流出した日本の美術工芸品は、単に一部の好事家たちの関心を引くにとどまらず、西洋の伝統的な規範とは異なる芸術のあり方をヨーロッパの芸術家たちに示し、彼らが新しい空間表現や対象把握の方法を模索するうえで大きな刺激となった。「ジャポニスム」と呼ばれるこのような現象については、日本でも1988年に国立西洋美術館で開かれた大規模な「ジャポニスム展」などを通じて、広く一般に知られている。1988年の「ジャポニスム展」は欧米における日本美術の影響を包括的に紹介した、いわば総論的な展覧会であったが、今回の展覧会「ウィーンのジャポニスム」は、ウィーンというひとつの都市に焦点を定め、その芸術が最も豊かに花開いた1890年代から第一次世界大戦までの時代に、どのような日本の美術品が知られ、いかなる影響を及ぼしたかをより深く考察するものであった。

ヨーロッパにおけるジャポニスムの中心地であったパリでは、北斎や広重らの浮世絵版画が愛好され、その大胆な構図や空間表現がとりわけ印象派の画家たちに強い刺激を与えた。つまりパリのジャポニスムは主として絵画の空間の問題であったと言える。こうした様相はもちろんウィーンにも認められるが、ウィーンのジャポニスムのより重要な面は、家具調度品や染色の型紙などを通じて、日本美術の装飾的な特質が注目されたことにあった。そして、その影響は絵画や版画ばかりでなく、デザイン、工芸、建築などきわめて幅広い領域に浸透した。すぐれた芸術家たちが多様なジャンルに手を広げ、美術と装飾のあいだの垣根を取り払って総合的な芸術を発展させたウィーンにおいては、純粋美術と応用美術という西洋的な区分を用いずに芸術を生活の中にとけ込ませる日本人の価値観はきわめて親しみやすいものであったと言える。

この展覧会はオーストリア国立工芸美術館（ウィーン）の東洋美術担当学芸員であるヨハネス・ヴィーニンガー博士と、日本におけるジャポニスム研究の第一人者である馬淵明子日本女子大学教授の監修のもとで企画・構成され、絵画・版画・デザイン・工芸・建築という多様なジャンルに及ぶウィーンの芸術家たちの作品と、19世紀後半にウィーンにもたらされた日本の

美術工芸品、計267点が集められた。出品作の約3分の2は、主催者に名を連ねたオーストリア国立工芸美術館の所蔵品である。東京、山口、名古屋、高松、鎌倉を巡回し、会場毎に出品作の入れ替えが行われ、当館では259点が展示された。当館のコレクションの中核をなすグスタフ・クリムトの《人生は戦いなり（黄金の騎士）》を生み出した文化的背景を紹介する、当



B1ポスター



B3ポスター

館にとってきわめて意義深い展覧会であり、また日本の美術を新たな目で捉え直す機会をも提供することができたと考える。

関連事業：記念講演会 4月15日（土）

演題：「ジャポニスムとウィーン」

講師：稲賀繁美（三重大学助教授）

総入場者数：27,803人（1日平均入場者数：927人）

展覧会巡回先：東武美術館

会期：1994年12月20日－1995年2月12日

総入場者数：52,662人

1日平均：1,145人

展覧会巡回先：山口県立美術館

会期：2月21日－3月26日

総入場者数：19,126人

1日平均：637人

展覧会巡回先：高松市美術館

会期：5月23日－6月25日

総入場者数：8,346人

1日平均：278人

展覧会巡回先：神奈川県立近代美術館

会期：7月1日－8月6日

総入場者数：10,471人

1日平均：372人

主要関連記事

【新聞】

小川潔：「展覧会訪問」『名古屋タイムズ』1995年4月11日

長谷川三郎：「「ウィーンのジャポニスム」展」

『日本経済新聞』1995年4月28日夕刊

Julia Cassim："Japonisme returns to Japan in fine form", *The Japan Times*, July 9, 1995.

カタログ：A4版変形（30.5×22.5cm）248頁

本文 「ヨーロッパ化した日本」

－ウィーンのジャポニスムに関する考察

（ヨハネス・ヴィーニンガー、村上博哉訳）

クリムトと装飾－ウィーンにおける絵画のジ

ャポニスム（馬淵明子）

「日本の影響は基本的にひとつの刺激に過ぎなかった」－ウィーンの版画芸術

（ヨハネス・ヴィーニンガー、村上訳）

「彼らがめざしていた多くのものは、すでに日本人たちがなし遂げていた」－1900年頃のウィーンの工芸に与えた日本の影響

（アンゲラ・フェルカー、斎藤郁夫訳）

ウィーン建築におけるジャポニスムの要素
（太田泰人）

ブリュッセルのストックレ邸におけるモザイク・フリーズのための下図

（ハンナ・エッガー、栗田秀法訳）

ブリュッセルのストックレ邸（三宅理一）

エミール・オルリック－ジャポニスムの源泉への旅（スザンナ・ビフラー、村上訳）

カタログ

（作品解説：ヨハネス・ヴィーニンガー、ハンナ・エッガー、エリカ・パトゥカ、スザンナ・ビフラー、ガブリエーレ・ファビアンコヴィッチ、アンゲラ・フェルカー、ライナルト・フランツ、太田泰人、栗田秀法、田中晴久、馬淵明子、水沢勉）

作家解説

関連年表（栗田秀法編）

資料抜粋

Bibliography（Johannes Wieninger）

主要邦語関連文献

テキスト英文（翻訳：アビゲイル・ライヤン＝プロハスカ、マーサ・マクリントク、鶴岡厚生）

Biographies

Texts from the time

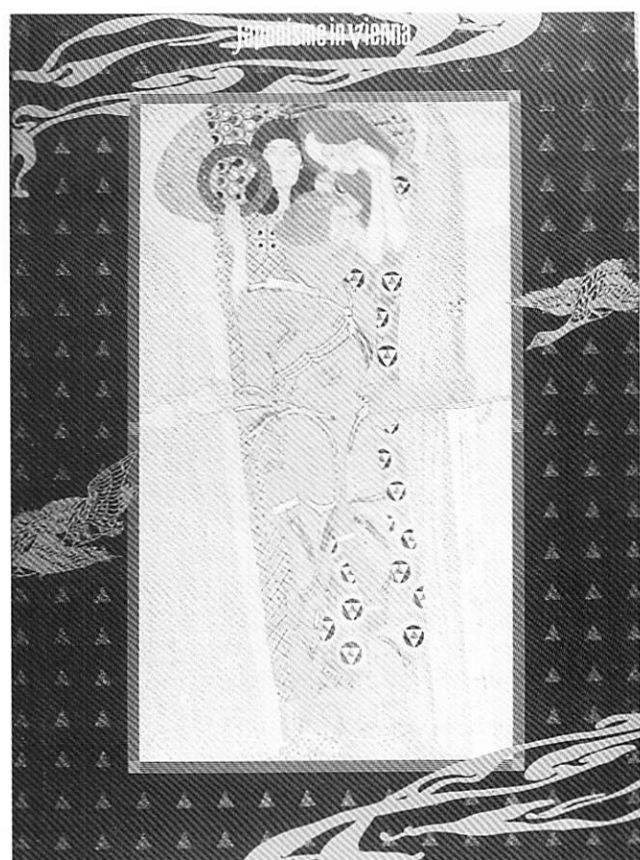
出品目録/List of Works

編集 東京新聞

制作 印象社

デザイン 米村隆

発行 東京新聞



カタログ表紙

フランツ・ゲルチュ Franz Gertsch

会期：1995年5月26日（金）～ 7月2日（日） 33日間

主催：愛知県美術館／日本経済新聞社／テレビ愛知

後援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR
東海

担当：寺門臨太郎／牧野研一郎

1930年にスイス、ベルン県メーリゲンに生まれたフランツ・ゲルチュは、すでに欧米において揺るぎない評価を得ている画家・版画家である。自ら撮影したスライドをプロジェクターで投影し、それをもとに作画するという手法は、いわゆるスーパー・リアリズムを連想させるが、ゲルチュの作品は実際にはアメリカの作家たちの仕事とは完全に一線を画している。彼の名を世界的なものとした巨大な画面の群像表現や肖像画には、彫塑的な造形感覚が顕著に認められ、ある瞬間を捉えた写真をもとにして長い時間をかけて彫られたのちに、凸レンズを馬連がわりにして手漉き和紙に摺りあげられた木版画は、単なる自然の再現を遥かに超えて、独特の情調をかもし出す抽象的な平面へと展開している。肖像画家として地歩を固めてきた作家が、モチーフの純粋さを追求しながら水、石、植物の葉へと視線を移していき、小さな刻点による単色の明暗対比だけで大画面を構成していることは、多くの人にとって新鮮な驚きであったろう。

この企画進行の端緒は、当館の開館記念展「フォーヴィズムと日本近代洋画」に際してレンパッハハウス・ミュンヘン市立美術館長のヘルムート・フリーデル氏が作家フランツ・ゲルチュを伴って名古屋の地をおとずれたこと、そして当館館長がかつてミュンヘンの美術館で氏の作品から強烈な印象を得ていたことが、ひとつのものとなった点にある。さらに加えて、「パウル・クレーの芸術」展で共同作業をおこなったベルン美術館のヨーゼフ・ヘルフェンシュタイン氏が自館でゲルチュ展を準備中であったことから、当館での開催は一層の現実味を帯びることとなった。内容は当館に先だって開催されたベルン美術館（バーデン＝バーデン美術館に巡回）での出品作品と基本的には同じでありながら、日本での最初の紹介という事情から、アクリル絵具による肖像画の代表作1点と新作の油彩によるドローイングを加えるものとなった。

彼の作品の支持体である越前和紙、そして京都で調達した顔料をもとにした媒体は、日本人にとって親近感を抱かせる大きな要因となっていた。そして、根本的な画面の構成方法や深淵な精神性など、日本の伝統的様式による絵画と対比することへと我々をいざなう要素をゲルチュの作品は十分に具えていた。結果的に、日本ではまったく無名の実存と言っても差し障りのない作家の個展に一日平均700人に迫る鑑賞者が訪れ、主催者

にとっては良い意味で当初予想を裏切られるものとなった。

出品点数：絵画1点、版画21点、ドローイング3点。計25点。

関連事業

記念講演会 6月3日（土）

演題：「フランツ・ゲルチュの芸術」

講師：寺門臨太郎（愛知県美術館学芸員）

総入場者数：22,392人（1日平均入場者数：679人）

巡回なし

主要関連記事

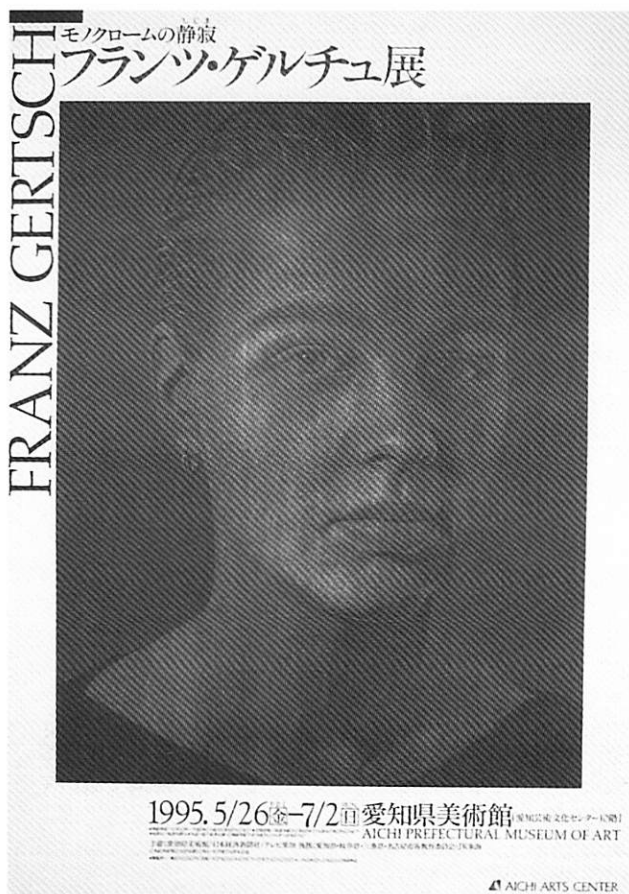
【新聞】

（○）：「フランツ・ゲルチュ展」『京都新聞』

1995年6月17日朝刊、第18面

長谷川三郎：「フランツ・ゲルチュ展、壮大な木版の世界」

『日本経済新聞』1995年5月26日夕刊（中部版）



B1ポスター

(author unknown) : "Natural Expansion", *The Daily Yomiuri*,
June 23, 1995, p.14

Julia Cassim: "A State of Spiritual Calm and Grace, Larger than
Life", *The Japan Times*, June 25, 1995, p.15

カタログ：A4判変形（285×233mm） 103頁

本文 フランツ・ゲルチュとの出会い

ー《ナターシャIV》と

《シュヴァルツヴァッサー》(浅野 徹)

拡張する空間ー展開する瞬間

(ヨーゼフ・ヘルフェンシュタイン、
寺門臨太郎訳)

すべては流れのなかにーフランツ・ゲルチュ
のモチーフについて

(ヘルムート・フリーデル、藤島美菜訳)

ゲルチュの言葉 (寺門臨太郎訳・編)

略年譜

浅野論文翻訳 (Translated by Kikuko Ogawa)

ヘルフェンシュタイン論文英訳

(Translated by Margret Joss)

フリーデル論文英訳

(Translated by Burke Barnett)

展覧会歴 (欧文)

主要文献 (欧文)

編集 愛知県美術館 寺門臨太郎、藤島美菜

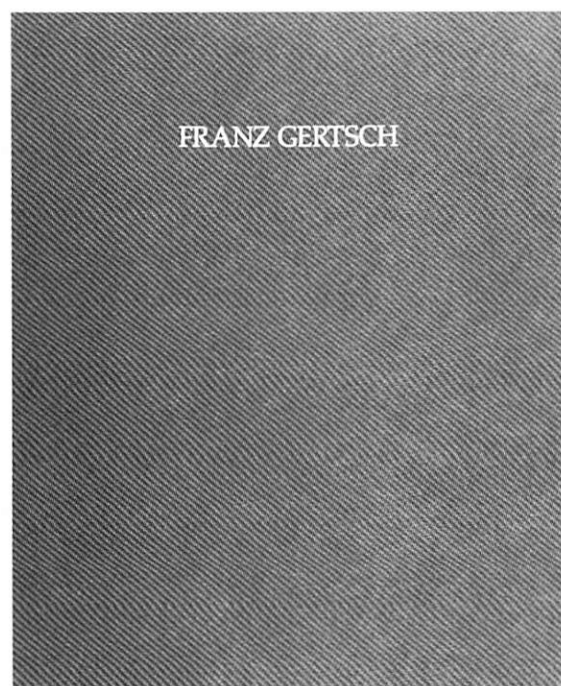
デザイン 桑畑吉伸

制作 コギト

発行 愛知県美術館・日本経済新聞社



B3ポスター



カタログ表紙

環流—日韓現代美術展 Circulating Currents-Japanese and Korean Contemporary Art

会場：愛知県美術館／名古屋市美術館（愛知県美術館・名古屋市美術館共同企画）

会期：1995年7月14日（金）～9月3日（日） 45日間

主催：愛知県美術館／名古屋市美術館／中日新聞社／中部日本放送／東海テレビ放送

後援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／名古屋市交通局／名古屋鉄道株式会社／近畿日本鉄道株式会社／駐名古屋大韓民国総領事館／愛知県日韓親善協会連合会／JR東海

助成：国際交流基金

協力：アジアナ航空／大韓航空

担当：牧野研一郎／坪戸雅彦（愛知県美術館）

山脇一夫／角田美奈子／原沢暁子（名古屋市美術館）

この「環流—日韓現代美術展」は愛知県美術館と名古屋市美術館の共同企画による初めての展覧会であり、一つの展覧会が近接する二つの公立美術館で同時開催されるという国内でもきわめてまれな展覧会となった。

今日、西洋の近代文明は行き詰まりを見せ、それに代わる新たな方法が模索され、これまで後進的だと否定的に評価されてきた西洋以外の価値観や思考法が、新しい可能性を秘めたものとして見直されている。

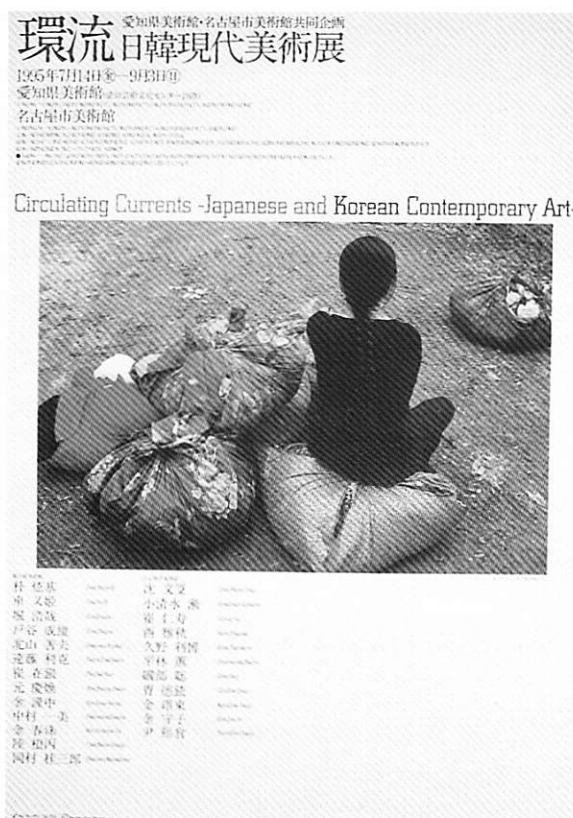
日本と韓国の近代美術もまた、西洋を模範に発展した。しかし、近代化し西洋化を遂げた後、新たな展開を模索する今日の世界の美術状況の中で、西洋の模倣ではない、自己に独自の表現を求めるとき、自国の文化的ルーツは、現代美術にとっての豊かな源泉となると考えた。

そうした観点にたって、この展覧会は、1940年以後に生まれた日本と韓国の現代美術家24人の作品を同時に紹介することで、国境を越えて東洋人である私達の表現を探り、世界に向けて現代美術の新しい可能性を発信することを意図して企画された。同時に、文化的伝統を多く共有しながらも独自の文化を育んだ両国の現代美術の違いを見くらべ、互いのアイデンティティを明らかにしようとした。

展覧会に併せて両館でシンポジウムが開催され、日本と韓国の出品作家が互いの現代美術の状況についての意見を交換した。

また、韓国の代表的な写真家である「朱明德」の写真展を文化情報センターと共同企画し、センター内のスペースXで、韓国の古い歴史と自然の風景を伝える写真を展示した。

同時に、この展覧会がきっかけとなりセンター全館と名古屋



B1ポスター



B2ポスター

市美術館を会場に、日本と韓国の芸術について様々な芸術の企画が行われた。センター全体が1992年の開館以来初めて共通のテーマで結びつき、美術、音楽、演劇、ダンス、写真展などの多彩な活動を行ったことは、芸術文化センターが「総合文化センター」という本来の理念を実現したという意味で非常に意義深いことであった。

日韓現代美術展出品作家

愛知県美術館

朴 炫基
車 又姫
堀 浩哉
戸谷 成雄
北山 善夫
遠藤 利克
崔 在銀
元 慶煥
金 謹中
中村 一美
金 春洙
陸 根丙
岡村 桂三郎

名古屋市美術館出品作家

沈 文燮
小清水 漸
崔 仁壽
西 雅秋
久野 利博
平林 薫
磯部 聡
曹 徳鉉
金 瓊東
金 守子
尹 熙倉

総入場者数：25,072人（1日平均入場者数557人）

関連事業

(1) 朱明德写真展（韓国の空間）

会期：1995年7月14日（金）－ 9月3日（日）

会場：愛知県芸術文化センターB2階 アートスペースX

主催：愛知県美術館、愛知県文化情報センター、愛知県文化振興事業団

(2) 連続シンポジウム

第一日 テーマ：「日本と韓国－現代美術の位相」

日時 1995年7月15日（土） 午後2時－7時

会場 愛知芸術文化センター12階 アートスペースA

講師 出品作家

朴 炫基

車 又姫

戸谷 成雄

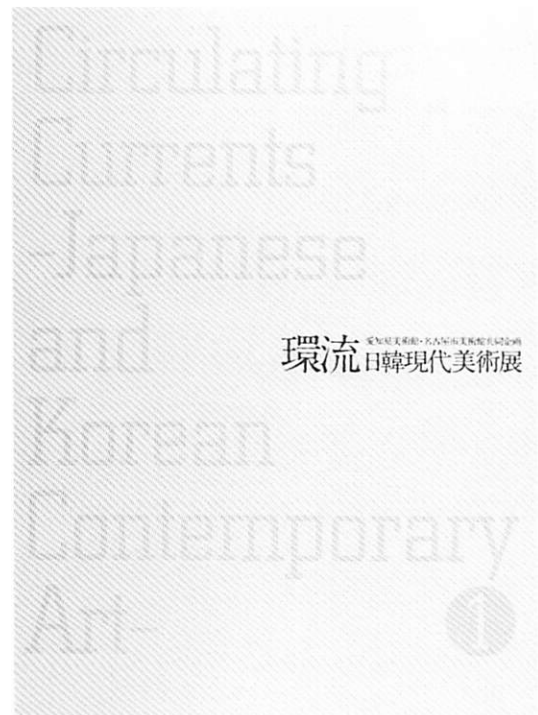
北山 善夫

元 慶煥

金 謹中



B3ポスター



カタログ表紙

岡村 桂三郎

沈 文燮

小清水 漸

崔 仁壽

西 雅秋

久野 利博

平林 薫

磯部 聡

曹 徳鉉

金 瓊東

金 守子

尹 熙倉

評論家

李 禹煥

徐 成録

中村 英樹

山脇 一夫

司会

牧野 研一郎

第二日 テーマ：「土着とモダン」

日時 1995年7月16日（日） 午前10時30分～午後4時30分

会場 名古屋市美術館 講堂

講師 出品作家

中村 一美

北山 善夫

平林 薫

戸谷 成雄

小清水 漸

評論家

牧野 研一郎

山脇 一夫

(3) コンサート：「シナウイ・コンサート」

1995年7月23日（日） 午後2時～3時

名古屋市美術館 地下ロビー 定員180名

韓国の伝統音楽「シナウイ」のコンサート

韓国を代表する音楽家たちによる無料コンサート

主要関連記事

【新聞】

長谷川三郎：「相互の理解に意義」『日本経済新聞』

夕刊1996年7月28日夕刊

菅原教夫：「世界へ開く土着性」『読売新聞』

1995年8月3日夕刊

有海千尋：「新たな東洋の美 創出の試み」『中日新聞』

1995年8月5日夕刊

田中三蔵：「表現の土台を探り、微妙な差異」『朝日新聞』

1995年8月1日夕刊

中村英樹：「激しさとしなやかさの出会いから」『中日新聞』

1995年8月14日夕刊

村田真宏：「疑似体験を痛烈につく」『毎日新聞』

1995年8月24日夕刊

三田晴夫：「筋道の同質性と表現の差異、際立つ」

『毎日新聞』1995年8月17日夕刊

井上隆夫：「原っぱで作った小屋の気分」『朝日新聞』

1995年8月25日夕刊

早瀬廣美：「表現の根幹を探る」『産経新聞』

1995年8月6日夕刊

(筆者不詳)：「土着の風土問い直す」『京都新聞』

1995年8月11日夕刊

T.J.McGuire: "Korean-Japanese collaboration shows artistic diplomacy", *Asahi Evening News*, August 12-13, 1995

Julia Cassim: "Art Current Circulates from Korea", *The Japan Times*, August 13, 1995

【美術雑誌】

谷新：「『畫』と『日本』の表象」『武蔵野美術』99号、1996年

カタログ：A4変形（305×224mm）2巻本

1（88頁）

本文 土着とモダン（山脇一夫）

韓国の近代美術（李慶成）

韓国現代美術の動向と主要な争点（徐成録）

日本回帰をめぐる（牧野研一郎）

参考図版（作家解説：山脇一夫、牧野研一郎、角田美奈子、坪戸雅彦）

出品目録

日韓現代美術史年表（角田美奈子、坪戸雅彦編集）

2（124頁）

カタログ

論文英訳（翻訳勝矢桂子）

出品目録

編集 角田美奈子、坪戸雅彦、原沢暁子

制作 印象社

表紙デザイン 山内瞬葉

発行 「環流一日韓現代美術展」実行委員会

ウィンザー城王立図書館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図

Leonardo da Vinci, the Anatomy of Man, Drawings of the Collection of Her Majesty Queen Elizabeth II

会期：1995年9月15日（金）～10月15日（日） 27日間

主催：愛知県美術館／中部日本放送／中日新聞社

企画・構成：ウィンザー城王立図書館

後援：日本医師会／第24回日本医学会総会 1995 名古屋／日本
歯科医師会／愛知県医師会／名古屋市医師会／外務省／
文化庁／ブリティッシュ・カウンシル／愛知県・岐阜県・
三重県・名古屋市各教育委員会／JR東海

協賛：武田薬品工業株式会社

協力：日本航空

担当：栗田秀法／古田浩俊

この展覧会は、ウィンザー城王立図書館が誇るレオナルド・ダ・ヴィンチの豊富な素描群の中から人体解剖図に焦点を絞って構成されたものである。作品の選択はウィンザー側の学芸スタッフでなされ、同内容の展覧会が1992年から翌年にかけてアメリカで開催されている。

今回名古屋と東京とで開催されたこの展覧会プロジェクトは、中部日本放送創立45周年記念事業とタイアップしたもので、当館は学芸幹事館として主に両会場で共通に使用する「両面展示台」の作成等をウィンザー側と協議の上進行させた。また、展覧会図録に関しては、この企画と別に進行していたアメリカの展覧会図録の翻訳出版の計画と連携し、主要な部分を共通して使用した。

共催テレビ局の記念事業ということで空前の宣伝活動が行われ、レオナルドの著名度とあいまって、地味な内容の展覧会であるにもかかわらず、予想を大幅に上回る観覧者が連日詰めかけた。興業的には喜ばしいことであったが、作品に近づいてゆっくり作品を鑑賞することが困難な状況が頻出するという問題も起きた。

展覧会の内容は、生涯に30体もの人体解剖を行ったレオナルドの人体の構造や機能についての驚異的な探求の変遷をたどるという、ある意味ではむしろ科学博物館で開催されるにふさわしい専門的な側面をもつものであったが、鑑賞者には何よりもレオナルドの卓越した素描家としての技量を紹介できたという意味では当館で開催した意義も十分大きかったといえよう。

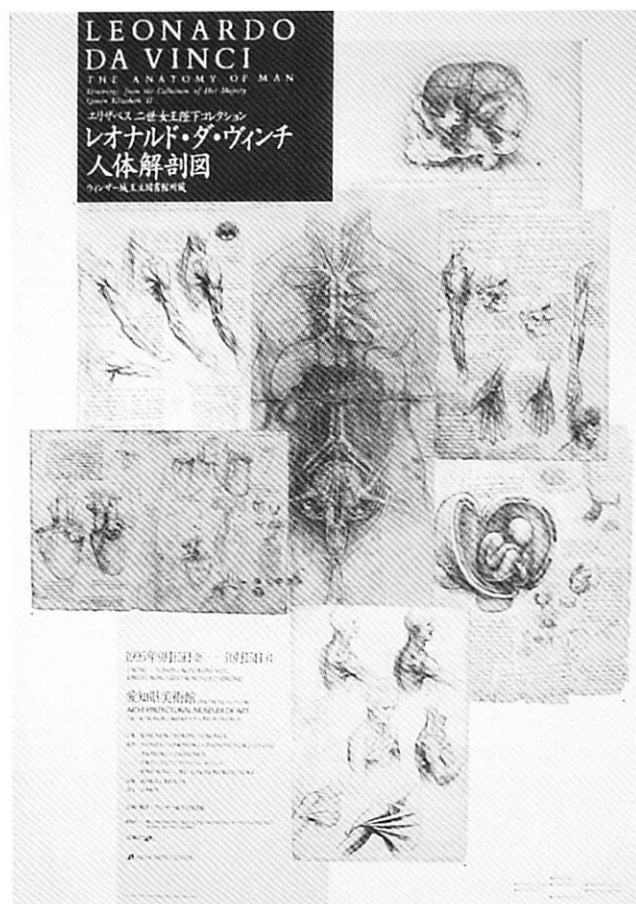
関連事業

記念講演会 9月15日（金）

演題：「レオナルド・ダ・ヴィンチ 人体解剖図」

講師：マーティン・クレイトン

（ウィンザー城王立図書館学芸員）



B1ポスター



B3ポスター

総入場者数：68,439人（1日平均入場者数：2,534人）

展覧会巡回先：東京都庭園美術館

会期：6月10日－7月30日

総入場者数：55,239人

1日平均：1,127人

主要関連記事

【雑誌】

田中雅志：「エロスの始動！ルネサンス」『芸術新潮』
6月号、1995年

藤原えりみ：「人間こそ、マルチメディアである、を実感万
能の人の人体素描」『鳩よ』6月号、1995年

川村湊：「懐疑と好奇心の果てにある“人体解剖”の楽しみに
酔う」『Monthly Walker』7月号、1995年

高田万由子：「レオナルド・ダ・ヴィンチを解剖する」
『クラッシー』7月号、1995年

【新聞】

小川潔：「展覧会訪問」『名古屋タイムズ』1995年9月11日

片桐頼継：「ダ・ヴィンチの世界 人体解剖図展に寄せて1－5」
『中日新聞』朝刊 1995年9月14日－18日

長谷川三郎：「レオナルド・ダ・ヴィンチ「人体解剖図」展」
『日本経済新聞』1995年10月6日夕刊

Joel Perron: "Art of body language", *Asahi Evening News*,
June 15, 1995

Paul Kallender: "Dissecting genius", *The Daily Yomiuri*,
June 16, 1995

カタログ：A4判変形（30.2×22.7cm） 144頁

本文 解剖学者レオナルド

（マーティン・クレイトン、東京芸術大学美
術解剖学講座訳）

カタログ

（作品解説：マーティン・クレイトン／ロン
・フィロ、東京芸術大学美術解剖学講座訳）

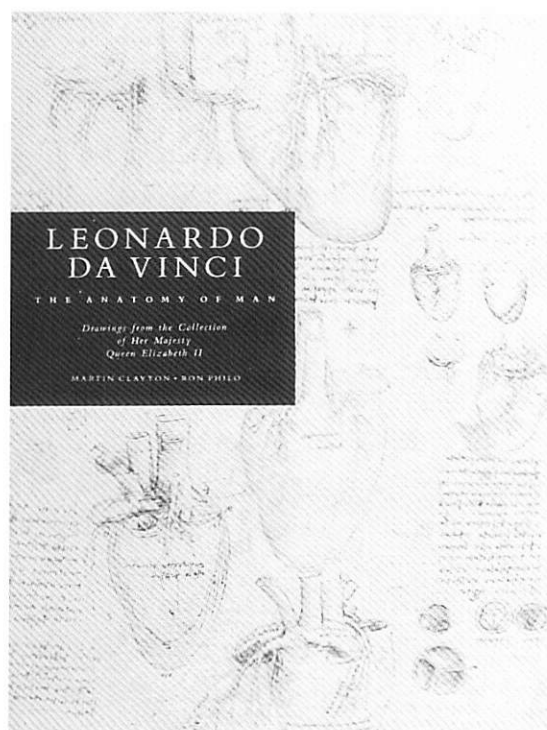
索引

レオナルドの手稿に関する注記

略語および文献抄

制作 同朋舎出版

発行 中部日本放送



カタログ表紙

表現主義彫刻 Expressionist Sculpture

会期：1995年10月27日（金）～1996年1月15日（月） 64日間

主催：愛知県美術館／中日新聞社／東海テレビ放送

後援：愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各教育委員会／JR

東海

協力：日本航空

担当：寺門臨太郎／古田浩俊／深山孝彰

表現主義は、今世紀初頭のドイツで牙城が築かれた重要な芸術運動のひとつであり、いわば病める時代の汎芸術的な精神運動だった。ことに造形芸術においては、字義どおり、内的な不可視の事象を外へと押し出して可視的形象を与えようとすることに特徴があった。従来日本ではこの運動について、「ブリュッケ」グループに代表される絵画や版画をもってのみ紹介されることが圧倒的に多く、そのほかの領域についてはほとんど知られていなかった。この展覧会では、日本で未知に等しく、また欧米においてもなお厳然たる体系づけがなされていない「表現主義の彫刻」に取ってスポットライトが当てられた。それは、表現主義の運動そのものはもとより、「表現主義の」彫刻という表現形態が、モダニズムの純粋さとは矛盾するナラティヴ（文学的、ないしは物語的）な要素を内包することを常とし、その拮抗するさまが限りなく20世紀末の現代に通底していると捉えられたからにほかならない。

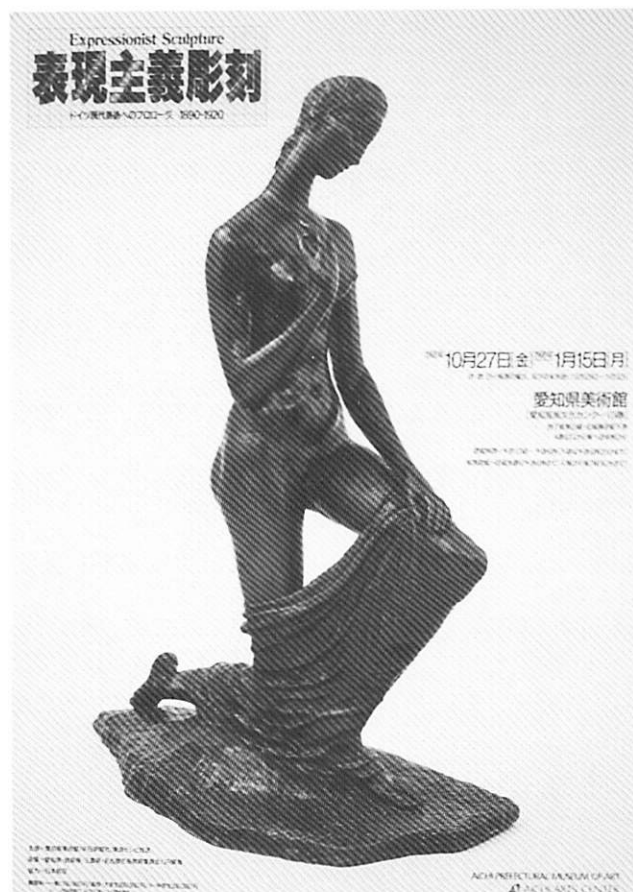
当館では開館準備期間中に、キルヒナーやノルデの油彩画や版画に加えて、レームブルック、バルラッハ、コルヴィッツなどの彫刻の代表的な作例を収蔵していた。そして、今回の展覧会そのものもまた、すでにこうした作品収集と並行する段階で構想されていたものの、極端に未知の分野であることと、開館間もない日本の一地方美術館である当館が海外の所蔵先から出品作品を借り出すことの困難さに対する不安とが、企画実現への第一歩を大きく踏み出すことをためらわせていた。しかし、その後わずかの間に、彫刻作品のみで構成されようとしていたこの展覧会の予定内容に修正が加えられ、油彩画や版画・素描も適度に盛り込むことによって彫刻の成立事情をより広く示すことが企図され、接触し始めていた海外の複数の美術館からそうした内容に対してきわめて積極的な協力の約束が得られたことで道は拓かれていった。そして、新潟県立近代美術館がこの企画内容に強い関心を寄せたうえで共催館として名乗りを上げた時点で、実現への完全な道筋は整えられた。

作品の選定と交渉等の実務はすべて当館担当者が責を負い、カタログの執筆と編集を両館共同で行った。内容の全体は3つのセクションから構成され、前世紀末の象徴主義に端を発し、1910年代中葉に最盛期を見せ、やがて第一次大戦後には抽象美

術の渦の中に活路を求めてゆく「表現主義の」彫刻、そしてそれと密接にリンクする絵画表現を概ね時代順に展観することとなった。結果として、フランスやイタリアの本流としての近代彫刻の陰に隠れるかたちで、にわかには看過しがたい潮流が中欧から西欧の北部にかけて存在していたことが明らかにされた。

彫刻をテーマとする展覧会の多くがそうであるように、この企画も来館した鑑賞者の実数から計ると決して成功したものとは言いがたい。しかし、たとえば、単に傍流と言われるまま日本では一向に顧みられることのなかったベルギーの彫刻家ジョルジュ・ミンヌを取って出発点に据えた点、レームブルックの代表的な大作すべてを網羅しつつ関連する素描などによってその芸術を掘り下げた点、さらに輸送・展示上きわめて危険の多い「ブリュッケ」の木彫複数とともにそれらが実際に描き込まれている油彩画を並べて展観することによって個々の作品の特徴を際立たせた点などについては、企画者の意図を正当に評価する声が多数寄せられたことを、取ってここに記しておきたい。

出品点数：彫刻52点、絵画17点、素描14点、版画40点



B1ポスター

関連事業：連続美術講座（「1995年度教育普及事業の実施状況」の連続美術講座を参照）

総入場者数：12,428人（1日平均入場者数：194人）

展覧会巡回先：新潟県立近代美術館

会期：1996年2月9日－3月24日

総入場者数：6,626人

1日平均：170人

主要関連記事

【定期刊行物】

小林昌廣：「『傾斜』する表現、『表現主義彫刻、1890－1920』展」『美術手帖』1996年1月号、171ページ

【新聞】

長谷川三郎：「『表現主義彫刻展』独の時代精神表現」『日本経済新聞』1995年10月27日夕刊（中部版）、第11面

寺門臨太郎：「くずおれる男、レームブルック、彫刻にみる表現主義・1」『中日新聞』1995年11月14日朝刊、第16面

深山孝彰：「仇討ち、バルラッハ、彫刻にみる表現主義・2」『中日新聞』1995年11月15日朝刊、第16面

古田浩俊：「三人の裸婦、ニッデンの砂丘、シュミット＝ロットルフ、彫刻にみる表現主義・3」『中日新聞』1995年11月16日朝刊、第16面

寺門臨太郎：「立てる女、エーリヒ・ヘッケル、彫刻にみる表現主義・4」『中日新聞』1995年11月17日朝刊、第20面

古田浩俊：「真ちゅうの首、ベリング、彫刻にみる表現主義・5」『中日新聞』1995年11月18日朝刊、第21面

山田 論：「ドイツ民衆の世界、表現主義彫刻展」『毎日新聞』1995年11月30日朝刊（地方版）

山梨俊夫：「『表現主義彫刻』展、芸術らいつ・美術」『東京新聞』1995年12月1日朝刊

田中三蔵：「『表現主義彫刻』展」『朝日新聞』1995年12月12日夕刊、第5面

千足伸行：「表現主義彫刻展によせて」『中日新聞』1995年12月14日夕刊、第9面

(O)：「ケーテ・コルヴィッツ、母と二人の子 [美折おり]」『京都新聞』1995年12月23日朝刊

(筆者不詳)：「文化往来」[展覧会評]『日本経済新聞』1995年12月25日朝刊、第32面

(M)：「激情とめい想の造形－表現主義彫刻展」『産経新聞』1996年1月14日朝刊、第9面

Julia Cassim: "Beyond the Third Reich and Rodin", *The Japan Times*, December 10, 1995, p.13

【掲載予定】

Author unknown, Book Review[?], *The Burlington Magazine*

カタログ：A4判変形（280×225mm） 240頁

本文 レームブルックの芸術（長谷川三郎）

天と地の間にある幻像－エルンスト・バルラッハの表現主義作品－

（アニタ・ペルーベク＝ハマー、深山孝彰訳）

動物化－フランツ・マルクの彫刻について－

（コルネリア・ヴィーク、桐原浩訳）

ジョルジュ・ミンヌと表現主義（寺門臨太郎）

コルヴィッツの彫刻－版画・素描との関連から－（佐々木奈美子）

表現主義とチェコのアヴァンギャルド

（古田浩俊）

カタログ

（作品解説：古田、桐原、バルバラ・レップナー、深山、佐々木、ホルガー・テルシュレーン、寺門）

作家略歴（古田、桐原、深山、佐々木、寺門）

表現主義彫刻：関連年表（桐原編）

ドイツ側論文ドイツ語原文

日本側論文英訳（翻訳Stanley N. Anderson, 勝矢桂子, Martha McClintock）

英文カタログ

（解説英訳：鶴岡厚生、山崎由美子）

文献、展覧会歴（欧文、寺門編）

編集 寺門臨太郎、古田浩俊、深山孝彰

編集協力 佐々木奈美子／桐原浩

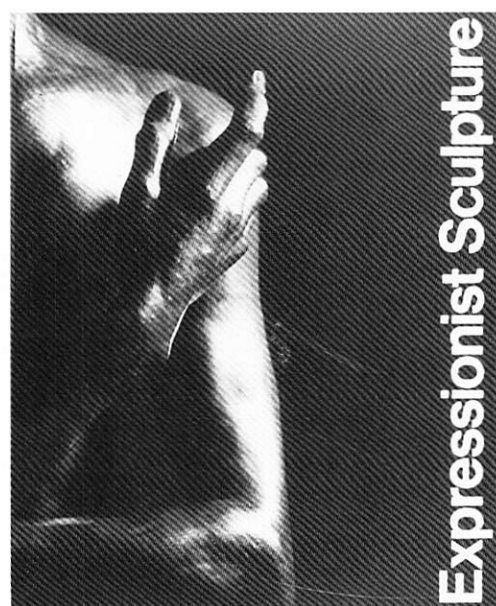
制作 印象社

表紙写真 村田真宏

発行 愛知県美術館／新潟県立近代美術館／中日新聞社



B3ポスター



カタログ表紙

リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画の接点

Richard Meier and Frank Stella - Architecture and Art

会期：1996年2月2日（金）～1996年4月7日（日） 57日間

主催：愛知県美術館／毎日新聞中部本社

後援：アメリカ大使館、愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市各
教育委員会／JR東海

助成：アサヒビール芸術文化財団

企画協力：アキライケダコーポレーション

担当：坪戸雅彦／高橋秀治

建築家リチャード・マイヤー（1934-）と画家フランク・ステラー（1936-）は、ともに戦後のアメリカを代表する芸術家である。二人の交流は1950年代の後半にさかのぼり、「映画」と「建築」という領域で、それぞれが輝かしい活躍をしている。

幾何学の形を巧みに組み合わせて明晰な形態と複雑な空間を産み出す建築家として高い評価を受けているマイヤーは、モダニズム建築を正統に継承した数多くの建築作品を作り上げてきた。彼の建築の中でもっとも重要で、しかもマイヤー独自の建築観が示されている作品が、アメリカとヨーロッパ各地に設計した美術館建築である。芸術家でもあり、芸術に対する優れた思索者でもあるマイヤーは、建築によって分節化された空間とそこに置かれる芸術作品の関係、そしてそれを眺める人々の視点とその行動について深い思索を行っている。そのために、マイヤーの美術館建築は精巧な立体作品のような形態を備えるばかりでなく、光を巧みにコントロールした内部空間によって美術館を訪れるものに極めて強い印象を与える。

1958年に《ブラック・ペインティング》でミニマリズムの旗手として喝采を浴びたステラーは、その後、変貌を華麗に繰り返し、絵画、立体的な絵画レリーフ、立体作品、版画、コラージュと、さまざまな領域にわたって大胆な実験を繰り返した。そして、1980年代の終りに、ステラーは自身の総合的な芸術ヴィジョンを検証するかのよう、アメリカやヨーロッパの各地で公園や橋などの様々な建築プロジェクトに関わりあい、機能優先の現代建築に対して、造形美をも重視した建築の提唱を行ってきた。

展覧会では、マイヤーの設計した4つの美術館建築、アトランタのハイ美術館、フランクフルト工芸美術館、バルセロナ現代美術館、そして1997年完成予定のロサンゼルスゲティ・センターを、マケットや設計プラン、そして写真で紹介した。それに併せて、マイヤーの芸術家としての側面と独自の造形的思考を端的に示すコラージュ25点、彫刻3点と版画3点を展示した。そして、ステラーに関しては、1958年の初期の作品からステラーの建築的思考を顕著に示す1995年の最新作品までを、絵画7点、



B1ポスター



B3ポスター

絵画レリーフ10点、立体4点、紙コラージュ4点、建築マケット2点で紹介した。「絵画」から「建築」に到るこれらの作品群は、「絵画」本来のダイナミックなイリュージョンを用いて現実の空間に切り込み、その空間を「生き生きとしたもの」へと変化させていくという、ステラの格闘を示している。

マイヤーはアリゾナ州のフェニックス市に連邦裁判所の設計を進めているが、その裁判所を取り囲む敷地部分に美術館を想定して、二人が共同で新しいパブリックな公園プランを模型で提案した。

こうして、展覧会は二人の多面的な活動を紹介するとともに、「絵画」と「建築」がどのようにに関わり合い、空間が「絵画」と「建築」の力によって、どのようにして変貌するかを検証し、21世紀の空間を創造する手掛かりを得ようとした。

展示に際しても、二人の作品を分離することなく、空間を共有する形で展示することで、展示室そのものが一種のインスタレーションであるかのように配慮した。建築にしか関心がなかった人もおのずと現代美術に触れることが出来、一方で絵画にしか関心がなかった人もまた、建築の模型を鑑賞することができるように設定した。

ちなみに、二人の展覧会は1992年にローマのパラッツォ・デッレ・エスポジツィオーニでも開催されている。本展覧会はその展覧会コンセプトを継承しながらも、最大限に展覧会のコンセプトをわかりやすくし、かつ新しく見せることを心がけた。

なお、この展覧会にあたって、「美術館という空間」というテーマで、マイヤー氏とステラ氏の他に日本国内で幾つかの美術館を手がける建築家安藤忠雄氏と現在九州大学工学部教授である福田晴慶氏をパネラーとしてお迎え、美術館長浅野徹を交えてシンポジウムを開催し、好評を博した。

関連事業

記念シンポジウム 2月3日(土) 1:30-4:30

演題:「美術館という空間」

講師:リチャード・マイヤー、フランク・ステラ、安藤忠雄、福田晴慶、浅野 徹

総入場者数 16,599人(1日平均入場者数:291人)

展覧会巡回先:広島市立現代美術館

会期:5月25日-7月14日

総入場者数:10,108人

1日平均:198人

展覧会巡回先:丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

会期:10月26日-1997年1月5日

総入場者数:6,495人

1日平均:100人

展覧会巡回先:熊本県立美術館

会期:1997年7月11日-8月17日

主要関連記事

【定期刊行物】

堀田典裕:「キャンパスのデザイン」『SD』1996年4月号

【新聞】

大西若人:「対照的な建築と美術の共存」『朝日新聞』

1996年3月27日夕刊

坂本憲一:「空間創造の未来像提示」『日本経済新聞』

1996年3月3日朝刊

:「美術館という空間」シンポジウム『毎日新聞』

1996年2月22日朝刊

長谷川三郎:「造形刺激的に迫る」『日本経済新聞』

1996年3月15日夕刊

カタログ:B5変形(245×220cm) 194頁

マイヤー篇

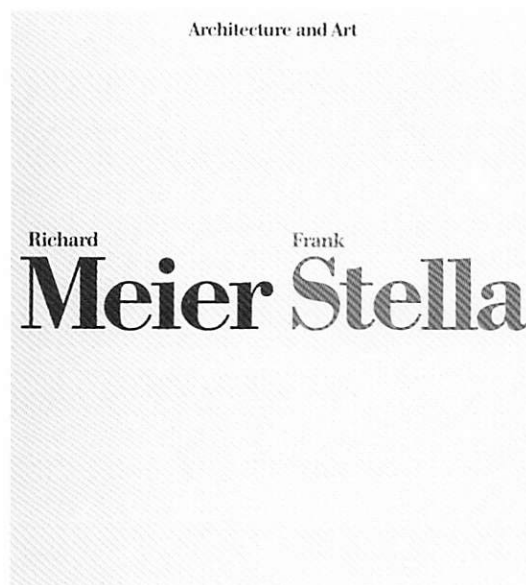
本文 マイヤーのひきがえとステラの庭

(デヴィッド・ギャロウェイ、坪戸雅彦訳)

同上原文

カタログ

リチャード・マイヤーの立体作品



カタログ表紙

(ルイス・ネスビット、植松由佳、拝戸雅彦訳)

同上原文

リチャード・マイヤーのコラージュ

(ルイス・ネスビット、植松由佳、拝戸雅彦訳)

同上原文

抽象芸術

(リチャード・マイヤーへのインタビュー)

(クレア・ファロー、拝戸雅彦訳)

同上原文

造形者の恍惚—マイヤーの建築(福田 晴虔)

同上英訳(翻訳Stanly N. Anderson)

建築・プロジェクト歴

主要文献

出品目録

ステラ篇

カタログ

(作品解説:ステラスタジオ、拝戸雅彦訳)

フランクステラのこと

(リチャード・マイヤー、拝戸雅彦訳)

フランク・ステラの二つの壁(拝戸雅彦)

同上英訳(翻訳Stanly N. Anderson)

略年譜

主要文献

出品目録

マイヤーとステラ篇

カタログ

(作品解説:ステラスタジオとリチャード・マイヤー・アンド・パートナーズ、拝戸雅彦訳)

編集 拝戸雅彦、西澤みどり(アキライケダコーポレーション)

編集協力 福田 晴虔

制作 アイメックス

発行 アキライケダコーポレーション

テーマ展 Small Displays held in the Permanent Collection Area

ベン・シャーンのドローイング Ben Shahn Drawings

(1995年9月15日～10月15日：展示室7-8)

担当：高橋秀治

善良な市民が犠牲者となる社会の不正を作品のテーマとして取りあげた「サッコとヴァンゼッティ」シリーズなど1930年代はじめの作品群によって「社会的リアリズム」の画家として広く知られるようになったベン・シャーン(1898-1969)は、その後ニューディール政策の関連機関である再入植局の委嘱により、南部や中西部の貧困の状況をカメラに収めるという仕事をしたのを契機に、彼自身が言うところの「個人的リアリズム」へと変化していった。

具体的な生活意識から造形的な作品をつむぎだそうとしたベン・シャーンにとっては絵画は内面的な経験が含まれるべきものであり、芸術至上主義的に単に表面的な造形のみが問題ではなかった。つまり、「意味」がその不可欠の要素となっている図像として、結晶化したものでなければならなかったのである。

ベン・シャーンは作品を造り上げる過程で対象を見つめ数多くのドローイングを残しているが、それは単に完成作への一過程というだけに留まらない魅力を備えている。

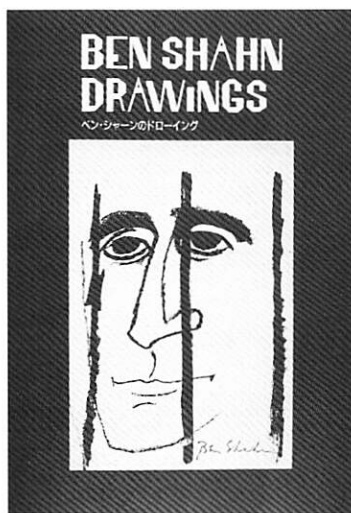
この企画は、埼玉県朝霞市の丸沼芸術の森の協力のもとに、初期の習作から、彼の出世作となる1930年代の「サッコとヴァンゼッティ」シリーズや日本にも馴染み深い1960年代の「ラッキー・ドラゴン」シリーズのためのドローイングを含む53点を展示した。日本人にも多くの愛好者があり、また同時期開催の企画展「レオナルド・ダ・ヴィンチの解剖手稿」の盛況も手伝って多くの観客の入場があった。

小冊子：A5判16ページ

編集 高橋 秀治

制作 凸版印刷

発行 愛知県美術館



小冊子 表紙

出品作品

No. 作品名	英文タイトル	技法・素材	サイズ	制作年
8 「観光」スケッチブックから	From the "Sightseeing" Sketchbook	鉛筆	31.8×25.0	
9 女の顔と手	Woman's Face and Hand	鉛筆	31.8×25.5	
10 若い自画像	Self-portrait (Youthful)	鉛筆	23.6×31.5	
11 快活なヌード	Sanguine Nude	コンテ	44.4×27.9	
12 腰かけている女	Seated Woman	水彩	32.4×24.6	1929
13 エステラジー(ドレフェス・シリーズ)	Esterhazy (Drefus Series)	水彩	39.7×29.7	1930
14 フラー知事 (サッコとヴァンゼッティ・シリーズ)	Governor Fuller (Sacco and Vanzetti Series)	テンペラ	31.9×26.1	1931 - 32
15 2人の立っている男	Two Standing Men	テンペラ	45.8×27.6	
16 馬	Horse	グアッシュ	40.6×59.0	
17 立っている裸婦	Standing Nude	ペン・インク	36.9×26.0	1930-31
18 無題	Untitled	鉛筆	22.7×30.5	
19 無題	Untitled	鉛筆	30.4×23.1	
20 無題	Untitled	鉛筆	6.4×13.5	
22 ルーズヴェルトの壁画のための習作	Study for mural in Roosevelt, New Jersey	ミクストメディア	29.0×45.4	c.1936
24 エプロンをした少女	Girl with Apron	グアッシュ	36.6×21.7	1939
25 連邦社会保障ビルのための習作	Study for Social Security Bldg.	テンペラ・鉛筆	53.8×32.4	c.1941
26 筆を持つ手	Hand with Brush	ブラッシュ・ドローイング	30.5×22.6	
27 《春》のための習作	Study for "Spring"	インク	22.5×15.6	1947
28 陽気な男と女	Study for "Spring"	インク・水彩	23.0×30.3	c.1947
29 朝食をとる男女	Man and Woman at Breakfast Table	ブラッシュ・ドローイング	16.2×21.1	
30 無題	Untitled	水彩	12.0×8.0	
31 手を口に付けた男の顔	Head of a Man with Hand to Mouth	水彩	30.9×26.6	
33 想像の動物	Imaginary Beast	インク	23.3×20.4	
34 炎を吐く怪物(《寓意》のための習作)	Fire Breast, Study for "Allegory"	ブラッシュ・ドローイング	19.8×22.2	c.1948
35 世紀は燃える…	The Centuries will Burn...	インク	12.2×15.3	
36 被収容者	Inmate	インク	21.1×14.7	c.1949
37 しわを寄せた額の男	Man with Winkled Brow	ブラッシュ・ドローイング	18.6×10.8	
38 J.B.の神のための習作	Study for for "J.B.'s God"	鉛筆	11.7×27.8	c.1951
39 クローバーの葉	Clover Leaf (From the ballet Events)	水彩	51.0×66.0	1951
40 立つフットボール選手	Standing Football Player	インク	24.2×14.8	
41 説教台のジャック	Jack in the Pulpit	インク	15.3×12.5	
43 エンジンを修理する男	Man Fixing Engine	インク	15.3×12.4	
44 踏切	Railroad Crossing	インク	12.8×18.2	
45 車と電柱	Car with Telephone Poles	インク	14.0×19.0	
47 逆さに持たれた生まれたばかりの赤ん坊	Hand Holding Newborn Baby Upside Down	ブラッシュ・ドローイング	91.5×60.2	
48 錠剤を持っている手	Hand Holding a Pill	ブラッシュ・ドローイング	33.8×25.5	
49 カザルス	Casals with Cello	ブラッシュ・ドローイング	21.8×16.8	
50 バリー・ゴールドウォーターのポートレート	Portrait of Barry Goldwater	インク	63.3×50.1	
51 アインシュタイン	Albert Einstein	ブラッシュ・ドローイング	26.0×19.0	
52 毛沢東	Study of Mao	ブラッシュ・ドローイング	51.5×67.2	
53 レーニン	Lenin	ブラッシュ・ドローイング	22.5×17.0	
54 バッタ	Grasshopper	インク	13.1×15.4	
55 墜落 (グラディー・ハイスクールの壁画のための習作)	THE FALL: Study for mosaic mural, "William E. Grady Vocational High School, Brooklyn, New York"	水彩	38.8×50.7	
56 無題	Untitled	鉛筆	45.5×30.7	
57 日本の新聞を読む男 (ラッキー・ドラゴン・シリーズ)	Man with Japanese Paper (Lucky Dragon Series)	ブラッシュ・ドローイング	12.3×16.8	1961
58 ガンジー	Ghandi	鉛筆	28.1×26.2	c.1965
59 スポレット1965	Spoletto, 1965	水彩	67.7×52.6	1965
60 フルブライト上院議員	Senator Fulbright	グアッシュ	64.1×49.5	1966
61 ゴイエスカスⅡ	Goyescas II	グアッシュ	148.0×106.9	1967
62 信条	Credo	セリグラフ	42.1×56.0	
63 ほんとうに偉大な人たちは私は忘れない	I Think Continually of Those Who Were Truly Great	セリグラフ	66.9×53.0	1965
64 ガンジー	Ghandi	コロタイプ	96.6×63.5	1965
65 フィラデルフィア美術館のポスター	Poster of Philadelphia Museum of Art	フォトオフセット	114.1×76.1	

注記. No.はカタログ小冊子に掲載されている作品番号。

制作年の記載のないものは制作年不詳。

堀 美幸 Hori Miyuki

(1995年10月27日～12月3日：展示室6)

担当：深山孝彰

1960年代生まれの若手作家によるテーマ展としては、1993年度の出原次郎に続いて二人目である。岐阜県出身の堀美幸は、1989年に筑波大学大学院を修了後帰郷し、名古屋市や東京で作品を発表していた。出原がコピー機やシルクスクリーンなどを援用した着色レリーフという特異な手法を持っていたのに対して、堀は一般的な日本画材を用いているが、既存の日本画や洋画といった枠や技法にはとらわれずに自然の風景や画材と向き合い、自身の「絵画」をめざす姿勢を感じての開催であった。

4点の出品作のうち、横幅8メートルに近い長大な画面に蘚藻と生い茂る樹々や水辺の草を描いた《草 No.2》は在学中の作品だが、その画家が綿密なスケッチを重ねながらも悠然とした大気や時間の流れをとらえる資質を持っていることが窺われ、またその空気感などには光沢や粘りのない日本画材の特質が生かされている。そして3点の新作では、再現的な描写をより抑えて自然からの感興を表すと同時に、用紙（雲肌麻紙）の質感や、薄く絵具を重ねるにつれての微妙な表情の変化との対話を通してあらたなイメージを描き出そうとする可能性が感じられた。一般来館者のほか、作家の間からも関心が寄せられたように思う。

小冊子：A5判4色刷8ページ

編集 深山 孝彰
制作 凸版印刷
発行 愛知県美術館



小冊子 表紙

No.	作品名	技法・素材	サイズ	制作年
1	草 No.2	墨・顔料・岩絵具、楮紙	194.0×781.8cm	1988
2	無題 2	墨顔料・岩絵具、雲肌麻紙	147.0×194.0cm	1995
3	無題 3	墨顔料・岩絵具、雲肌麻紙	162.0×227.3cm	1995

活動の概要

当館における教育普及事業は、芸術文化センターという複合施設にある美術館として、文化情報センターなど他部門の事業展開を考慮し、原則として美術に関連する内容にその活動を限定して計画し、次の事業を実施した。

● 展覧会カタログなどの資料作成

各企画展の開催にあたっては、展覧会鑑賞のための資料としてカタログを作成した。併せて調査研究内容を反映させ、資料性の高いものとした。また、所蔵作品展では、各期の概要と展示作品のリストを掲載した冊子及びテーマ展の小冊子を作成した。

● 企画展関連の記念講演会の開催

各企画展の開催にあわせて、その分野の研究者、時には作家本人などによる講演会を実施し、来館者により深く展覧会の内容を理解する機会を提供した。また、連続講座を催し、シリーズとしてまとまりのある講演会も開催した。1995年度は「表現主義彫刻」にあわせて、4回の連続講座を開催した。

● ビデオテークでの映像、情報機器を活用した鑑賞教育

鑑賞教育の一つの試みとして、ビデオテークにて所蔵作品や展覧会内容に即した番組を提供している。なお、主要な所蔵作品に関しては、その画像と文字情報が自由に引き出せる検索型のシステムを運用している。

また、これらの情報内容の充実をはかるため、番組や画像の作成を進めた。

● ワークシートの制作とそれによる鑑賞教育の実施

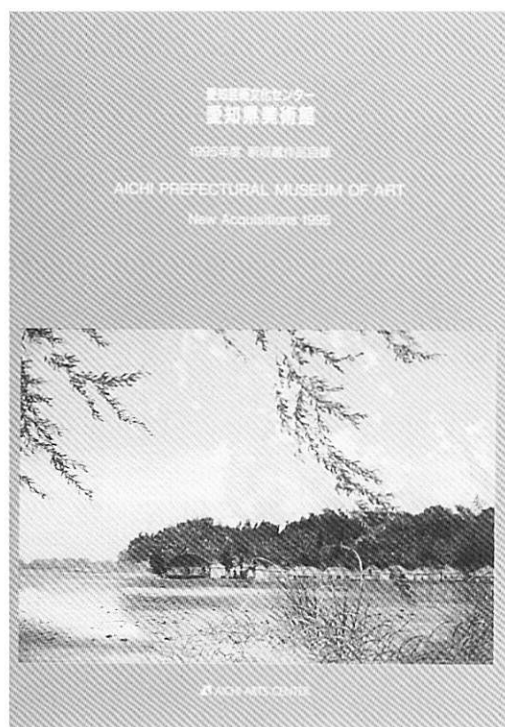
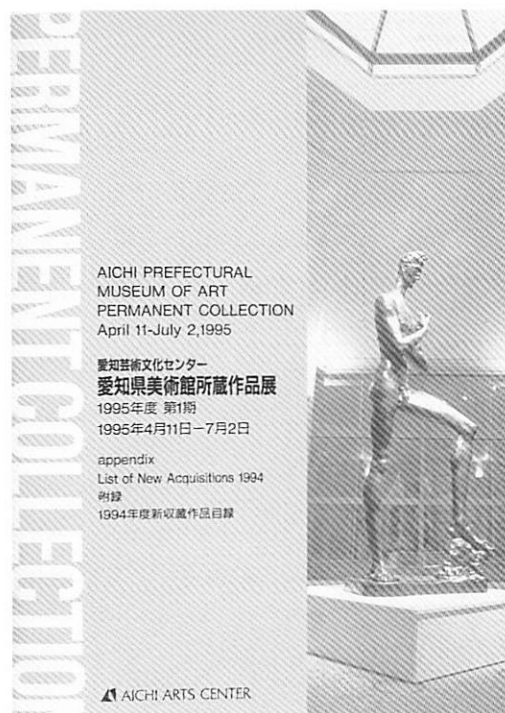
小・中学生を対象とした所蔵作品に関ワークシートを作成し、所蔵作品展観覧の小・中・高校生に配布した。作品はラウル・デュフィ《サンタドレスの浜辺》、ポール・デルヴォー《こだま》をとりあげた。

● 友の会運営協力

1993年に発足した愛知県美術館友の会の運営に積極的に協力し、各事業を展開した。

● 博物館実習

2期にわたって計13人の実習生を受け入れた。



新収蔵作品目録表紙

1 展覧会カタログ等の資料作成

《ウィーンのジャポニスム》

A4判変形 247ページ 1995.4発行（編集参加）

《フランツ・ゲルチュ》

A4判変形 101ページ 1995.5編集・発行

《環流—日韓現代美術展》

B4判変形 第一巻85ページ 第二巻123ページ
1995.7編集・発行

《ウィンザー城王立図書館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ人
体解剖図》

A4判変形 141ページ 1995.9発行（編集参加）

《表現主義彫刻》

A4判変形 237ページ 1995.10編集発行

《リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画の
接点》

A5判変形 193ページ 1996.2編集・発行

《愛知県美術館所蔵作品展 1995年度 第1期》

21.5×11.5センチ 22ページ 1995.4発行

《愛知県美術館所蔵作品展 1995年度 第2期、第3期》

21.5×11.5センチ 15ページ 1995.7発行

《愛知県美術館所蔵作品展 1995年度 第4期》

21.5×11.5センチ 10ページ 1995.10発行

《ベン・シャーンのドローイング》

21.5×11.5センチ 15ページ 1995.9発行

《堀 美幸》

21.5×11.5センチ 6ページ 1995.10発行

《新収蔵作品目録》

21.5×11.5センチ 6ページ 1996.2発行

《ミュージアムワークシート（ラウル・デュフィ）》

29.6×21.0センチ 12ページ 1995.9発行

《ミュージアムワークシート（ポール・デルヴォー）》

29.6×21.0センチ 12ページ 1996.3発行

《95年度展覧会スケジュール》

A4判変形（21.0×40.0センチ）経本折り1996.3 発行

2 企画展関連の記念講演会の開催

会場は明記されたものをのぞいてアートスペースA
（愛知県芸術文化センター12階）

ウィーンのジャポニスム

日時：1995.4.11—1995.5.14

講演会名：ヤポニスムとウィーン

日時：1995.4.15（土）13：30—

講師名：稲賀繁美 三重大学助教授

入場数：187

フランツ・ゲルチュ

日時：1995.5.26—1995.7.4

講演会名：フランツ・ゲルチュの芸術

日時：1995.6.3（土）13：30—

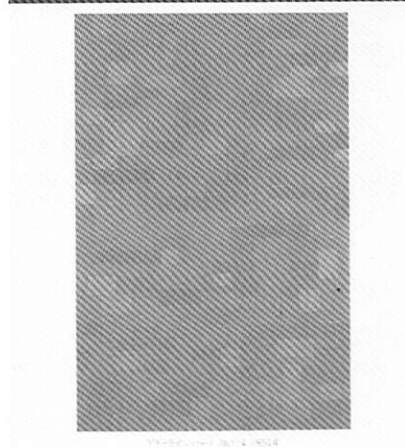
講師名：寺門臨太郎 愛知県美術館学芸員

入場数：46

環流—日韓現代美術展

日時：1995.7.14—1995.9.3

日本と韓国現代美術の位相



展覧会スケジュール



紀要表紙

日時：1995.7.15（土）13：30—

講師：出品作家

入場数：70

土着とモダン（名古屋市美術館講堂）

日時：1994.7.16（土）13：30—

講師：日韓現代美術展出品作家

入場数：20

ウィンザー城王立図書館所蔵レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図展

日時：1995.9.15—1995.10.15

講演会名：レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図について

日時：1995.7.16（日）13：30— マーティン・クレイトン

講師名：ウィンザー城王立図書館学芸員

入場数：122

表現主義彫刻

日時：1995.10.27—1996.1.16

連続美術講座「表現主義の芸術」

講演会名：ドイツ美術の特質と表現主義への道

日時：1995.10.28（土）13：30—

講師名：千足 伸行 成城大学教授

入場数：66

講演会名：表現主義への伝播—ベルリンと東京

日時：1995.11.5（土）13：30—

講師名：水沢 勉 神奈川県立近代美術館主任学芸員

入場数：50

講演会名：ドイツ表現主義の彫刻

—レームブルックを中心に—

日時：1995.11.12（土）13：30—

講師名：長谷川 三郎 愛知県美術館副館長

入場数：31

講演会名：表現主義の音楽

日時：1995.12.2（土）13：30—

講師名：船山 隆 東京芸術大学教授

入場数：40

リチャード・マイヤーとフランク・ステラー—建築と絵画の接点

日時：1996.2.3—4.7

3 ビデオテークでのAV機器を利用した鑑賞教育

記念シンポジウム

「美術館という空間」

日時：1996.2.3（土）

1部13：30—

2部15：00—

講師名：リチャード・マイヤー 建築家

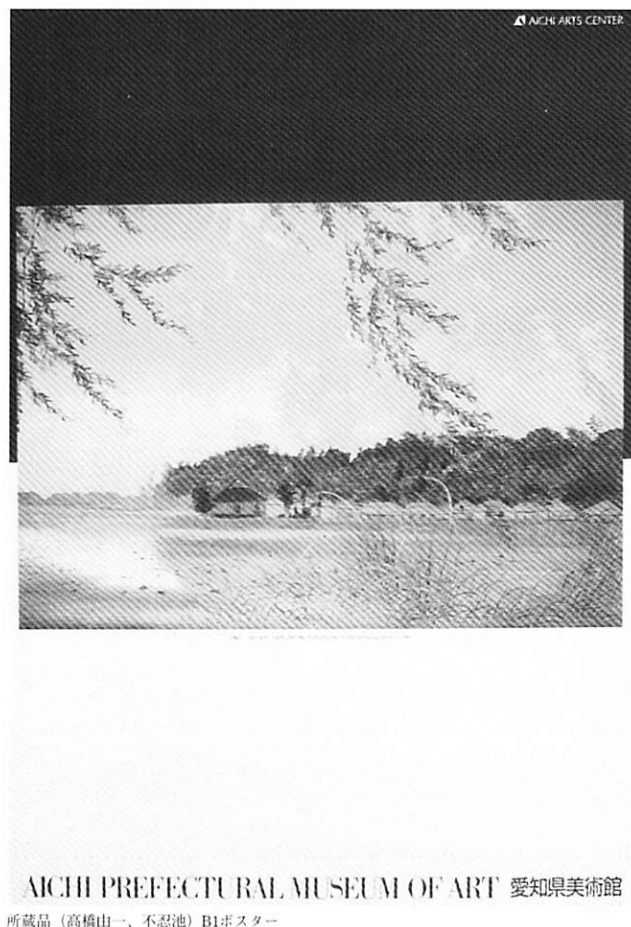
フランク・ステラー 美術家

安藤忠雄 建築家

福田晴虔 建築史家



年報表紙



浅野 徹 愛知県美術館館長

入場数：300

4 ワークシート制作とそれによる鑑賞教育の実施

(1) ハイビジョン番組の制作

所蔵作品ならびに企画展に関係する番組を作成した。

「ポール・デルヴォー《こだま》」

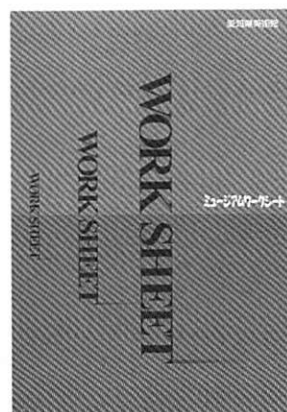
(2) 所蔵作品画像検索情報の作成

既に公開している画像情報に追加するため、新たに40件の画像情報を作成した。

小・中学生を対象とした所蔵作品に関するワークシートを発行し、所蔵作品展観の小・中・高校生に配布した。作品はラウル・デュフィ《サンタドレスの浜辺》、ポール・デルヴォー《こだま》を取り上げた。



ワークシート（ラウル・デュフィ）表紙



ワークシート（ポール・デルヴォー）表紙

5 美術館友の会 Membership

(1) 経緯

1994年9月17日 設立発起人会開催

10月1日 友の会発足

(2) 会員数

1995年度

総数 350（男：163 女：186 その他1）

内訳 一般会員 322人（うち学生 48人）

特別会員（個人）27人

特別会員（団体）1団体

(3) 事業概要

・企画展鑑賞会の実施

1995年4月20日

「ウィーンのジャポニスム」展鑑賞会

講師 栗田 秀法学芸員

5月30日

友の会総会

「フランツ・ゲルチュ」展鑑賞会

講師 寺門 臨太郎学芸員

7月27日

「環流一日韓現代美術展」鑑賞会

講師 牧野 研一郎主任学芸員

9月23日

「レオナルド・ダ・ヴィンチ人体解剖図」展鑑賞会

講師 馬場駿吉（美術評論家）、長谷川三郎副館長

11月2日

「表現主義彫刻」展鑑賞会

講師 寺門 臨太郎学芸員

1996年3月7日

友の会理事会、懇親会

「リチャード・マイヤーとフランク・ステラ」

展鑑賞会

講師 高橋 秀治主任学芸員

3月以降 会員募集

・広報事業

会報『空中回廊』第2号の発行 1995年11月

ポスター、チラシ等の宣伝材料の配付

・その他の事業

企画展及び所蔵作品展の無料観覧の実施

企画展関連商品の割引販売の実施

愛知県美術館が実施する講演会の聴講特別枠の設定

企画展の開会式及び内覧会の参加

（但し、特別会員に限る）

芸術文化センター内のレストラン、喫茶における利用

割引価格の実施



空中回廊第2号

6 博物館実習

Art Museum Study

1995年度博物館実習生の受け入れ

実習希望者から下記の学生を受け入れ、2の内容で実習を実施した。

1 実習期間及び実習生

第1期 7月24日（月）—7月28日（土）

板井利恵 共立女子大学家政学部生活美術学科4年
 稲垣知佐子 武蔵野美術大学造形学部油絵学科4年
 春日井静香 金沢美術工芸大学美術工芸学部美術学科絵画専攻（油絵）4年
 中村美穂子 群馬県立女子大学文学部美学美術史学科4年
 肥後知沙 名古屋大学院文学部研究科美学美術史専攻博士前期

三浦乃利子 名古屋大学大学院文学部研究科美学美術史専攻博士前期

荒木友絵 名古屋芸術大学美術学部絵画科4年

第2期 8月7日（月）—8月11日（土）

小出香織 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科4年
 近藤美穂 明星大学日本文化部生活芸術学科4年
 濱淵真弓 大阪芸術大学大学院芸術文化研究科博士課程前期

原田真千子 金沢美術工芸大学美術工芸学部美術学科芸術学専攻4年

村山紀子 名古屋大学大学院文学部研究科美学美術史専攻博士前期

和田順子 跡見学園女子大学国文科卒業

2 実習内容および指導者（基本的に講義形式で各期とも同じ）

月 午前：1.自己紹介／美術館スタッフ紹介

2.美術館についての総論（長谷川副館長）

午後：1.美術館概要／館内案内（高橋）

2.作品収集について（牧野）

火 午前：1.開錠業務立会い

2.所蔵品展示について（寺門）

午後：1.実習課題について

（企画展プランニング／所蔵作品の展示解説／教育用ワークシートのプランニング）

（高橋）

2.課題研究

水 午前：1.開錠業務立会い

2.課題研究

午後：1.企画展の進行について（高橋）

2.企画展の広報について（拝戸）

木 午前：1.開錠業務立会い

2.課題研究

午後：1.美術館の環境と美術品の保存について

（高橋／村田）

2.作品の取扱いについて（村田）

金 午前：1.開錠業務立会い

2.美術館の教育普及活動について（村田）

午後：1.レポート作成

2.課題提出、発表会（高橋、村田）

なお、愛知県美術館における博物館実習生受け入れについては、下記のように行っている。

・受け入れの対象者について

- 1) 美学・美術史専攻の者を優先する。
- 2) 将来美術館への就職を強く希望している者を優先する。
- 3) 大学院生を優先する。
- 4) 愛知県美術館の実習期間に参加可能な者。（例年は7月下旬から8月上旬）
- 5) 年間の受け入れ人数は8名程度を基本とする。
- 6) 一度受け入れた大学であっても、それを翌年度以降の受け入れ枠とはしない。

・実習生の受け入れ手順

- 1) 前年度3月31日までに希望者本人から履歴書と成績証明書添えて希望書の提出を受ける。
- 2) 新年度になったら、美術館内部で書類選考し、4月中を目処に希望者本人に内定通知する。
- 3) 内定通知後、大学の教務から館長宛に正式な依頼状の提出を受ける。
- 4) 正式依頼状に対して、芸術文化センター内での決裁をし、正式決定後、大学に通知する。

調査研究

Research

美術館活動の基本として、さまざまなテーマによる調査研究を実施した。その概要は、次のとおりである。

● 所蔵作品に関すること

各学芸員の専門分野に応じて所蔵作品に関するさまざまな角度からの研究を実施した。また、所蔵作品展で実施しているテーマ展のための作家調査なども実施した。

● 展覧会に関する調査・研究発表

各展覧会の開催を計画するにあたりその内容についての研究を進め、その研究成果を展覧会内容ならびにカタログに反映させた。

● 作品の保存に関すること

保存担当学芸員が中心となり、所蔵作品ならびに各企画展の作品保存について調査研究を進めた。

また、作品修復に関する問題、作品の保存ならびに展示環境の整備についても調査と研究を行った。

● 教育普及に関すること

近年、各方面から関心が寄せられている美術館教育の問題について、教育普及担当学芸員を中心に調査研究を進めた。その主たるテーマは、鑑賞教育に関すること、また、映像・情報機器による鑑賞教育の研究である。

● その他

調査研究事業実施状況

1 所蔵品等に関すること

(1) 研究発表

長谷川三郎・「新収蔵作品 オーギュスト・ロダン《歩く人》」
『愛知県美術館研究紀要』第3号所収

牧野研一郎・「新収蔵作品 高橋由一《不忍池》」
『愛知県美術館研究紀要』第3号所収

村上博哉・「マックス・エルンスト《ポーランドの騎士》」
『愛知県美術館研究紀要』第3号所収

2 展覧会に関する調査・研究発表(刊行、各所載頁順)

浅野徹・「フランツ・ゲルチュとの出会い《ナターシャⅣ》
と《シュヴァルツヴァッサー》」
『フランツ・ゲルチュ』(1995年5月)所収

牧野研一郎・韓国現代美術の調査研究

・「日本帰帰をめぐって」「作家解説」
『環流-日韓現代美術展』(1995年7月)所収

拝戸雅彦・「作家解説」
『環流-日韓現代美術展』(1995年7月)所収

高橋秀治・「ベン・シャーン…「意味」を持つ絵画」
『ベン・シャーンのドローイング』(1995年9月)所収

深山孝彰・「自然と画家の「気」の融合」

『堀美幸』(1995年10月)所収

長谷川三郎・「レームブルックの芸術」

『表現主義彫刻』(1996年10月)所収

寺門臨太郎・「ジョルジュ・ミンヌと表現主義」

「章解説」「作品解説」「作家解説」

「Selected Bibliography and Exhibition History」

『表現主義彫刻』(1995年10月)所収

古田浩俊・「表現主義とチェコのアヴァンギャルド・キュビズムの受容をめぐって」

「章解説」「作品解説」「作家解説」

『表現主義彫刻』(1995年10月)所収

深山孝彰・「章解説」「作品解説」「作家解説」

『表現主義彫刻』(1995年10月)所収

拝戸雅彦・「フランク・ステラの二つの壁」

・『リチャード・マイヤーとフランク・ステラー建築と絵画の接点』(1996年2月)所収

栗田秀法・「バロック美術の展開と素描」「作品解説」

『大英博物館所蔵イタリア素描展』

(1996年2月)所収

村田真宏・北川民次に関する調査。1995年11月にアメリカ・メキシコにおいて現地調査を実施

坂下雄彦・富岡鉄斎調査

木本文平・藤井達吉調査

富岡鉄斎調査

3 作品の保存に関すること

長屋菜津子・作品状態調査

・作品環境調査

4 教育普及に関すること

(1) 美術館教育に関する研究

藤島美菜・「第3回愛知県美術館移動美術展について-学校対応と小中学生向け学年別鑑賞ガイドについて」
(1996年1月)

第11回アミューズヴィジョン研究会報告

5 その他

村上博哉・「自治省の地方公務員海外派遣プログラム(美術学芸研究員)による海外派遣」

1995年5月から1996年3月まで、パリ国立近代美術館

村田真宏・「阪神大震災美術館・博物館総合調査」(全国美術館会議)に参加し、『阪神大震災美術館・博物館総合調査報告1』の調査報告執筆に加わる。

村田真宏・シンポジウム「阪神大震災と美術館をめぐって」にパネラーとして参加。1995年10月13日全国美術館会議

古田浩俊 ・「フランティšek・クプカの造形に見られるチェ
コ美術の役割」

『鹿島美術研究年報』第12号別冊

(1995年11月)所収

寺門臨太郎・「仲田定之助とドイツ前衛美術」

『鹿島美術研究年報』第12号別冊

(1995年11月)所収

1 展示室利用状況
 (単位：日数)

月別	区分	利用可能日数	利用日数 b	利用 率 b/a	展示室別利用日数										審査保管室	
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J		
					第1	第2										
1995年1月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	5	9	
2月	24	24	100.0	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	0	0	
3月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	2	15	
4月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	9	16	
5月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	23	10	
6月	23	23	100.0	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	5	6	
7月	23	23	100.0	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	16	30	
8月	27	27	100.0	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	6	24	
9月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	3	27	
10月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	15	13	
11月	26	26	100.0	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	8	2	
12月	23	23	100.0	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	0	0	
計	301	301	100.0											92	152	

2 展覧会種別利用状況及び入場者数

区分 月別	展覧会種別利用件数(件)								入場者 (人)
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	
1995年1月	2	5	—	1	1	—	—	9	151,119
2月	2	—	—	—	1	2	—	5	20,405
3月	2	5	—	—	4	1	1	13	39,935
4月	4	4	—	1	3	—	—	12	38,232
5月	5	6	2	1	4	—	—	18	60,819
6月	2	5	2		2	—	—	11	27,422
7月	4	6	—	2	6	—	1	19	41,523
8月	7	6	—	—	2	—	1	16	49,050
9月	4	8	—	—	4	1	2	19	56,651
10月	7	5	—	2	2	1	—	17	58,553
11月	4	5	—		4	—	—	13	39,323
12月	4	4	—	—	3	1	—	12	27,321
計	47	59	4	7	36	6	5	164	610,353

注記：総合展とは、複数の種別にまたがる展覧会であり、規模の大小に関係ない。
 件数及び入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理している。

3 展覧会種別利用状況及び入場者数（1992/10 - 1995/3）

	展覧会種別利用件数								ギャラリー展示室（A - J室）		
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	利用日数	入場者数	一日平均(人)
1992年度 1992/10－1993／3	17	18	0	2	10	5	2	54	125	436,179	3,489
1993年度 1993/4－1994／3	54	60	4	6	37	6	7	174	298	804,687	2,700
1994年度 1994/4－1995／3	52	54	4	5	33	6	5	159	298	958,886	3,217

美術館ギャラリー Galleries for Loan

1995年度ギャラリー展示室利用団体一覧表

[illegible]

[illegible]

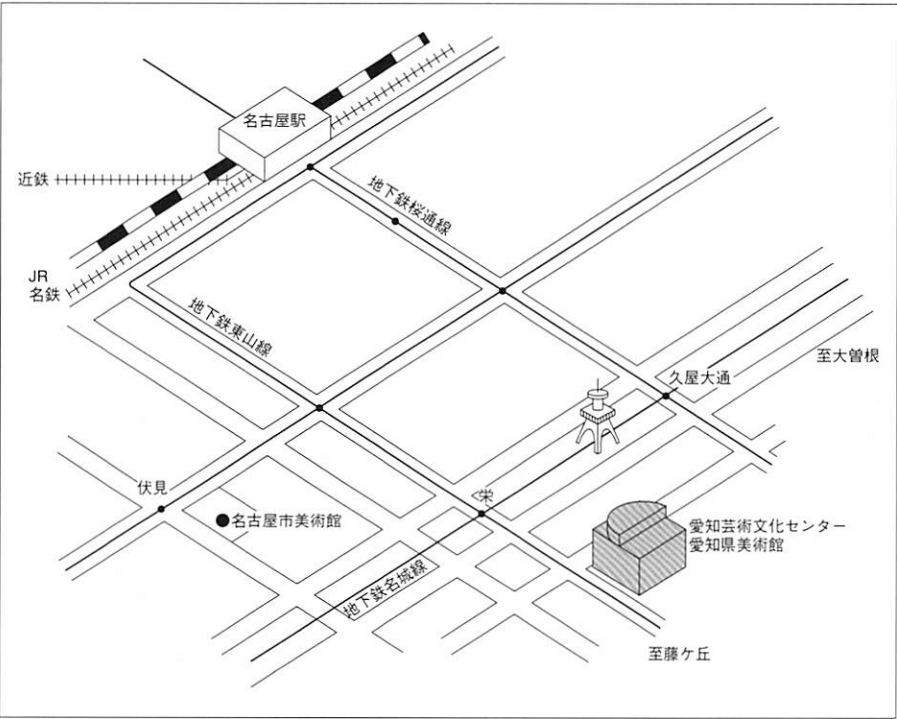
美術館利用案内 Information

- 開館時間 午前10時～午後6時（入館は5時30分まで）
金曜日は午後8時まで夜間開館（入館は7時30分まで）
- 休 館 日 月曜日（国民の休日の場合はその翌日）、年末年始（12月28日～1月3日）、整理期間
- 観 覧 料 （1人1回につき）

区 分	所蔵作品展示		企画展示
	個人	団体	
小・中学生	無	料	2,000円以内で知事が定める額
高・大学生	300円	240円	
一 般	500円	400円	

- 交通案内 ・地下鉄
東山線・名城線「栄」下車、東へ徒歩3分
桜通線・名城線「久屋大通」下車、南へ徒歩10分
名鉄瀬戸線「栄町」下車、東へ徒歩3分
・駐車場（有料）
約600台（地下）
- 所 在 地 ・〒461 名古屋市東区東桜一丁目13番2号
TEL 052(971)5511(代)
FAX 052(971)5604

地図



施設概要（展示・保存環境等）

Facilities and Equipment

1 展示室

ワイヤーによる壁面展示、小型作品は壁面釘止め可能
固定展示ケースほか移動型展示ケース、展示台等保有

区分	室名	固定壁長	可動壁長	ケース長	床材	天井高	積荷重 t/m ³
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1	68.0	25.2	28.0	タイルカーペット	4.50	1
	展示室2	102.0	126.5	28.5	タイルカーペット	5.50	1
	展示室3	32.5	—	—	タイルカーペット	3.50	1
	展示室4	53.2	24.0	17.5	ナラフローリング	5.35	1
	展示室5	82.5	67.0	21.0	ナラフローリング	6.00	1
	展示室6	32.2	—	—	タイルカーペット	6.25	0.5
	展示室7	37.0	—	20.0	タイルカーペット	4.00	1
	展示室8	36.8	—	20.5	タイルカーペット	4.50	1
	前室2	—	—	3.6	タイルカーペット	—	—
ギャラリー展示室（8階）	展示室A	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室B	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室C	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室D	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室E	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室F	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室G	79.0	30.0	—	長尺シート	4.90	1
	展示室H	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.50	1
	展示室I	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室J	70.0	—	—	長尺シート	5.80	1

(単位：m)

2 照明

区分	部屋名	照明器具
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1～4	ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室5	自然光間接照明 ＋ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室6	スポットライト（昇降トラス）
	展示室7～8	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示ケース	蛍光灯（3,000ケルビン） ＋スポットライト（着脱式）
ギャラリー展示室（8階）	展示室A～I	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室G	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（昇降トラス）
	展示室J	光天井（蛍光灯＋ルーバー） ＋スポットライト（着脱式）

すべての紫外線防止、高演色タイプ、無段階調光可能

3 空調

● 美術館（10階）、収蔵庫 ● ギャラリー（8階）
各収蔵庫、展示室及び各展示室で独立空調可能、8
ケースで独立空調可能、24時間時間運転、中性能フィルター装
運転、中性能フィルター及び化備
化学吸着フィルター装備

区 分	展示室1～8	収 納 庫	区 分	展示室A～J
設定温度	夏期 25℃	22℃	設定温度	夏期 25℃
	冬期 22℃			冬期 22℃
温度変化	1日	±1℃	温度変化	1日
設定温度	通年	55%（変更可能）	設定温度	通年
温度変化	1日	±3℃	温度変化	1日

4 収蔵・保管設備

区 分	数	階	備 考
収 蔵 庫	4室	5、6	1,823m ²
企画保管庫	1室	5	178m ²
荷解梱包室	1室	5	94m ²
専用搬入口	2箇所	1	他に1箇所（B5）使用可能
専用昇降機	3機		最大積載量3.5t W3×D4×H3m

5 防災設備・体制

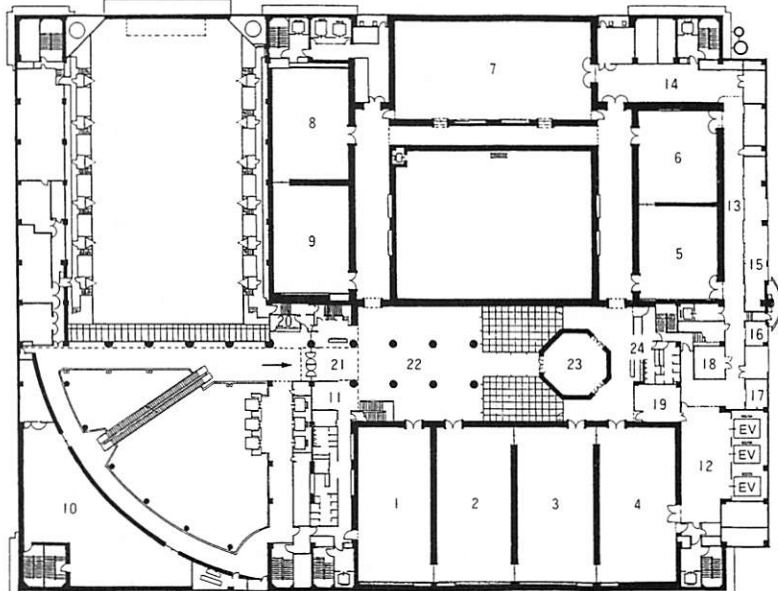
(1) 防火：館内防災センターにて集中管理

区 分	種 別
火災報知器	複合GR
煙感知器	光電式スポット型1、2種他
熱感知器	差動式スポット型2種他
消火装置	ハロンガス消火設備 （展示室、収蔵庫、企画保管庫等）
消火器	ABC型粉末消火器を館内各所に設置

(2) 防犯：館内防災センターにて集中管理

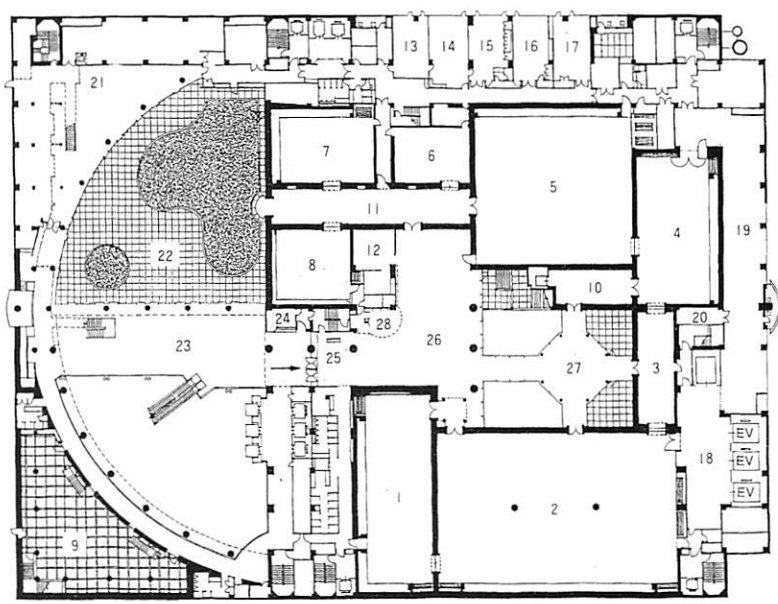
区 分	内 容
警 備	24時間有人警備
展示監視	開館時には常時展示室内に監視員を配置 警備員と職員による随時巡回
監視カメラ	展示室等各所に設置 防災センター、事務室、学芸員室でモニター可能
防犯センサー	赤外線センサー
扉管理	展示室進入経路の各扉には開閉信号取り出し機能
作品センサー	作品取り付けセンターによる防犯システム
防犯ブザー	作品盗難防止用ブザー取り付け可能

平面図



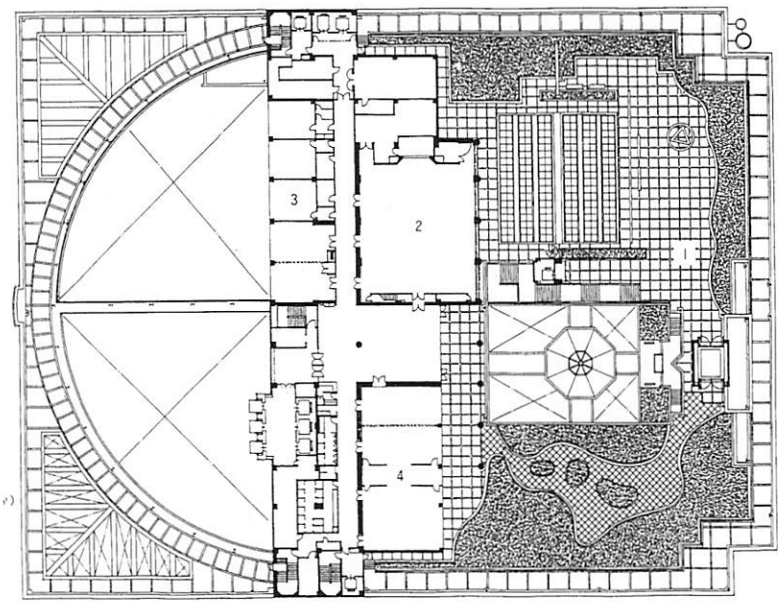
8階

1. 展示室 A (321㎡)
2. 展示室 B (321㎡)
3. 展示室 C (321㎡)
4. 展示室 D (335㎡)
5. 展示室 E (209㎡)
6. 展示室 F (212㎡)
7. 展示室 G (526㎡)
8. 展示室 H (242㎡)
9. 展示室 I (248㎡)
10. 展示室 J (378㎡)
11. 主催者控室
12. バックヤード3 (176㎡)
13. バックヤード4 (145㎡)
14. バックヤード5 (138㎡)
15. 器財倉庫1、2 (56㎡)
16. 機材倉庫3 (16㎡)
17. 機材倉庫4 (20㎡)
18. 機材倉庫5、6 (67㎡)
19. 機材倉庫7 (57㎡)
20. チケット売場
21. インフォメーション
22. ロビー
23. ラウンジ
24. アートショップ



10階

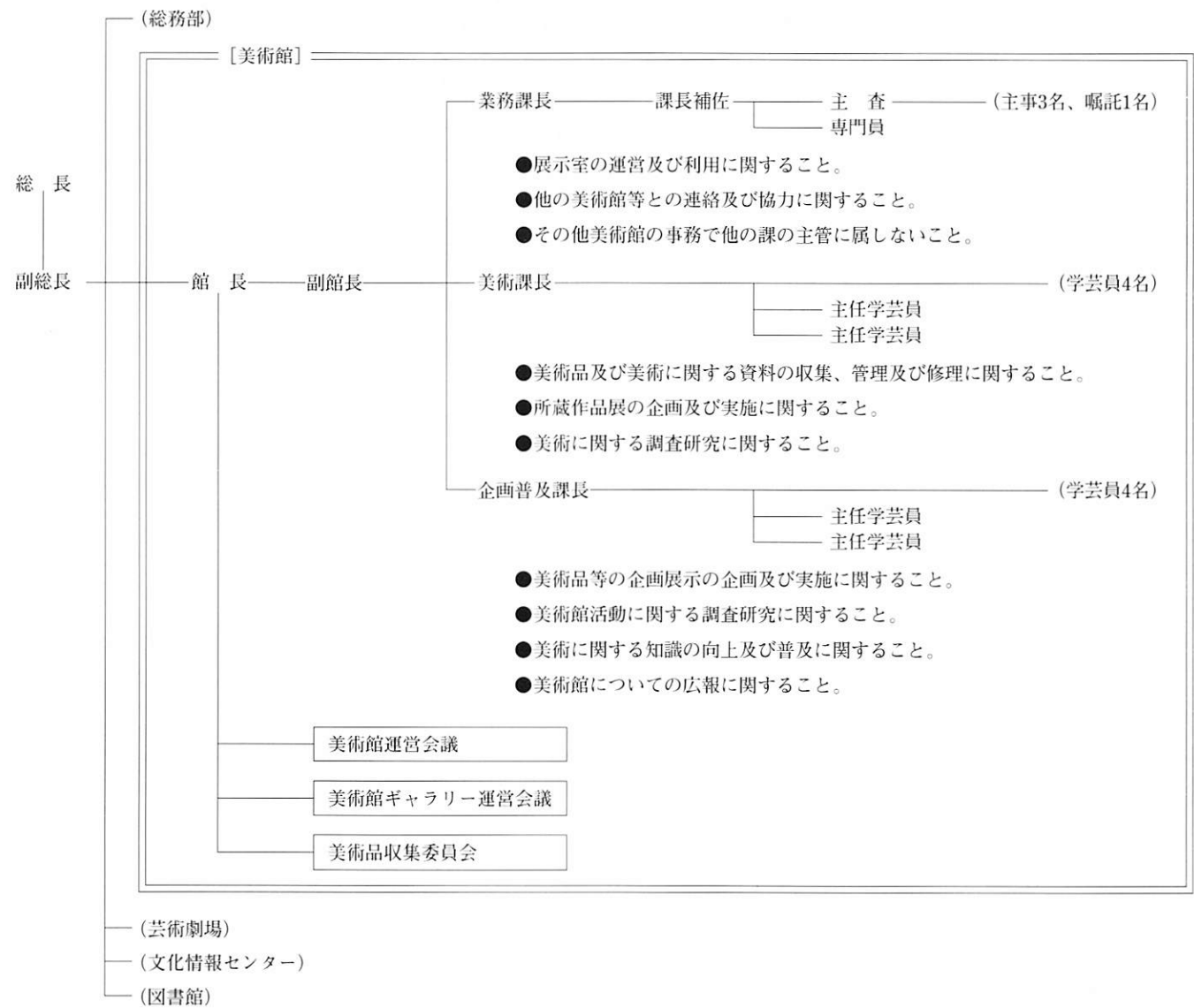
1. 展示室1 (400㎡)
2. 展示室2 (970㎡)
3. 展示室3 (110㎡)
4. 展示室4 (320㎡)
5. 展示室5 (610㎡)
6. 展示室6 (110㎡)
7. 展示室7 (200㎡)
8. 展示室8 (160㎡)
9. 屋外展示スペース (394㎡)
10. 前室1 (78㎡)
11. 前室2 (194㎡)
12. ビデオテーク
13. 監視員控室
14. 業務課
15. 美術館長室
16. 収集審査室
17. 会議室6
18. バックヤード (146㎡)
19. バックヤード (366㎡)
20. 機材倉庫 (17㎡)
21. レストラン
22. 屋上庭園
23. ホール
24. チケット売場
25. インフォメーション
26. ロビー
27. ラウンジ
28. アートショップ



12階

1. 屋上展示スペース (1,142㎡)
2. *アートスペースA
3. *アートスペースB~F
4. *アートスペースG、H
- 文化情報センター施設

組織図 Organization



愛知県美術職員名簿 (1996年3月)

館長	浅野 徹	主任学芸員	木本 文平
副館長	長谷川三郎	学芸員	村上 博哉
業務課長	柴原 知幸	〃	深山 孝彰
課長補佐	榊原 勝雄	〃	寺門臨太郎
主査	成田 佳隆	〃	長屋菜津子
専門員	竜橋 謙	企画普及課長	(副館長兼務)
主事	土屋 仁	主任学芸員	高橋 秀治
〃	高木 伸彦	〃	村田 真宏
〃	小林ひとみ	学芸員	古田 浩俊
嘱託	木全 康一	〃	栗田 秀法
美術課長	坂下 雄彦	〃	拝戸 雅彦
主任学芸員	牧野研一郎	〃	藤島 美菜

関係委員会名簿(1996年3月)

Members of Commitees and the Personnel

愛知県美術館運営会議委員名簿

秋田 一彦	愛知県文化振興局長
遠藤 恒雄	愛知県立芸術大学教授
陰里 鐵郎	横浜美術館長
笠井 誠一	愛知県立芸術大学教授
剣持 一郎	名古屋市美術館長
酒井 哲朗	三重県立美術館長
柴田 茂	愛知県文化振興事業団事務局長
清水 武	名古屋市博物館長
千足 伸行	成城大学教授
建畠 嘉門	愛知県立芸術大学教授
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔	美術評論家
森田 恒之	国立民族学博物館教授

ギャラリー運営会議委員名簿

秋田 一彦	愛知県文化振興局長
石黒 鐸二	彫刻家・行動美術協会会員
笠井 誠一	愛知県立芸術大学教授
加藤 清之	陶芸家
柴田 茂	愛知県文化振興事業団事務局長
島田 章三	洋画家・国画会会員
清水 武	名古屋市博物館長
高木 桑風	書家・日展会員
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
松井 和弘	日本画家・創画会会員
山脇 一夫	名古屋市美術館学芸課長

美術品収集委員会委員名簿

内山 武夫	東京国立近代美術館次長
陰里 鐵郎	横浜美術館長
千足 伸行	成城大学教授
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔	美術評論家

関係法規(条例・規則等)

Laws and Regulations

愛知芸術文化センター条例(抜粋)

(設 置)

第1条 芸術文化の振興及び普及を図るため、愛知芸術文化センター(以下「センター」という。)を設置する。

2 センターは、次に掲げる施設をもって構成する。

- (1) 愛知県美術館
- (2) 愛知県芸術劇場
- (3) 愛知県文化情報センター
- (4) 愛知県図書館

(位置及び業務)

第2条 センターの各施設の位置及び業務は、別表第1のとおりとする。

(運 営)

第3条 センターは、センターを構成する各施設相互の連携を図ることにより、芸術文化に関する総合施設として有機的に運営されなければならない。

(職 員)

第4条 センターに、総長その他の職員を置く。

(利用の許可等)

第5条 次に掲げる者は、センターの利用について、各施設の長の許可を受けなければならない。

- (1) 愛知県美術館の展示室を利用して、展覧会を行おうとする者
- (2) 愛知県芸術劇場のホール又はリハーサル室を利用して、舞台芸術の公演、国際会議等を行おうとする者
- (3) 愛知県文化情報センターの催事室を利用して、講演会、展示会等を行おうとする者

2 各施設の長は、施設の管理上必要があるときは、前項の許可に条件を付けることができる。

(使用料)

第6条 前条第1項の許可を受けた者からは、別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 使用料は、当該施設の利用開始日までに、知事が指定する日までに、納付しなければならない。

3 納付された使用料は、次に掲げる場合を除き、還付しない。

- (1) 第9条第2項の規定により、知事が公共の福祉のために許可を取り消し、又は利用の中止を命じたとき。
- (2) 前条第1項の許可を受けた者が各施設の長の承認を受けて利用を中止したとき。

4 知事は、災害その他の特別の理由がある者に対しては、使用料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を延期することができる。

5 使用料を納期限までに納付しなかった者からは、納付すべき金額(千円未満の端数金額及び千円未満の金額は、切り捨て。)に、当該期限の翌日から納付の日までの期間の日数に応じ、年14.5パーセントの割合を乗じて計算した金額に相当する延滞金を徴収する。ただし、延滞金に百円未満の端数があるとき、又は延滞金に百円未満であるときは、その端数金額又は、その全額を切り捨てる。

6 第4項の規定は、前項の延滞金について準用する。

(観覧料)

第7条 愛知県美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者は、別表第3に定める額の観覧料を納付しなければならない。

ただし、次に定める者は、この限りでない。

- (1) 小学校就学前の者
- (2) 常設展示を観覧しようとする中学生及び小学生
- (3) 学校行事として常設展示を観覧しようとする高校生
- (4) 学校行事として常設展を観覧しようとする高校生、中学生又は小学生の引率者

2 納付された観覧料は、特別の理由がある場合を除き、還付しない。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(利用者の義務)

第8条 センターの利用者は、センターの利用に際しては、この条例及びこれに基づく規則の規定並びに第5条第2項の規定により許可に付けられた条件及び関係職員の指示に従うとともに、センターの秩序を乱すような行為をしては

ならない。

(許可の取消し及び利用の中止命令)

第9条 各施設の長は、センターの利用者が前条の規定に違反したときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

2 知事は、公共の福祉のためやむを得ない理由があるときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

(規則への委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、センターの利用条件その他センターの管理に関し必要な事項は、規則で定める。

(過 料)

第11条 詐偽その他不正の行為により、第6条の規定による使用料又は第7条の規定による観覧料の徴収を免れた者に対しては、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料を科する。

2 前項に定めるものを除くほか、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、一万円以下の過料を科する。

- (1) 第5条第2項の規定により許可に付けられた条件に違反してセンターを利用した者
- (2) 第9条の規定による許可の取消し又は利用の中止命令に違反してセンターを利用した者
- (3) その他不正の方法により許可を受けてセンターを利用した者

3 第8条の規定に違反してセンターの秩序を乱した者に対しては、五千円以下の過料を科する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第5条及び第7条の規定並びに別表愛知県図書館の項業務の欄の規定中県民の利用に関する部分は同月20日から、第1条第2項第1号から第3号まで及び同表愛知県美術館の項から愛知県文化情報センターの項までの規定は規則で定める日から施行する。

附 則

この条例は、平成4年10月30日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成6年7月1日から施行する。ただし、附則第3項(中略)の規定は公布の日(中略)から施行する。

別表第1(第2条関係)抜粋

施設の名称	位 置	業 務
愛知県美術館	名古屋市東区	(1) 美術品及び美術に関する史料を収集し、保管し及び展示すること。 (2) 美術に関する調査研究を行うこと。 (3) 展示室を利用させること。

別表第2（第6条関係）抜粋
愛知県美術館 展示室使用料

区分		単位	使用料の額(単位円)
A室、B室又はC室		全日	13,500
		時間外1時間につき	2,000
D室		全日	14,100
		時間外1時間につき	2,100
E室		全日	8,800
		時間外1時間につき	1,300
F室		全日	8,900
		時間外1時間につき	1,300
G室	全部利用	全日	22,100
		時間外1時間につき	3,300
	2分の1利用	全日	11,000
		時間外1時間につき	1,700
H室		全日	10,200
		時間外1時間につき	1,500
I室		全日	10,400
		時間外1時間につき	1,600
J室	全部利用	全日	9,500
		時間外1時間につき	1,400
	2分の1利用	全日	4,700
		時間外1時間につき	700
附属第1審査保管室	全部利用	全日	5,200
		時間外1時間につき	800
	2分の1利用	全日	2,600
		時間外1時間につき	400
附属第2審査保管室	全部利用	全日	4,400
		時間外1時間につき	700
	2分の1利用	全日	2,200
		時間外1時間につき	300

備考

- (1) この表において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。
- イ〜ハ省略
- ニ 全日 愛知県美術館にあっては午前10時から午後6時(金曜日にあっては、午後8時)までを、愛知県芸術劇場にあっては午前9時から午後10時までを、愛知県文化情報センターにあっては午前9時〜午後9時までをいう。
- ホ 時間外 愛知県美術館にあっては午後6時(金曜日にあっては、午後8時)以後を、愛知県芸術劇場にあっては午後10時以後を、愛知県文化情報センターにあっては午後9時以後をいう。
- (2) 特別の設備又は器具を設けて電力又は水道を使用する場合の使用料の額は、この表に定める額に実費として知事が定める額を加算した額とする。

表第3（第7条関係）

区 分			単 位	観覧料の額(単位)
常設 展示	個 人	大学生又は高校生	1人1回につき	300
		そ の 他 の 者	1人1回につき	500
	団 体 (20人以上)	大学生又は高校生	1人1回につき	240
		そ の 他 の 者	1人1回につき	400
企 画 展 示			1人1回につき	2,000円以内でその 都度知事が定める額

愛知芸術文化センター管理規則(抜粋)

目次

- 第1章 総則(第1条)
- 第2章 センターの管理
- 第1節 通則(第2条〜第4条)
- 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
- 第1款 利用期間(第5条)

- 第2款 利用の許可等(第6条〜第10条)
- 第3款 美術品等の観覧及び模写等(第11条〜第13条)
- 第4款 文化情報センターの図書等の利用(第14条〜第23条)
- 第3節 図書館の管理
- 第1款 図書等の館内利用(第24条〜第26条)
- 第2款 図書等の館外貸出し(第27条〜第30条)
- 第3款 図書等の郵送による貸出し(第31条〜第33条)
- 第4款 利用の停止(第34条)
- 第3章 雑則(第35条・第36条)
- 附則

- 第1章 総則
- (趣 旨)
- 第1条 この規則は、愛知芸術文化センター(以下「センター」という。)の管理に関する事項を定めるものとする。
- 第2章 センターの管理
- 第1節 通則
- (休館日)
- 第2条 センターの各施設の休館日は、次のとおりとする。

愛知県美術館 (以下「美術館」という。)	月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。))に該当する場合はその翌日以降の最初の休日でない日) 12月28日から翌年1月3日まで
-------------------------	--

- 2 総長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の休館日を変更し、又は休館日を設けることができる。
- (利用時間)
- 第3条 センターの各施設の利用時間は、次のとおりとする。

美術館	午前10時から午後6時(金曜日にあっては、午後8時)まで
-----	------------------------------

- 2 美術館が主催して展示する美術品等を観覧するため美術館に入館できる時間(次項において「入館時間」という。))は、午前10時から午後5時30分(金曜日にあっては、午後7時30分)までとする。
- 3 センターの各施設の長は、必要があると認めるときは、臨時に第1項の利用時間又は入館時間を変更することができる。
- (入館の禁止等)
- 第4条 総長及びセンターの各施設の長は、めいてい者その他センターの秩序を乱し、若しくは乱すおそれがある者又はセンターの施設に損害を加え、若しくは加えるおそれのある者に対し、センターへの立入りを禁じ、又は立ち退かせることができる。

- 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
- 第1款 利用期間
- (利用期間)
- 第5条 美術館、芸術劇場及び文化情報センター(以下「美術館等」という。)の利用期間は、次のとおりとする。

美術館	
展示室	35日以内
展示室附属審査保管室	20日以内

- 2 美術館等の長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の利用期間を変更することができる。
- 第2款 利用の許可等
- (利用の許可)
- 第6条 愛知芸術文化センター条例(平成3年愛知県条例第2号。以下「条例」という。))第5条第1項の許可を受けようとする者は、利用許可申請書(様式第1)を美術館等の長に提出しなければならない。
- 2 美術館等の長は、前項の規定により利用許可申請書を提出した者について利用を許可したときは、利用許可書(様式第2)を交付するものとする。
- 3 前2項の規定により利用の許可を受けた者(以下「利用者」という。))の美術館等を利用する権利は、他人に譲渡し、又は転貸することができない。
- (利用の変更の許可)

第7条 利用者は、利用期間その他利用許可書に記載された事項を変更しようとするときは、利用変更許可申請書(様式第3)に利用許可書を添えて美術館等の長に提出しその許可を受けなければならない。

(利用の取消しの承認)

第8条 利用者は、美術館等の利用の取消しをしようとするときは、利用取消承認申請書(様式第4)に利用許可書を添えて速やかに美術館等の長に提出し、その承認を受けなければならない。

(利用後の届出)

第9条 利用者は、美術館等の利用を終わり、又は利用を中止したときは、速やかに利用した設備を原状に回復し、その旨を美術館等の長に届け出なければならない。

(指示及び調査)

第10条 美術館等の長は、美術館等の秩序の維持及び美術館等の管理上必要があると認めるときは、利用者に対し美術館等の利用に関し、指示をし、又は利用中の施設に職員を立ち入らせ、利用の状況を調査させることができる。

第3款 美術品等の観覧及び模写等

(観覧券の交付)

第11条 美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者(条例第7条第1項ただし書きに規定する者及び同条第3項の規定により観覧料の全部を免除された者を除く。)は、観覧料の納付と引換えに観覧券(様式第5)の交付を受けるものとする。

2 団体に観覧券の交付を受けようとするときは、その団体の代表者は、あらかじめ団体観覧券交付申込書(様式第6)を美術館長に提出しなければならない。

(学校行事の観覧)

第12条 高等学校、中学校又は小学校の学校行事として常設展示を観覧しようとする者は、あらかじめ学校行事観覧届(様式第7)を美術館長に提出しなければならない。

(模写等の許可)

第13条 美術館が主催して展示する美術品等の模写及び複写をしようとする者は、美術品等模写等許可申請書(様式第9)を美術館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 美術館長は、模写等を許可するときは、美術品等模写等許可書(様式第10)を交付するものとする。

第3章 雑則

(損害賠償)

第35条 センターを利用する者は、故意又は過失によってセンターの施設、附属設備、美術品等及び図書等を損傷し、滅失し、又は忘失したときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。

(雑 則)

第36条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、総長が定める。ただし、次に掲げる利用等に関し必要な事項は、センターの各施設の長が定める。

- (1) 美術館の展示室の利用
- (2) 美術品等の模写及び複写
- (3) 芸術劇場のホール及びリハーサル室の利用
- (4) 文化情報センターの催事室及びアートプラザの利用
- (5) 文化情報センター及び図書館の図書等の利用

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成4年10月30日から施行する。

(愛知芸術文化センター愛知県図書館規則の廃止)

2 愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(平成3年愛知県規則第41号)は、廃止する。

(経過措置)

3 この規則の施行の際、現に前項の規定による廃止前の愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(以下「旧規則」という。)第9条第1項の規定により交付を受けている利用カードは、第29条の規定により交付を受けた利用カードとみなす。

4 この規則の施行の際、現に旧規則の規定に基づきなされている図書等の館外貸出し、図書等の郵送による貸出し又は郵送貸出しの登録は、この規則の相当規定に基づきなされたものとみなす。

(愛知県公印規則の一部改正)

5 愛知県公印規則(昭和30年愛知県規則第1号)の一部を次のように改正する。
第2条に次の1号を加える。

(12) 愛知芸術文化センターの各施設(愛知県図書館を除く。)の長の印

附 則

1 この規則は、平成6年7月1日から施行する。

2 この規則の施行の際、現に改正前の愛知芸術文化センター管理規則の規定に基づいて作成されている申請書等の用紙は、改正後の愛知芸術文化センター管理規則の規定にかかわらず、当分の間、使用することができる。

愛知県美術館運営会議設置要領

(目的)

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館(以下「美術館」という。)の円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館運営会議(以下「運営会議」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 運営会議は、次の事項について協議する。

- (1) 美術館の運営に関すること。
- (2) 企画展、常設展及び教育普及事業等の美術館の事業に関すること。
- (3) その他必要と認められる事項

(構成員)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 美術館関係者
- (3) 県関係者
- (4) その他愛知県美術館長が適当と認める者

2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長等)

第5条 運営会議に会長を置く。

- 2 会長は、委員の互選により選出する。
- 3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。
- 4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、会長の職務を代理する。

(召集)

第6条 運営会議は、会長が召集する。

(事務)

第7条 運営会議の事務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館美術品収集委員会開催要項

(設 置)

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館において収蔵しようとする美術品及び美術に関する資料(以下「美術品」という。)の選定に関する事務を適正かつ円滑に行うため愛知県美術館美術品収集委員会(以下「収集委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 収集委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 購入する美術品の選定及び評価に関すること。
- (2) 寄贈又は寄託に係る美術品の受入れに関すること。
- (3) 美術品の処分に関すること。

(組 織)

第3条 収集委員会は、7人以内の委員で組織する。

2 委員は、美術に関する専門知識を有する者のうちから、愛知芸術文化センター総長(以下「総長」という。)が依頼する。

3 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、

前任者の残任期間とする。

4 委員は再任されることができる。ただし、当該委員の年齢が、70歳を越えた場合はこの限りではない。

(委員長)

第4条 収集委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により定める。

2 委員長は、収集委員会の会議を主宰する。ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 収集委員会は、委員長が招集する。

2 収集委員会は、委員の半数が出席しなければ開くことができない。

3 収集委員会は、必要があると認めるときは、委員でない者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(評価員)

第6条 収集委員会は、美術品の評価に関し、必要があると認めるときは、総長に対して、特別評価員(以下「評価員」という。)の評価を要請することができる。

2 評価員は、その都度次の各号に掲げる要件を備える者のうちから、3人以内を総長が依頼する。

- (1) 当該美術品に関して、専門的知識を有すること。
- (2) 人格が高潔であり、かつ、公正な判断ができること。
- (3) 当該美術品と利害関係を有しないこと。

(庶務)

第7条 収集委員会の庶務は、美術館において処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか収集委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、昭和63年6月15日から施行する。

附 則

この要項は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成4年10月30日から施行する。

愛知芸術文化センター愛知県美術館所蔵品貸出要領

(目的)

第1条 この要領は、県が愛知県美術館の所蔵品とするために収集した美術品等(以下「美術品等」という。)の貸出しに関し、必要な事項を定めるものとする。

(貸出しの承認)

第2条 愛知県美術館長(以下「館長」という。)は、次に掲げるものから美術品等の借用の申請があった場合において、美術文化の普及上適当と認めたときは、無償で美術品等の貸出しを承認することができる。

- (1) 国、公共団体又は公益的団体
- (2) 館長が特に必要と認めたもの

(貸出しの申請)

第3条 美術品等の貸出しを受けようとする者は、次の事項を記載した美術品等借用申請書を館長に提出しなければならない。

- (1) 申請者の住所、団体名及び代表者名
- (2) 借用目的
- (3) 借用期間
- (4) 借用しようとする美術品等の名称及びデータ
- (5) 陳列のための施設及び設備の概要
- (6) 借用期間中の管理の方法
- (7) その他参考となる事項

(貸出期間)

第4条 美術品等の貸出期間は3月以内とする。ただし、館長が必要と認めるときは、貸出期間を延長することができる。

(承認)

第5条 館長は、美術品等の貸出しを承認したときは、申請者に対して承認書を交付するものとする。

(遵守事項)

第6条 美術品等を借り受けるものは、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 美術品等の梱包輸送等に要する一切の費用は、貸出しの承認を受けた者の負担とすること。
- (2) 貸出期間中の美術品等の保管は、貸出しの承認を受けた者の責任とし、亡失、汚損、き損等のあったときは、館長の指示に従い賠償の責を負うものとする。
- (3) 貸出しを承認された美術品等の撮影、模写、印刷物掲載等については、事前に館長と協議すること。
- (4) 美術品等の貸出時及び返還時には、双方の担当者が作品状況を点検確認すること。
- (5) 図録等には、愛知県美術館所蔵品であることを明記すること。
- (6) その他館長が必要と認めて指示した事項

(撮影模写等の承認)

第7条 館長は、前条第3号の協議があった場合において、著作権者の同意のない美術品等については、承認しないものとする。

(美術品等借用書)

第8条 美術品等の貸出しを承認された者は、美術品等借用書を提出し、これと引換えに美術品等を受領しなければならない。

2 館長は、美術品等が返還されたときは、これと引換えに美術品等借用書を返付する。

附 則

この要領は、平成元年12月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

愛知県美術館美術品等寄託受入れ規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、愛知県美術館(以下「美術館」という。)が行う美術品等の受入れの取扱いについて、愛知県財務規則(昭和39年規則第10号)等に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申込み)

第2条 美術館に美術品等の展示等に供するため、長期にわたり保管委託(以下「寄託」という。)しようとする者(以下「寄託者」という。)は、美術品等寄託申請申込書(様式第1)を愛知県美術館長(以下「館長」という。)に提出し、その承認を受けるものとする。

(寄託品の決定)

第3条 館長は、寄託申込書の提出があったときは、その内容を調査し、当該美術品等(以下「寄託品」という。)が次のいずれかに該当するときは、受託承認書(様式第2)を交付するものとする。

- (1) 美術館の展示又は研究の用に供すると認められるもの。
- (2) 美術館に保管することが適当であると認められるもの。
- (3) その他館長が特に必要と認めるもの。

(寄託期間)

第4条 寄託期間は、2年とする。ただし、特別の理由があるときは、その都度協議の上、定めるものとする。

(寄託品の預り及び返還)

第5条 館長は、寄託品を受け入れようとするときは、寄託者に預り証(様式第3)を交付するものとする。

2 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

3 寄託品の返還を受けようとする者が寄託者の代理人であるときは、預り証に、委任状その他これを証する書面を添えるものとする。

(寄託品の取扱い)

第6条 寄託品の保管の責は、館長が負うものとする。ただし、美術館の責めによらない理由による場合は、この限りでない。

(寄託品の荷造り運搬等)

第7条 館長は、寄託品の受入れ及び返還に伴う荷造り運搬等に要する経費の一部又は全部を負担することができる。

(寄託品の変更等)

第8条 寄託者は、次のいずれかに該当するときは、速やかに預り証にその理由を証す書面を添えて館長に提出するものとする。

- (1) 寄託者が、他人に寄託品を譲渡するとき。
- (2) 住所変更など、寄託申込書の記載事項に変更が生じるとき。

(預り証の再交付)

第9条 寄託者が、預り証を亡失又は破損したときは、寄託品預り証再交付願(様式第4)を館長に提出し、再交付を受けるものとする。なお、預り証を破損した場合は、当該預り証を添付するものとする。

(寄託品の一時返還)

第10条 寄託者は、寄託品の一時返還を求めようとするときは、少なくとも返還日の2か月前に寄託品一時返還願(様式第5)を館長に提出するものとする。

2 館長は、寄託品一時返還願の提出があったときは、調査の上、寄託品一時返還承認書(様式第6)を交付するものとする。

3 寄託品の一時返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

(寄託期間内の返還申し出)

第11条 寄託者は、寄託期間中に寄託品の返還を求めようとするときは、少なくとも2か月前に寄託品期間内返還申出書(様式第7)を館長に提出するものとする。

2 館長は、寄託品期間内返還申出書の提出があったときは、調査の上、寄託品期間内返還同意書(様式第8)を交付するものとする。

3 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

(寄託品の借用)

第12条 館長は、展示又は調査研究のため、美術品等を寄託品としてすすんで受け入れようとするときは、当該美術品の所有者(以下「所有者」という。)に寄託品依頼書(様式第9)を提出し、その所有者から承諾書(様式第10)を受けるものとする。

(借用書の発行)

第13条 館長は、承諾書を受けたときは、所有者に借用書(様式第11)を発行するものとする。

(準 用)

第14条 第4条(寄託期間)、第5条第2項(返還)、同条第3項(代理人による返還)及び第6条から第11条(寄託品の取扱い等)までの規定は、美術館がすすんで受け入れようとする寄託品について準用する。この場合において、「預り証」とあるのは、「借用書」と読み替える。

(公表及び写真撮影等)

第15条 館長は、次のいずれかに該当するときは、所有者の承諾を得るものとする。

- (1) 寄託品の所有者名の公表
- (2) 美術館が発行する展覧会目録への掲載、資料としての保管、報道機関に対する資料提供など、美術館が公共の利用に資する目的で行う寄託品の写真撮影、複写等

(補 則)

第16条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は館長が定める。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

(様式の記載は省略)

愛知県美術館ギャラリー運営会議設置要領

(目 的)

第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館(以下「美術館」という。)ギャラリーの円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館ギャラリー運営会議(以下「ギャラリー運営会議」という。)を設置する。

(協議事項)

第2条 ギャラリー運営会議は、次の事項について協議する。

- (1) 美術館ギャラリーの運営に関すること。
- (2) 美術館ギャラリー展示室の利用の調整に関すること。
- (3) その他必要と認められる事項

(構成員)

第3条 ギャラリー運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 美術作家

- (3) 美術館(ギャラリー)関係者
- (4) 県関係者
- (5) その他館長が適当と認める者

2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長等)

第5条 ギャラリー運営会議に会長を置く。

2 会長は、委員の互選により選出する。

3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。

4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。

(召 集)

第6条 ギャラリー運営会議は、会長が召集する。

(事 務)

第7条 ギャラリー運営会議の事務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館ギャラリー展示室等利用受付許可要領

(趣 旨)

第1条 この要領は、愛知芸術文化センター管理規則(以下「規則」という。)第36条の規定に基づき、愛知県美術館ギャラリーの展示室(以下「展示室」という。)及び附属審査保管室(以下「審査保管室」という。)の利用許可等に関し必要な事項を定める。

(利用仮申込書の受付)

第2条 展示室の利用を希望する者は、展示室の利用開始期日の次表に掲げる利用期間に応じて、それぞれ右欄に掲げる仮受付期間(休館日を除く。)に展示室利用仮申込書(以下「仮申込書」という。)を提出するものとする。

利 用 期 間	仮 受 付 期 間
1月4日から6月30日までの間のもの	展示室利用開始予定期日含まれるの年の前年の6月1日から同月20日までの間
7月1日から12月27日までの間のもの	展示室利用開始予定期日の含まれる年の前年の12月1日から同月20日までの間

2 仮申込書の受付時間は、午前10時から午後6時までとする。

(利用許可スケジュール案の作成)

第3条 美術館長(以下「館長」という。)は、前条の仮申込書の受付終了後、それぞれおおむね1か月以内に、展示室利用許可スケジュール案(以下「スケジュール案」という。)を作成する。

2 館長は、スケジュール案の作成に当たっては、関係各展示室利用仮申込者の希望、展示予定作品の種類、点数及び内容並びに過去の利用実績又は各展示室利用仮申込者に係る美術団体の会歴、会員組織、業績等を考慮して、利用させる会場及び利用期間を調整するものとする。

3 館長は、スケジュール案の作成後、愛知県美術館ギャラリー運営会議(以下「ギャラリー運営会議」という。)を開催し、その意見を聴取のうえ、スケジュール案の所要の調整を行い、スケジュール案を確定する。

(利用許可の内で)

第4条 館長は、前条第3項により確定したスケジュール案に基づき、利用許可を内定し、関係各展示室利用仮申込者に対し、利用させる会場、利用期間等を記載した展示室利用許可内定書(以下「内定書」という。)を送付する。

(利用許可申請書の受付)

第5条 前条により内定書の送付を受けた各展示室利用仮申込者は、館長の指定する期日(以下「利用許可申請書提出期日」という。)までに来館のうえ、規則第6条第1項の規定に基づく展示室利用許可申請書(以下「許可申請書」という。)を提出するものとする。

(利用許可書の交付等)

第6条 許可申請書の提出を受けた館長は、各展示室利用仮申込者に対し、規則第

6条第2項の規定に基づく利用許可書を送付する。

(利用の許可を受け得る者の範囲等)

第7条 利用許可を受け得る者は、県民の芸術文化の向上に資すると認められる次の各号に掲げる展覧会を開催しようとする者とする。

- (1) 主要美術団体による全国的又は全県的な規模による創作美術品の一般公募展
- (2) 国、地方公共団体及び公共性を有する機関等による国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会
- (3) その他芸術振興、国際親善等のため適当とみとめられる美術展

(利用許可をしない場合)

第8条 次の各号に掲げる場合には、利用許可をしない。

- (1) 利用許可申請者が、未成年者又は無能力者(禁治産者等)である場合
- (2) 利用許可申請者が、法的又は社会的な責任を十分に取得する者でない場合
- (3) 展示しようとする作品が、「愛知県美術館ギャラリーにおける展示作品の種類、展示の方法、規格基準等」に抵触する場合

(利用許可の優先順位)

第9条 利用許可をするに当たっての優先順位は、原則として次のとおりとする。

- 第1順位 全国的な規模による創作美術品の一般公募及び国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会の開催を目的とする利用
- 第2順位 全県的な規模による創作美術品の一般公募展の開催を目的とする利用
- 第3順位 その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展の開催を目的とする利用

(利用区分)

第10条 展示室の利用許可に当たっては、展示室ごとの利用を許可するほか、複数の展示室の組み合わせの利用を許可する。また、展示室G及びJについては、2分割の利用も許可するものとする。

(利用許可の単位等)

第11条 展示室の利用許可は、休館日の翌日から次の休館日の前日までの期間(以下「単位期間」という。)を最少の期間とし、引き続く4単位期間を限定として、この含まれる日について行う。

2 館長が、作品の搬入、搬出等のため特に必要があると認める期間については、当該期間に限り、前項に規定する限度を超えて、この期間に含まれる日についても、利用許可を行う。

(休館日に係る利用許可)

第12条 休館日については、展示室の利用許可は行わない。ただし、利用者が、展示室の利用開始日から利用終了日までの間に含まれる休館日に作品の展示替え等のために展示室に立ち入る必要がある場合は、この限りではない。

(審査保管室の利用の許可を受け得る者の範囲)

第13条 審査保管室の利用の許可を受け得る者は、展示室の利用の許可を受けた者に限るものとする。

(審査保管室の申込み)

第14条 審査保管室の利用を希望する者は、利用開始日の15日前までに、美術館と協議の上、利用許可申請書を提出するものとする。

(審査保管室の利用許可の単位)

第15条 審査保管室の利用許可は、展覧会の会期中及び前後10日間の期間に限るものとし、20日を限度とする。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

附 則

この要領は、平成7年10月1日から施行する。

愛知県美術館年報	1995年度版
	1996年12月発行
編集・発行	愛知県美術館
	名古屋市東区東桜 1-13-2
	TEL: 052-971-5511
	FAX: 052-971-5604
表紙デザイン・本文レイアウト	小谷恭二
印刷	凸版印刷株式会社

1995 Annual Report, Aichi Prefectural Museum of Art

Edited and published by

Aichi Prefectural Museum of Art

1-13-2 Higashisakura Higashiku, Nagoya, 461, Japan

Designed and layouted by

Kyoji Kotani

Printed by

Toppan Print Co.

©1996

Printed in Japan